

豊橋市埋蔵文化財調査報告書第101集

内田貝塚

－遺構・人工遺物編－

豊橋牟呂坂津土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2009年3月

豊橋市教育委員会

うち だ かい づか
内 田 貝 塚

－ 遺構・人工遺物編 －

豊橋牟呂坂津土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2009年3月

豊橋市教育委員会



内田貝塚(縄文時代貝層)全景(垂直)

カラー写真図版 2



1. 内田貝塚遠景(西から)



2. 内田貝塚遠景(北から)



内田貝塚貝層堆積状況(南東から)

カラー写真図版 4



1. g-10区貝層堆積状況(西から)



2. 内田貝塚基盤(砂堆)全景(南から)



1. 現地説明会遠景(南西から)



2. 現地説明会風景(東から)

カラー写真図版 6



1. 玉1出土状況(南から)



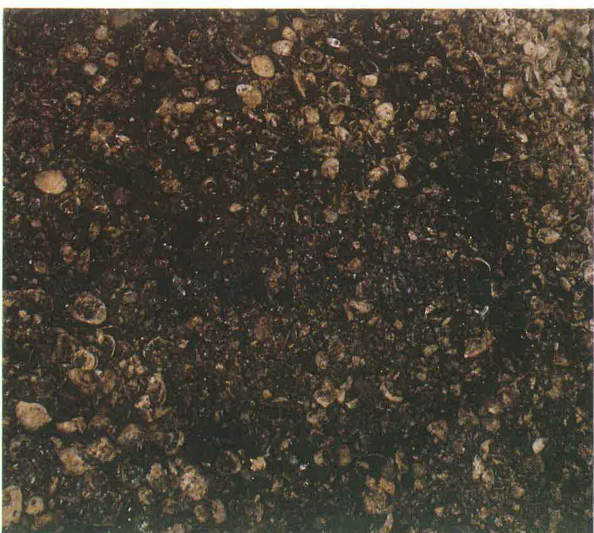
2. 敷石炉-1(東から)



3. 敷石炉-4(南から)



4. 地床炉-158(北から)



5. 地床炉-146(南から)



6. 地床炉-167(南から)



1. S X-252遺物出土状況(全景)



2. S X-252遺物出土状況(近景)



1. S X-253遺物出土状況(近景)



2. 24層遺物出土状況(312・313・314)

例 言

1. 本書は、豊橋市牟呂町字坂津3番地他において牟呂坂津地区土地区画整理事業に伴い事前に発掘調査を実施した若宮遺跡・内田古窯・内田貝塚のうち、内田貝塚の発掘調査報告書である。平成18年度調査は若宮遺跡・内田古窯・内田貝塚を同時に行い、調査期間は平成18年5月9日～平成19年3月30日、調査面積は3,500㎡である。なお、平成18年度当初予定箇所で、平成19年度に繰り越した内田貝塚の調査（調査期間は平成19年4月18日～平成19年5月10日、A地区は調査面積600㎡）についても本書で報告する。

2. 発掘調査は豊橋市教育委員会が行い、岩瀬彰利（当時教育部美術博物館学芸員）、荻谷史穂（教育部美術博物館嘱託員）、高橋和成（当時教育部美術博物館嘱託員）が担当した。遺跡ごとの調査担当は以下のとおりである。

調査年度	遺跡名	調査担当
平成18年度	若宮遺跡	荻谷史穂
平成18年度	内田古窯 1～3号窯	岩瀬彰利
平成18年度	内田古窯 4号窯	荻谷史穂
平成18年度	内田貝塚	岩瀬彰利・荻谷史穂
平成19年度	内田貝塚(A地区)	岩瀬彰利・高橋和成

3. 発掘調査に際して、多くの土地所有者をはじめ、地元の方々のご理解・ご協力を頂いた。本書の執筆に際して、伊藤正人（名古屋市教育委員会）、長田友也（南山大学）、川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）から玉稿を頂いている。また、池谷信之（沼津市文化財センター）、大塚達朗（南山大学）、瀬戸 茂（名古屋市見晴台考古資料館）、佐野 元（瀬戸市教育委員会）、田村陽一（三重県埋蔵文化財センター）、樋泉岳二（早稲田大学）、長岡朋人（聖マリアンナ医科大学）、西野雅之（千葉県教育文化振興財団）、古谷渉（千葉市教育振興財団）、山本直人（名古屋大学）の各氏にご教示を頂いている。記して感謝の意を表す次第である。

4. 報告書の作成については、井上佳子・竹嶋浩子・平賀静子・補永亨代・大谷孝世・安田明己・原田祥子の援助を受けた。写真撮影については、発掘調査は各担当が行ったが、出土遺物は岩原剛（教育部美術博物館）、長田友也、川添和暁が、航空写真撮影は株式会社GIS中部が行った。

5. 本書の執筆は以下のとおりである。第3章4、第4章5については、荻谷史穂の原稿をもとに賛元洋が加筆・編集した。全体の編集は岩瀬、賛、岩原が行った。

第3章4、第4章5	荻谷史穂・賛元洋（豊橋市美術博物館）
第4章2	長田友也（南山大学）
第4章3	川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）
第4章4	伊藤正人（名古屋市教育委員会）
上記以外	岩瀬彰利（教育部学校教育課）

6. 調査区に使用した座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠し、これを示した。本書に使用した方位はこの座標系に沿うものである。遺構・遺物のスケールについてはそれぞれに明示した。写真の縮尺は任意である。

7. 調査にあたって作成した写真・カールスライド・実測図等の記録や出土遺物は、豊橋市教育委員会において保管・管理している。

目 次

第1章 遺跡の立地と歴史的環境

1. 遺跡の立地	1
2. 歴史的環境	3

第2章 調査の経過

1. 調査に至る経過	6
2. 調査の方法	8

第3章 貝塚の構造

1. 貝塚の規模	10
2. 貝層の層序及び様相	17
3. 縄文時代の遺構	55
4. 弥生時代以降の遺構	66

第4章 人工遺物

1. 縄文土器	81
2. 石器	140
3. 骨角器・貝製品	149
4. 玉	156
5. 弥生時代以降の遺物	158

報告書抄録	巻末
-------------	----

奥付

挿 図 目 次

第1図 内田貝塚周辺地形分類図（1／20,000）	1
第2図 縄文時代晩期の内田貝塚周辺地形推定図（1／6,000）	2
第3図 内田貝塚周辺主要遺跡分布図（1／15,000）	5
第4図 内田貝塚位置図（1／2,500）	6
第5図 調査区位置図（1／1,500）	7
第6図 内田貝塚グリッド設定図	8
第7図 貝塚基盤（地山）測量図（1／400）	11

第8図	調査区内縄文時代貝層範囲図 (1/200)	12
第9図	縄文時代貝塚範囲推定図 (1/400)	13
第10図	調査区内古墳時代貝層範囲図 (1/200)	14
第11図	調査区内近世貝層範囲図 (1/200)	15
第12図	貝塚層序模式図	18
第13図	貝層断面図-1 (1/50)	19
第14図	貝層断面図-2 (1/50)	21
第15図	貝層断面図-3 (1/50)	23
第16図	2層遺構・遺物分布図-1 (1/100)	25
第17図	2層遺構・遺物分布図-2 (1/100)	26
第18図	3層遺構・遺物分布図 (1/100)	27
第19図	5層遺構・遺物分布図 (1/100)	28
第20図	6層遺構・遺物分布図 (1/100)	29
第21図	7層遺構・遺物分布図 (1/100)	30
第22図	8層遺構・遺物分布図 (1/100)	31
第23図	10層遺構・遺物分布図 (1/100)	32
第24図	11層遺構・遺物分布図 (1/100)	33
第25図	13層遺構・遺物分布図 (1/100)	34
第26図	14層遺構・遺物分布図 (1/100)	35
第27図	15層遺構・遺物分布図 (1/100)	36
第28図	16層遺構・遺物分布図 (1/100)	36
第29図	17層遺構・遺物分布図 (1/100)	37
第30図	18層遺構・遺物分布図 (1/100)	38
第31図	19層遺構・遺物分布図 (1/100)	38
第32図	20層遺構・遺物分布図 (1/100)	39
第33図	21層遺構・遺物分布図 (1/100)	40
第34図	22層遺構・遺物分布図-1 (1/100)	41
第35図	22層遺構・遺物分布図-2 (1/100)	42
第36図	23層遺構・遺物分布図 (1/100)	43
第37図	24層遺構・遺物分布図 (1/100)	44
第38図	25層遺構・遺物分布図 (1/100)	44
第39図	27層遺構・遺物分布図 (1/100)	44
第40図	26層遺構・遺物分布図 (1/100)	45
第41図	28層遺構・遺物分布図 (1/100)	46
第42図	30層遺構・遺物分布図 (1/100)	47
第43図	31層遺構・遺物分布図 (1/100)	48
第44図	32層遺構・遺物分布図 (1/100)	48
第45図	33層遺構・遺物分布図 (1/100)	48
第46図	34層遺構・遺物分布図 (1/100)	49
第47図	35層遺構・遺物分布図 (1/100)	50
第48図	36層遺構・遺物分布図 (1/100)	51
第49図	37層遺構・遺物分布図 (1/100)	52
第50図	38層遺構・遺物分布図 (1/100)	52

第51図	39層遺構・遺物分布図 (1/100)	53
第52図	40層遺構・遺物分布図 (1/100)	53
第53図	41層遺構・遺物分布図 (1/100)	53
第54図	42層遺構・遺物分布図 (1/100)	54
第55図	43層遺構・遺物分布図 (1/100)	54
第56図	土壌実測図 (1/40)	56
第57図	炉実測図 (1/40)	58
第58図	遺構全体図 (1/400)	67
第59図	S X - 252・253遺物出土状況図 (1/20)	68
第60図	古墳時代貝層平面図 (1/300)	69
第61図	S B - 1、S H - 1平面図 (1/40)	70
第62図	S X - 5平面・断面図 (1/80)	72
第63図	S X - 239平面・断面図 (1/40・1/60)	73
第64図	S X - 250平面・断面図 (1/40)	74
第65図	S Z - 1人骨出土状況図 (1/20)	75
第66図	地点貝層A・B平面図 (1/80)	76
第67図	地点貝層C～G平面・断面図 (1/80)	77
第68図	地点貝層H～J平面・断面図 (1/80)	78
第69図	近世貝層平面図 (1/300)	80
第70図	1層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	98
第71図	1層出土縄文土器 - 2・2層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	99
第72図	2層出土縄文土器実測図 - 2 (1/3)	100
第73図	2層出土縄文土器実測図 - 3 (1/3)	101
第74図	2層出土縄文土器実測図 - 4 (1/3)	102
第75図	2層出土縄文土器実測図 - 5 (1/3)	103
第76図	2層出土縄文土器実測図 - 6 (1/3)	104
第77図	2層出土縄文土器 - 7・3層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	105
第78図	3層出土縄文土器 - 2・5層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	106
第79図	5層出土縄文土器実測図 - 2 (1/3)	107
第80図	6層出土縄文土器実測図 (1/3)	108
第81図	7層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	109
第82図	7層出土縄文土器 - 2・8層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	110
第83図	8層出土縄文土器実測図 - 2 (1/3)	111
第84図	10層出土縄文土器・11層出土縄文土器・12層出土縄文土器実測図 (1/3)	112
第85図	13層出土縄文土器・14層出土縄文土器実測図 (1/3)	113
第86図	16層出土縄文土器・17層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	114
第87図	17層出土縄文土器実測図 - 2 (1/3)	115
第88図	18層出土縄文土器・19層出土縄文土器実測図 (1/3)	116
第89図	20層出土縄文土器・21層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	117
第90図	21層出土縄文土器 - 2・22層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	118
第91図	22層出土縄文土器 - 2・23層出土縄文土器実測図 - 1 (1/3)	119
第92図	23層出土縄文土器実測図 - 2 (1/3)	120
第93図	24層出土縄文土器・25層出土縄文土器実測図 (1/3)	121

第94図	26層出土縄文土器実測図（1／3）	122
第95図	27層出土縄文土器・28層出土縄文土器実測図（1／3）	123
第96図	30層出土縄文土器・31層出土縄文土器・34層出土縄文土器実測図（1／3）	124
第97図	35層出土縄文土器・36層出土縄文土器実測図（1／3）	125
第98図	37層出土縄文土器・38層出土縄文土器実測図（1／3）	126
第99図	39層出土縄文土器・40層出土縄文土器実測図（1／3）	127
第100図	41層出土縄文土器・42層出土縄文土器実測図（1／3）	128
第101図	43層出土縄文土器・45層出土縄文土器実測図（1／3）	129
第102図	石器実測図－1（1／3）	141
第103図	石器実測図－2（1／3）	142
第104図	石器実測図－3（1／3）	144
第105図	石器実測図－4（1／3）	145
第106図	骨角器実測図－1（1／2）	150
第107図	骨角器実測図－2（1／2）	151
第108図	骨角器実測図－3（1／2）	152
第109図	骨角器実測図－4（1／2）	153
第110図	玉実測図（1／1）	156
第111図	弥生時代以降出土遺物－1（1／3）	160
第112図	弥生時代以降出土遺物－2（1／3）	161
第113図	弥生時代以降出土遺物－3（1／3）	162
第114図	弥生時代以降出土遺物－4（1／3）	163
第115図	弥生時代以降出土遺物－5（1／3）	164
第116図	弥生時代以降出土遺物－6（1／3）	165
第117図	弥生時代以降出土遺物－7（1／3）	166
第118図	弥生時代以降出土遺物－8（1／3）	167
第119図	弥生時代以降出土遺物－9（1／3）	168
第120図	弥生時代以降出土遺物－10（1／3）	169
第121図	弥生時代以降出土遺物－11（1／3）	170
第122図	弥生時代以降出土遺物－12（1／3）	171
第123図	弥生時代以降出土遺物－13（1／3）	172
第124図	弥生時代以降出土遺物－14（1／3）	173
第125図	弥生時代以降出土遺物－15（1／3）	174
第126図	弥生時代以降出土遺物－16（1／3）	175

表 目 次

第1表	炉一覧表	62
第2表	縄文土器観察表	130
第3表	内田貝塚・平成18年度調査分石器一覧表	145
第4表	内田貝塚における出土石器数一覧	146
第5表	牟呂貝塚群における出土石器一覧表	147

第6表	骨角器・貝製品観察表	155
第7表	弥生時代以降土器観察表	176

カラー写真図版目次

図版1	内田貝塚(縄文時代貝層)全景(垂直)	
図版2-1	内田貝塚遠景(西から)	2 内田貝塚遠景(北から)
図版3	内田貝塚貝層堆積状況(南東から)	
図版4-1	g-10区貝層堆積状況(西から)	2 内田貝塚基盤(砂堆)全景(南から)
図版5-1	現地説明会遠景(南西から)	2 現地説明会風景(東から)
図版6-1	玉1出土状況(南から)	2 敷石炉-1(東から)
	3 敷石炉-4(南から)	4 地床炉-158(北から)
	5 地床炉-146(南から)	6 地床炉-167(南から)
図版7-1	SX-252遺物出土状況(全景)	2 SX-252遺物出土状況(近景)
図版8-1	SX-253遺物出土状況(近景)	2 24層遺物出土状況

写真図版目次

図版1	内田貝塚調査区全景(垂直)	
図版2-1	c~f-20区付近貝層掘削途中(南東から)	
	2 h~m-15区貝層断面(南から)	
図版3-1	調査区北壁貝層断面(南から)	
	2 調査区北壁(b~d-24区)貝層堆積状況(南から)	
図版4-1	調査区北壁(g~i-24区)貝層堆積状況(南から)	
	2 調査区北壁(j~l-24区)貝層堆積状況(南から)	
図版5-1	g-15~19区貝層断面(東から)	2 g-15~17区貝層堆積状況(東から)
図版6-1	g-17~18区貝層堆積状況(東から)	2 g-18~20区貝層堆積状況(東から)
図版7-1	d~e-10区貝層堆積状況(南から)	2 j~k-14区貝層堆積状況(南から)
図版8-1	g-8~9区貝層堆積状況(西から)	2 g-7~8区貝層堆積状況(西から)
図版9-1	c-20区コラムサンプル採取地点(南から)	
	2 k-20区段丘崖と貝層の接点(北西から)	
図版10-1	貝塚基盤(砂堆)全景(南東から)	2 貝塚基盤(砂堆)全景(南から)
図版11-1	貝塚基盤(砂堆)南側(北東から)	2 貝塚基盤(砂堆)北側(東から)
図版12	貝塚調査中全景(垂直)	
図版13-1	敷石炉-1(西から)	2 敷石炉-2(南から)
	3 敷石炉-3(南から)	4 敷石炉-6(南から)
	5 敷石炉-8(南から)	6 敷石炉-9(南から)
図版14-1	地床炉-140(南から)	2 地床炉-158(北から)
	3 縄文土器(406)出土状況(南から)	4 縄文土器出土状況(北から)

5	石冠出土状況(西から)	6	k-21-I区攪乱出土獣骨(北から)
図版15-1	発掘区全景(北西から)	2	古墳時代貝層全景(北西から)
図版16-1	S B-1	2	S H-1
図版17-1	S X-252遺物出土状況	2	S X-252遺物出土状況近景
図版18-1	S X-253遺物出土状況	2	S X-239全景(西から)
図版19-1	S X-239遺物出土状況	2	S X-239遺物出土状況近景
図版20-1	S X-5土層断面図	2	S X-5全景(西から)
図版21-1	S X-5近景-1(北西から)	2	S X-5近景-2(南東から)
図版22-1	S X-250遠景(西から)	2	S X-250遺物出土状況-1
図版23-1	S X-250遺物出土状況-2	2	人骨出土状況
図版24-1	近世貝層全景	2	地点貝層D全景
図版25-1	地点貝層E全景	2	地点貝層F全景
図版26-1	地点貝層G全景	2	地点貝層H全景
図版27-1	地点貝層I全景	2	地点貝層J全景
図版28	縄文土器-1		
図版29	縄文土器-2		
図版30	縄文土器-3		
図版31	縄文土器-4		
図版32	縄文土器-5		
図版33	縄文土器-6		
図版34	縄文土器-7		
図版35	縄文土器-8		
図版36	縄文土器-9		
図版37	縄文土器-10		
図版38	縄文土器-11		
図版39	石器-1		
図版40	石器-2		
図版41	骨角器-1		
図版42	骨角器-2・貝製品・玉		
図版43	弥生時代以降の遺物-1		
図版44	弥生時代以降の遺物-2		
図版45	弥生時代以降の遺物-3		
図版46	弥生時代以降の遺物-4		
図版47	弥生時代以降の遺物-5		
図版48	弥生時代以降の遺物-6		
図版49	弥生時代以降の遺物-7		
図版50	弥生時代以降の遺物-8		
図版51	弥生時代以降の遺物-9		
図版52	弥生時代以降の遺物-10		

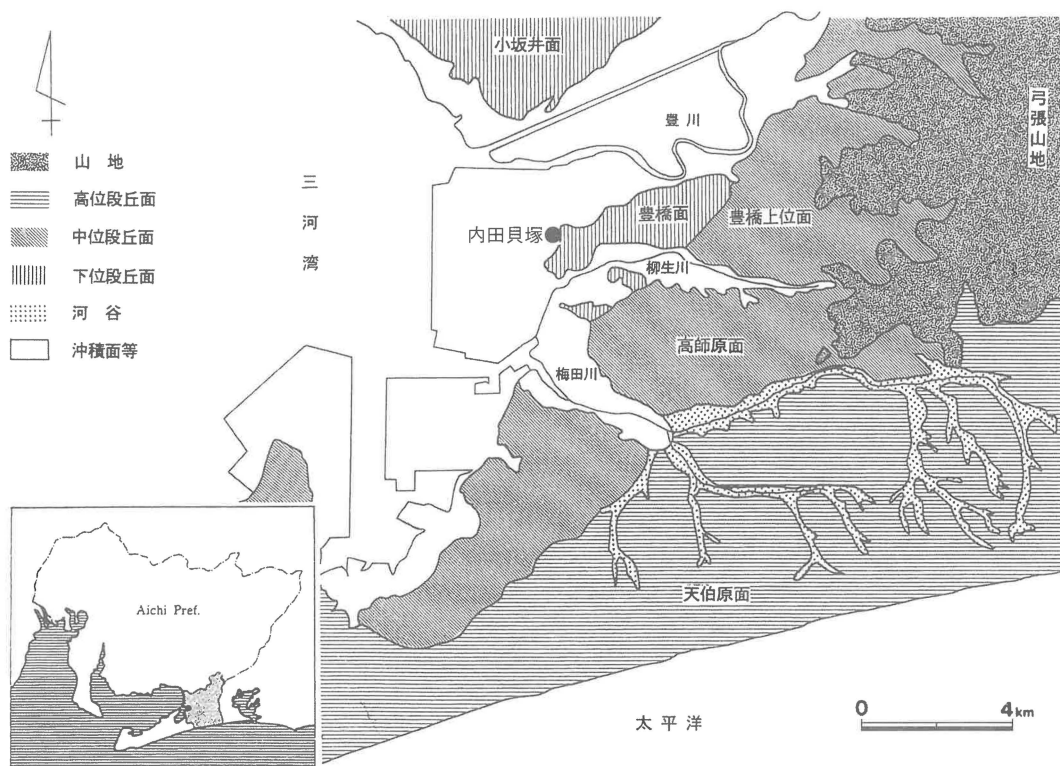
第1章 遺跡の立地と歴史的環境

1. 遺跡の立地 (第1・2図)

今回調査を行った内田貝塚をはじめ、若宮遺跡・内田古窯は豊橋市牟呂町字内田・若宮に所在する貝塚・集落跡・古窯跡である（第1図）。豊橋市は東が弓張山地、南が太平洋、西が三河湾にそれぞれ面し、平野部は限られている。市域北側は一級河川である豊川が三河湾に向かって西流し、市域の大半は豊川と現在浜松市を貫流する天竜川の前身、古天竜川によって造られた河岸段丘上に位置している。河岸段丘は高位面（天伯原面・標高30～60m）、中位面（高師原面・豊橋上位面・標高15～30m）、低位面（豊橋面・標高4～10m）の3面に大きく分けることができる。

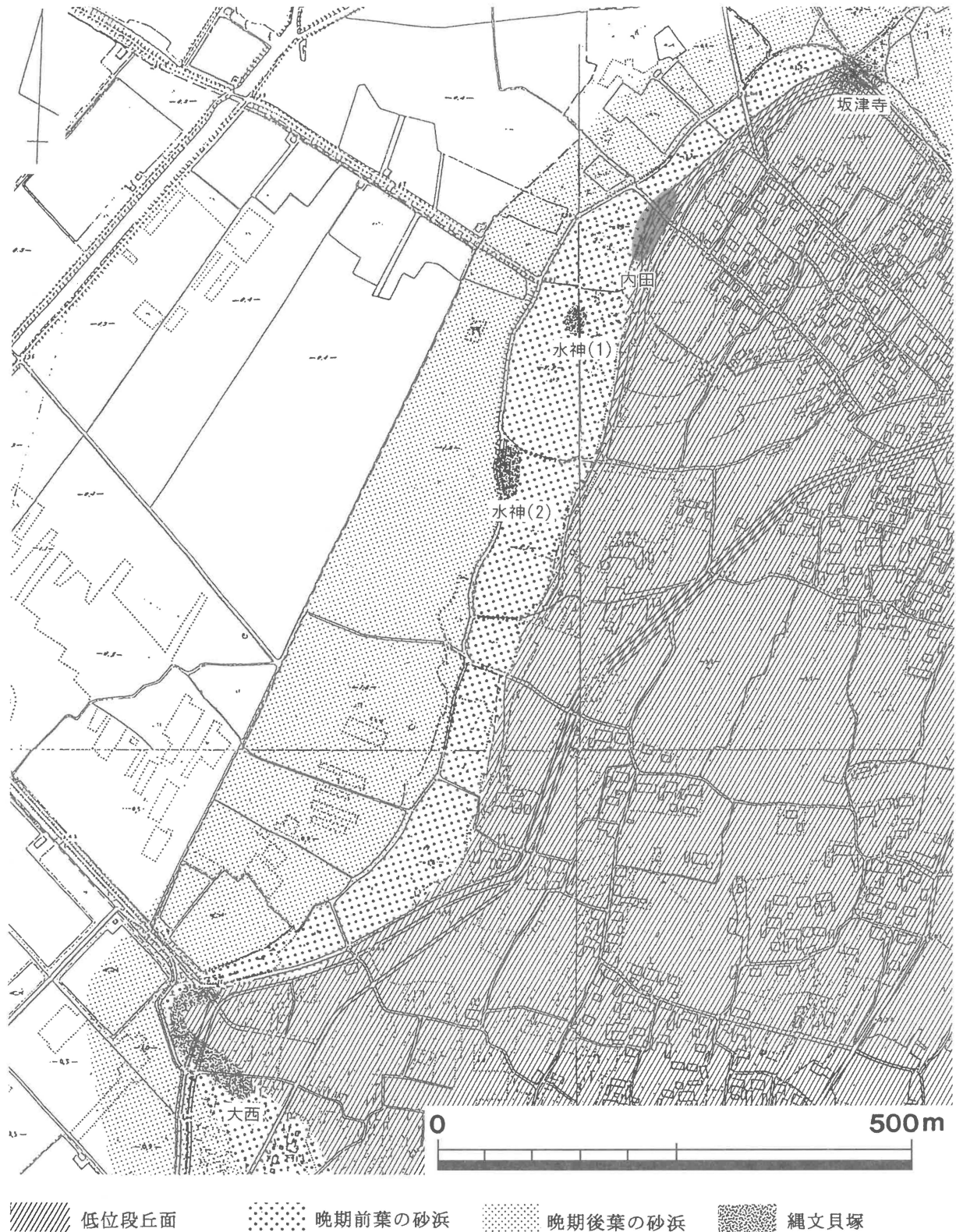
遺跡の所在する牟呂地区は豊川左岸の河岸段丘（低位面）の先端部にあり、前方に三河湾を臨み、北方には豊川が流れている。この段丘は先端部分で幅が約1kmと細く、標高は6m前後と低い。若宮遺跡等は段丘先端の北側にあり、この辺りは標高が8～12mと低位段丘のなかで最も高い。この辺りの段丘縁部は比高差5mほどの段丘崖になっており、段丘上部は平坦面が続いて民家や畑になっている。段丘崖の西側は、現在では住宅が点在しているが、かつては一面に水田が広がっていた。この段丘崖西はかつて三河湾であったが、江戸時代の新田開発によって干拓された場所である。近年までは、この地区は海苔や貝加工などの沿岸漁業が現在でも盛んな地域であった。

若宮遺跡は段丘縁部の標高 9 m 前後の平坦面に形成された古墳時代～近世の集落遺跡であり、内田古窯は高約 2 m～9 m の段丘崖に 4 基が造られた古墳時代中期の埴輪専焼窯である。内田貝塚は段丘



第1図 内田貝塚周辺地形分類図 (1/20,000)

崖西側の砂堆（当時の海浜部）上に形成された縄文時代後期～晩期の貝塚である。この3遺跡は、段丘崖を挟んで密集している。若宮遺跡、内田古窯は当時の海岸線近くにあり、海との関わりが強いものと考えられる。特に内田古窯は、海上交通を利用した埴輪の流通を意識したと受けとらえられる立地が注目される。



第2図 縄文時代晩期の内田貝塚周辺地形推定図（1/6,000）

一方、内田貝塚は標高約1.5～2.5mの砂堆上に形成されている。この砂堆は段丘崖まで緩やかに上がりながら続く。段丘崖は砂堆と比高差で約5mがある。貝塚は調査区の北西端、b・c-20～23区付近の標高1.5mの辺りに最初（後期中葉蜆塚K式）に形成されたようで、出土土器からみると平成19年度調査区A・B地区を中心に形成されていたようである。貝層は連続して形成され続け、やがて貝層の規模が大きくなりすぎて、晩期には段丘崖に接するようになる。縄文時代の段丘崖はかなり急斜面であったものと考えられ、崖から崩落した土砂が貝層中の間層となって堆積していることが確認されている。近年では旧砂浜海岸、段丘西側の砂堆について調査が進み、大西貝塚では後期後葉の旧汀線付近が、水神第2貝塚からは晩期前葉の旧汀線付近が確認され、縄文時代晩期の砂浜海岸の様相が次第に明らかになってきている。第2図はこの成果を基に、旧地形などから推定した砂浜海岸の範囲推定図である。このように後期中葉以降に始まる海水準の低下により、砂浜海岸は広がり始める。後期後葉では砂浜海岸は狭かったが、晩期前葉には水神第1貝塚付近で最大幅約100mの砂浜海岸が存在していたようである。内田貝塚周辺では砂浜海岸は狭かった。その後更に海水準は低下し、晩期後葉は今より約1m程海水準が低下したと考えられている。このため砂浜海岸も広がり、旧地形から推定して最大250m程も広がっていたものと思われる。この砂浜海岸が広がっていたことは、水神第2貝塚の砂堆粒土分析などから推測されている。内田貝塚が形成された縄文時代後期の汀線は、段丘付近にあったものと思われ、貝層が段丘崖に接することから旧海浜部の幅は狭かったものと想像される。この段丘崖斜面から砂堆にかけての貝層分布範囲にはいわゆるクロボク層が見られた。周辺に分布する貝塚は全てクロボク層上に形成されているが、このクロボク層は貝塚部分以外では見つからない。内田貝塚でも貝塚部分以外はクロボク層が存在しておらず、段丘上の若宮遺跡でも存在していない。クロボク層はイネ科草本が繁殖し、その後人間の生活に伴う腐植の混入や野焼きによって形成されたと考えられている。

以上のまとめると、若宮遺跡は段丘上部の集落跡、内田古窯は段丘崖に造られた埴輪専焼窯、内田貝塚は段丘崖西側の砂堆（当時の海浜部）上に形成された貝塚であり、これら3遺跡は三河湾の近くに立地している。海浜部立地の遺跡であり、三河湾と何らかの関係が指摘できる。

2. 歴史的環境（第3図）

内田貝塚の周辺部は、縄文時代から各時代の遺跡が多く残された遺跡の密集地である。ここでは、周辺の遺跡について述べる（第3図）。

縄文時代

縄文時代の貝塚は、内田貝塚（9）、大西貝塚（16）をはじめとする牟呂貝塚群や王塚貝塚（29）、王ヶ崎貝塚（38）、小浜貝塚（41）等が確認されている。このうち王ヶ崎・小浜貝塚は大西貝塚等の段丘と柳生川を挟んで対面する低位段丘に位置している。これらの貝塚は晩期を中心として形成されている。牟呂貝塚群は加工場型貝塚と考えられている。坂津寺貝塚（1）はハマグリが主体で縄文時代中期中葉～後期初頭及び晩期の土器が出土している。現在までに牟呂地区で確認されている最古の

遺跡である。水神第1貝塚（4）は沖積地に立地し、縄文時代晩期前葉～中葉を中心とした遺跡であることが確認されている。遺物には弓筈状角製品・ヤスの骨角器等が出土している。水神第2貝塚（5）は砂堤上に位置し、貝塚は規模約50×20mで平面形は隅丸方形をなしていた。貝層はハマグリが99%を占める純貝層で、地床炉址は約400ヶ所を数えた。遺物には奄美大島以南でしか採れないイモガイ製の貝輪が出土しており、縦型としては分布の東限にあたる。市杵嶋神社貝塚は前方後方墳の墳丘中に残存している貝塚である。大西貝塚は規模約185×40mの平面形がく字状をなすハマグリ主体の貝塚で、東海地方最大の貝塚である。さんまい貝塚（20）もハマグリ主体の晩期中葉の貝塚である。

王塚貝塚は未調査のまま滅失している。王ヶ崎貝塚は晩期の貝塚である。発掘調査は行われていないが、隣接する磯辺王塚古墳の発掘調査の際、条痕文土器と磨製石斧が出土している。小浜貝塚は4箇所の貝塚からなる地点貝塚であったといわれ、縄文時代前期～晩期の長期に渡る貝塚である。

弥生時代

弥生時代の遺跡は、中期になると橋良遺跡では竪穴住居や方形周溝墓などが検出されている。この他に見丁塚遺跡（28）からは、方形周溝墓が検出されているがこの時代の遺跡は比較的少ない。この他には境松遺跡（2）、水神第2貝塚や内田貝塚から土器などが出土しているが、臨海部の遺跡であるにもかかわらず、貝塚を形成していない。

古墳時代

古墳時代は大西遺跡（17）、大海津遺跡（12）、見丁塚遺跡などで、竪穴住居や掘立柱建物などが確認されている。なかでも大西遺跡は7世紀代を中心とした比較的規模が大きな遺跡である。

古墳は、首長墳として市杵嶋神社古墳（24）、三ッ山古墳（3）、牟呂王塚古墳（22）、磯辺王塚古墳（40）があり、群集墳として東脇古墳（32）や権現神社古墳（36）などがある。市杵嶋神社古墳は前期の前方後方墳で、前長は60m前後である。三ッ山古墳は後期の方後方墳である。前長は約34mで、埴輪と須恵器などが出土している。牟呂王塚古墳も推定約40mの前方後円墳であり、圭頭大刀などが出土している。後期の古墳である。また、窯跡として水神古窯（6）がある。6世紀初頭の須恵器・埴輪併焼窯であり、段丘斜面に3基の窯が並んで検出されている。

古代以降

古代では、市道遺跡（10）は規模が大きく、この他に大海津遺跡や大西遺跡などがある。市道遺跡は北側の掘立柱建物群と南側の塀と溝で囲まれた区画に分けられる。北側では正六角形の掘立柱建物が3棟発見されている。南側区画は廃寺跡と考えられており、金堂や講堂跡がみついている。また瓦を供給していた市道1～3号窯も検出されている。

中世では、若宮遺跡（7）で集落の跡や地下式坑が確認されている。公文遺跡（13）は豪族の館を中心とした中世集落の跡と考えられ、幅約4m、深さ約1.6mのV字状の溝が発見されている。また、中世城館址では牟呂城址（14）があり、方形に巡ると考えられる土塁と堀が確認されている。この他に近世の寺院跡と考えられる建物跡が見つかった中村遺跡（18）がある。



- | | | | | | |
|----------|----------|------------|-------------|-----------|----------|
| 1 坂津寺貝塚 | 9 内田貝塚 | 17 大西遺跡 | 25 市杵嶋神社古墳 | 33 高良社遺跡 | 41 小浜貝塚 |
| 2 境松遺跡 | 10 市道遺跡 | 18 中村遺跡 | 26 八王子神社遺跡 | 34 薬法寺北遺跡 | 42 万福寺古墳 |
| 3 三ツ山古墳 | 11 市道1号窯 | 19 作神遺跡 | 27 牟呂八幡神社古墳 | 35 行合遺跡 | 43 王ヶ崎遺跡 |
| 4 水神第1貝塚 | 12 大海津遺跡 | 20 さんまい貝塚 | 28 見丁塚遺跡 | 36 権現神社古墳 | |
| 5 水神第2貝塚 | 13 公文遺跡 | 21 市場遺跡 | 29 王塚貝塚 | 37 東脇遺跡 | |
| 6 水神古窯 | 14 牟呂城址 | 22 牟呂王塚古墳 | 30 市道西遺跡 | 38 王ヶ崎貝塚 | |
| 7 若宮遺跡 | 15 公文南遺跡 | 23 市杵嶋神社貝塚 | 31 林遺跡 | 39 王郷遺跡 | |
| 8 外神遺跡 | 16 大西貝塚 | 24 市杵嶋神社古墳 | 32 東脇古墳 | 40 磯辺王塚古墳 | |

第3図 内田貝塚周辺主要遺跡分布図 (1/15,000)

第2章 調査の経過

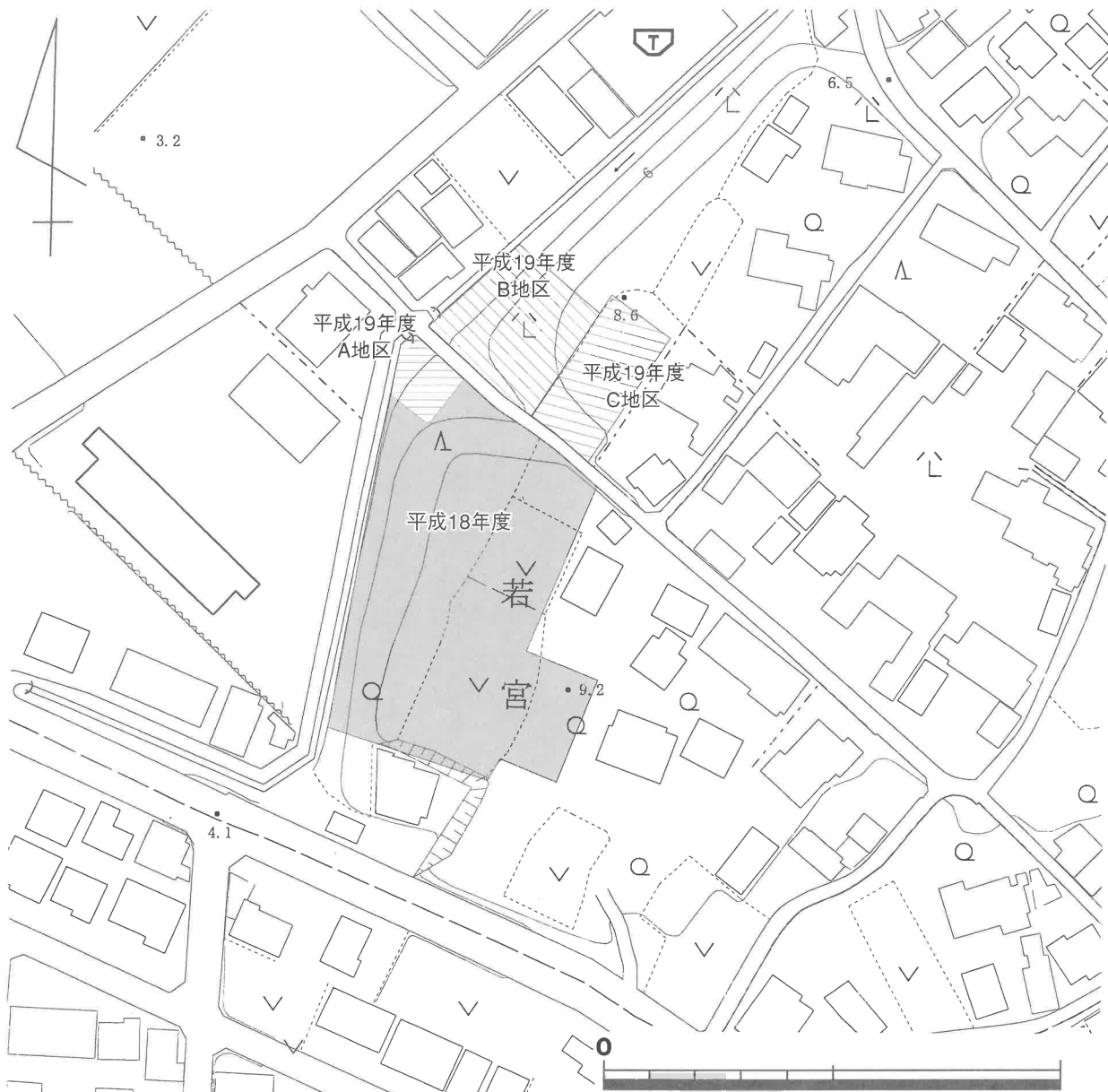
1. 調査に至る経過（第4・5図）

豊橋市西部の牟呂町中心部を対象とする土地区画整理は、昭和54年度に事業決定が成され、昭和57年度より本格的に牟呂土地区画整理事業として工事が実施されている。これは牟呂町の住宅密集地の整理を意図したもので、平成9年度まで継続して行われた。かつては半農半漁を主な生業とし、木造家屋の間を狭い道路が巡る複雑な町並みであったこの地域も、近年は直線的に整備された閑静な街路が広がり、昔日の面影は失われている。

今回発掘調査を行った内田貝塚のある牟呂坂津地区は、JR豊橋駅より西へ約2キロの中心部と臨海部とを結ぶ軸線上にあり、既に牟呂土地区画整理事業により整備された市街地の北側に隣接する地区である。この地区は豊橋市役所区画整理課によって、豊橋牟呂坂津土地区画整理事業として平成13年度～平成27年度にかけて21.22haに及ぶ事業費95億円の土地区画整理事業が計画・実施されている。この地区に対しては、市教育委員会が平成10年度に分布調査を行って遺跡範囲を推定し、さらに平成11年度には国庫補助事業として範囲確認調査を実施して、遺跡の範囲を確定している。内田貝塚は範囲確認調査で位置が確認された貝塚である（第4図）。



第4図 内田貝塚位置図（1/2,500）



第5図 調査区位置図 (1/1,500)

内田貝塚・若宮遺跡・内田古窯の発掘調査は、この土地区画整理事業に伴う初の調査である。土地区画整理地内にはこの他に境松遺跡、三ッ山古墳などの多数の遺跡が存在している。今回の発掘調査は段丘崖を削平して宅地及び道路を造成する部分の調査である（第5図）。調査面積は3,500㎡で、調査期間は平成18年5月9日～平成19年3月30日である。市道南側にある貝塚部分の600㎡については、当初の調査計画面積を超えたため、翌年度調査へ先送りした。ただし、表土のみは効率性を考えて、平成18年度調査と同時に行っている。発掘調査は調査地区を3分割して連続して行ったが、段丘斜面から当初の調査計画にはなかった埴輪窯である内田古窯が確認されたため、調査期間が年度末まで延びる結果となった。平成19年度調査は、前年度から先送りしたA地区は、調査面積が600㎡、調査期間は平成19年4月18日～平成19年5月10日、その北側段丘西のB地区は、調査面積が600㎡、調査期間は平成19年5月15日～平成19年8月30日、段丘上のC地区は、調査面積は900㎡、調査期間は平成20年1月31日～平成20年3月14日である。

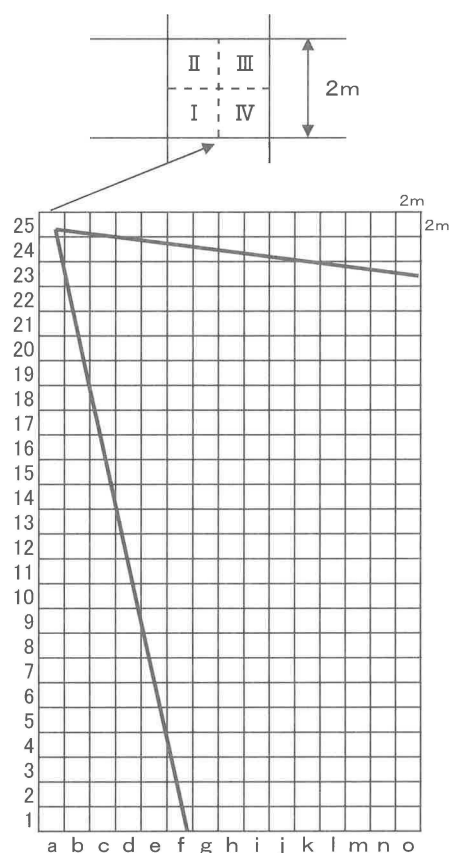
2. 調査の方法

発掘調査は、基本的に切り土によって遺跡を破壊する部分を対象としている。今回の発掘調査は道路部分及び宅地造成について行っている。調査面積は若宮遺跡・内田古窯・内田貝塚を合わせた3,500㎡である。調査区の設定については、国土交通省告示に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠し、この国土座標に合わせて若宮遺跡の南西隅を起点にして、10mグリッドを設定した。この起点より西から東にA～Z（アルファベット大文字）、南から北に1～10というように名付け、その交点を地区名としている。内田貝塚の調査区部分にもこの地区割りが当てはまり、G～J-10～15区の範囲が相当する。だが、人工堆積物である貝塚部分の調査については10mグリッドでは遺物などの出土地特定や出土量比較に際して精度が粗くなることが予想された。このため、貝塚の主軸に合わせて1mグリッドを設定し、新たに地区割りを設定した。貝塚の説明について用いる地区については、こちらの地区割りをを用いる。

地区割りの設定であるが、発掘調査を行うに際して貝塚の主軸に合わせて区割りを任意に設定し、2m×2mのグリッドを大グリッドとし、調査区内の区割りと（第6図参照）している。基準点は若宮遺跡のG・H-15・16の交点を起点にして貝塚地区割りg・h-0・1の交点と同一とし、貝塚の主軸方向をN-27°-Wに方向を合わせている。大グリッドは南北軸をアラビア数字（南から1、2、……）、東西軸をアルファベット小文字（西からa、b、……）で表し、地区名を「a-1」、「b-1」のように表示した。更に大グリッドを4分割して、1m×1mの小グリッドを設定し、大グリッド南西端を起点に第6図の様にアラビア数字で表記した。従って、小グリッドを表記するときは「a-1-I」のようになる。発掘調査の地区名を当報告書においても使用するので、例えばd-3-I区はd列と3列の交差する位置の大グリッド、小グリッドの位置であることを示している。

発掘調査の基本的な手順は次のように行った。

1. 調査区を設定し、調査の地区割りを行う。
2. 表土から貝層まで手掘りでサブトレンチを入れ、重機によって表土を剥ぐ。
3. 貝層を露出させ、記録写真を撮る。
4. 貝塚に掘り込まれた後世の攪乱層を確認・除去し、貝塚残存部のみの状態にして範囲を記録する。
5. 貝層は調査区の四方壁面にサブトレンチを入れながら掘り下げ、一部ブロック・サンプリングを行う。



第6図 内田貝塚グリッド設定図

6. 貝層中より出土した遺構や遺物、石等は原則的に全ての出土位置、レベル高を記録して番号を付け、必要なものは写真を撮影して取り上げる。
7. 貝層下の黒色砂質土層を露出させ、写真を撮る。
8. 黒色砂質土層を掘り下げ、石等は出土位置を記録する。
9. 黒色砂質土層を除去し、地山を露出させる。
10. 地山に掘り込まれた遺構を完掘する。
11. 遺構平面図を作成する。また調査区壁面より断面図を作成する。
12. 全体写真及び断面写真を撮影する。
13. 溝内に堆積している貝層は、調査区壁面よりブロック・サンプリングを行う。
14. 排出された貝層を篩いにかける。

こうして貝塚の調査を行ったが、調査によって排出された貝殻は膨大な量になった。調査当初からの申し合わせにより、調査によって出土した貝殻は篩いにかけて砂と貝殻に分離させる作業を行っている。分離した貝殻は一般廃棄物として豊橋市資源化センターで焼却処理を行った。しかし、絶対的に量が多いため、殆どの貝殻は一般廃棄物として埋立処分場に、1 t あたり約14,000円を払って埋め立てている。

第3章 貝塚の構造

1. 貝塚の規模

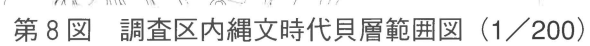
内田貝塚は豊橋市牟呂町字内田に所在する貝塚である。貝塚の所在する牟呂地区は、現在では海岸線から3 km程内陸に位置するが、江戸時代の新田開発が行われるまでは三河湾に面した沿岸部集落である。この地区の接する三河湾は東部の湾奥部に相当し、そこは豊川から多量に運ばれる土砂によって六条潟と呼ばれる広大な干潟が発達しているエリアである。この好立地のため、縄文時代から現代に至るまで採貝活動が盛んな地域であり、近年まではアサリ出荷量が全国上位を占めるほどであった。そして剥き身後の貝殻を住居周辺部に投棄する習慣から、かつては地区内に現代の貝塚がつくられていた。各時代の貝塚・貝層は多く分布しており、縄文時代のものだけでも段丘西の旧砂浜海岸を中心に大西貝塚をはじめとする7貝塚が所在し、これらは牟呂貝塚群と総称されている。この牟呂貝塚群は貝加工に特化した「加工場型貝塚」である。これら現存する牟呂貝塚群の他にも殻山と呼ばれた堤防状に堆積した貝塚が江戸時代末期までは旧砂浜海岸各所にあったことが記録（註1）に残されている。これら貝塚は、大半が現在では所在不明だが、最大なものは大海津地区に存在し、1町5反程（長さ約160m）の規模であったといわれている。大半の貝塚は、新田開発の際に堤防・貝俵用や道路に敷く碎石の代替品として取り壊されており、現在では位置さえも不明である。

今回調査した内田貝塚は、牟呂貝塚群のうちの一つの貝塚である。平成11年度に行われた範囲確認調査によって貝塚の位置が確認された。貝塚は段丘西側の斜面と一体化して埋まっており、当初は貝殻の散布も少なく、その存在がわからなかった。しかし、段丘西側斜面に試掘グリッドを設定した結果、厚く堆積した貝層が発見されて貝塚が存在することが確認されたのである。範囲確認調査の結果では、貝塚は縄文時代晩期前葉のもので、貝層は良好に残存しているものと予想されていた。平成18年5月から行われた発掘調査によって貝層の大半が露出し、貝塚の様相を知ることができたのである。

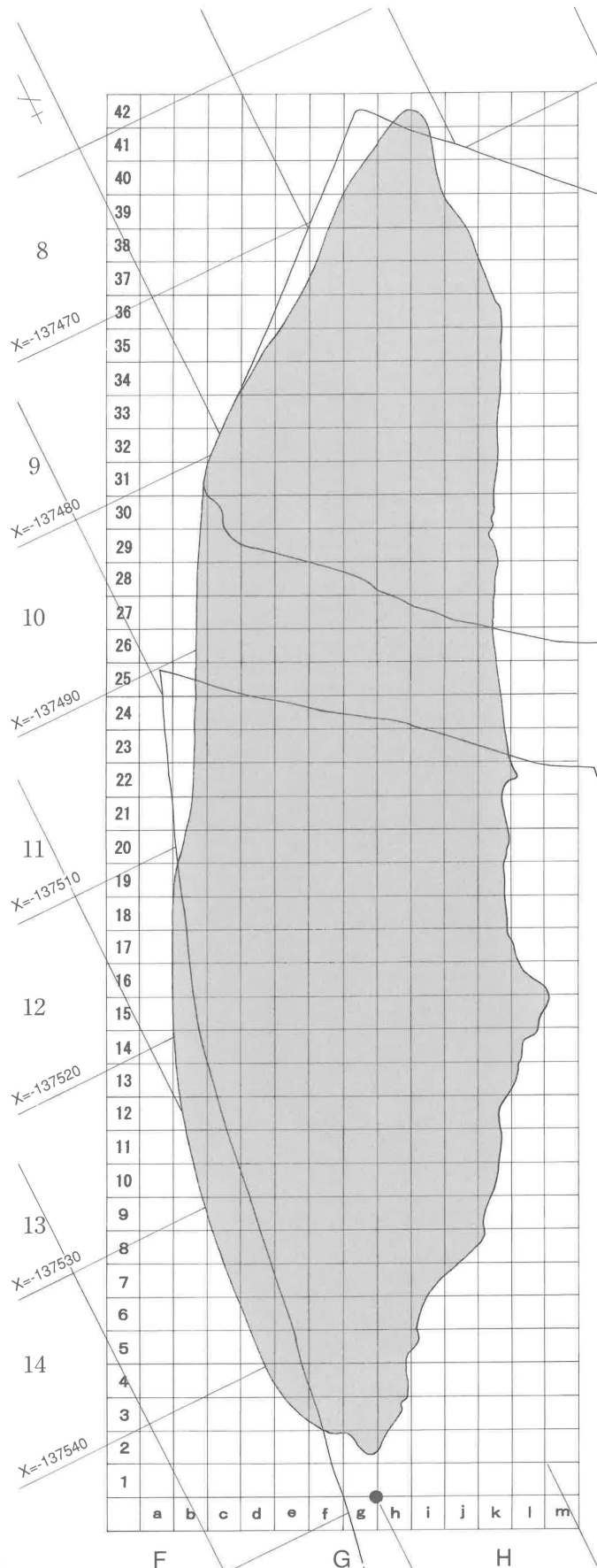
貝塚は第1章1で説明したように段丘西の砂堆、当時の砂浜海岸に形成されている。第7図は調査区を完掘した図であり、貝塚の基盤となる層、旧砂浜海岸を測量した図である。段丘は標高約8 mであり、その西端は段丘崖となって砂堆と接し、砂堆とは比高差は約5 mである。砂堆は段丘崖付近で一番標高が高く約3 mが測られ、西側へ行くに従って標高は低くなるように緩やかに傾斜しており、調査区西側末端で約1.5 mである。砂堆上にはクロボク層（1層・1 a層・1 b層）が広がっており、貝塚はこの層上に形成されている。ただし、貝塚中央付近は投棄された貝殻とクロボク層が混ざってしまっているので、クロボク層単独では検出されていない。平成19年度の調査結果により、貝殻の投棄は後期中葉の蜆塚K式期より始まったことが分かっている。今回報告の調査区内では、最古の貝層である2層がほぼ貝層分布範囲全域に広がっている。後期中葉の蜆塚K式から元住吉山式I式にかけて北側を中心に広範囲にクロボク層（1層等）上に集中して貝殻を投棄して形成されたが、貝殻投棄量は少ないために面的に広がっている。ただ、2層は各貝層がクロボク層（1層）と混ざった集合体と考えられる貝層であり、その扱いには注意が必要である。次の3層が最初に形成された貝層の位置



第7図 貝塚基盤（地山）測量図（1/400）



を示すものと考えられる。3層は調査区北側、b～g-18～25区の標高1.8m前後を中心に形成されている。内田貝塚ではこの層以後に本格的な貝層形成（5～7層）が始まり、調査区北西側のb～j-17～24区では標高2m前後を中心に60cmほどの厚さで堆積している。次の後期末葉の伊川津式期（8・10・14・16層）では、調査区北側のd～i-14～21区、標高3.0～3.5mを中心に40cmほどの厚さで堆積するように、貝層の位置がやや南に移っている。更に晩期前葉の蛸塚B式期（17～23層）になると、19層ではe～j-17～22区、標高3.5m前後の貝層上に厚さ30cmほどの貝層を形成するが、その後貝塚南側にも範囲を広げ、22層などはe～j-7～24区と広範囲に渡って形成されている。蛸塚B式期には貝塚南側にも貝殻を集中的に投棄するようになり、e～i-8～11区を中心とした地点にもう一つの小山を形成させ、やがてそれらは22層などの形成によって連結して堤防状をなす。そして稲荷山式期（24～40層）になっても貝塚南側のe～i-8～11区を中心とした地点に集中して貝殻を投棄し、更に北側に形成されている小山と連結して貝層を高くする。また、稲荷山式期は堤防状に形成された貝塚と段丘崖の谷間を埋めるようにi～k列を中心に貝殻を投棄したため、貝層が段丘崖と繋がっている。縄文時代最後の貝層は西之山式期（41層）であり、i～l-9～15区に形成されており、標高4.7mと貝塚で最も高い。各貝層は貝層上で作業を行いやすいように平坦面を作るように投棄されたようで、貝塚は平坦面のある貝層の集合体となっている。段丘斜面に接する貝塚であるが、貝層は斜



第9図 縄文時代貝塚範囲推定図（1/400）



第10図 調査区内古墳時代貝層範囲図 (1/200)



第11図 調査区内近世貝層範囲図 (1/200)

面堆積ではなくて水平に堆積するという「加工場型貝塚」の特徴を示しており、この点が関東地方の貝塚と異なる点である。また貝層は2層のみが混土貝層であるが、他は殆どが純貝層であった。また間層として砂礫層も堆積している。

今回報告する調査区内で検出された縄文時代の貝塚（第8図）は、貝塚の南端及び東西両端が確認され、長楕円形をなす貝塚全体の約3/5であった。調査区内で検出された貝塚の規模は、中軸線で長さ44m、幅21mであり、推定面積は654㎡、推定体積は798㎡であった。貝塚はi-14区付近の標高4.7mを頂点にし、ほぼ段丘崖に沿って緩やかに海側へ傾斜している。最終的な貝塚の平坦面は標高4.5m前後で、長さ約10m、幅6mの範囲で確認されている。貝層の厚さは、h-13区で最大2.1mが測られた。貝塚の中軸線では、g-h境界の10ラインで貝層の厚さが1.8m、15ラインで1.9m、20ラインで1.8mと厚い。貝塚の中軸線より西側（海側）では、d-e境界の10ラインで貝層の厚さが0.9m、15ラインで1.1m、20ラインで0.9mと比較的薄い。一方、貝塚の中軸線より東側（段丘側）では、i-j境界の10ラインで貝層の厚さが1.8m、15ラインで1.4m、20ラインで1.2mであった。

貝塚の南西部は調査区外に延びており、本来はもう少し規模が大きかったものと推測される。平成19年度調査の成果も合わせると、縄文時代の貝層は最終的に平面形が長楕円形をなしている（第9図）。調査区外にも貝層が延びており、貝塚の規模は長さ80m、幅21mと推定される。面積は推定で1,188㎡、体積は1,342㎡である。

内田貝塚は、縄文時代以外に古墳時代、近世に貝層が形成されている。古墳時代の貝層・46層（第10図）は貝塚西側（海側）のb-h-8～24区の範囲で縄文貝層の上に形成され、規模は検出長32m、幅12mであった。全体的に薄い貝層であるが、d-15区付近では最大0.5mの厚さで堆積している。貝層は破碎貝層で黒色砂質土が混ざる混貝土層で、海側へ緩やかに傾斜している。

最後に近世の貝層であるが、近世の貝層・48層（第11図）は貝塚西側（海側）では古墳時代貝層上に堆積した砂層（47層）の上にあり、縄文時代貝層、古墳時代貝層を覆うように広範囲（b-m-3～24区）に形成され、規模は検出長44m、幅21mであった。貝塚西側以外では全体的に薄い貝層である。貝塚西側（b-f-8～24区）では比較的貝層が厚く、d-20区付近では最大0.8mの厚さで堆積している。貝層は殆どがハマグリ純貝層で、比較的水平に堆積している。

また縄文時代の貝塚は西側末端がbラインで確認されているが、貝塚西端は貝層が乱れていた。これは後の海面変動や高潮、津波等の海水準上昇によって貝塚の西側が若干破壊されたためと考えられる。このような状態は大西貝塚や水神第2貝塚でも確認されており、さんまい貝塚では完全に津波等の自然による砂礫層に覆われていた。海浜部に立地する貝塚であるため、海水準変化の影響を受けた痕跡と思われる。

註1 白井梅里 1933 「古代概観 その一」『牟呂吉田村誌』

註2 貝層の面積及び体積は下記文献の平均厚さ法を用いて算出している。以下、次項で算出した数値もこの方法を用いたものである。

鈴木公雄 1981 「第12章 貝塚堆積の求積」『伊皿子貝塚遺跡』港区伊皿子貝塚調査委員会

2. 貝層の層序及び様相

貝塚は砂堆上に形成されており、貝層は基本的に砂堆上に堆積したクロボク層上に形成されている。貝層は詳細に観察すると、周辺の貝塚と同様、0.5～1 cmの厚さの破碎貝層によって区別されていた。この破碎貝層は貝層上で作業を行ったために形成された層で、各貝層は上で作業し易いように比較的平坦になっている。貝殻の廃棄に関しては、作業のために貝殻自体が均されて廃棄された原位置を留めていないことが予想され、貝殻の廃棄単位は確認できていない。このため確認できる廃棄の単位の最小的なまとまり、つまり破碎貝層で区切られた層を廃棄の単位として区別し、貝層間の分層基準にして遺物・遺構の取り上げ基準にしている。

ここでは、これら基準で分層した各層の概要を説明する（第16～55図）。層番号次の（ ）内に調査時の層位名を記した。なお、堆積順序については第12図を、断面図は第13～15図を参照して頂きたい。また、土器等の出土数は、調査取り上げ時の数値、貝種組成はブロック・サンプリングでの割合である。

地山〔灰色砂層〕

ベースになる層であり、礫を殆ど含まない灰色の砂層である。いわゆる旧海浜部の砂浜海岸に相当する。この層は段丘崖から西側に堆積しており、粒度の細かな砂層で小石や礫などを含んでいない。この層上面の標高は、東側段丘崖際では標高約3.0m、西側は約1.6mが測られるように緩やかに西に傾いている。地山面で検出された遺構には土壌があり、e～h - 6～13区に集中して約250基が確認されている。

1（黒色・A・B）層〔黒色砂質土層〕

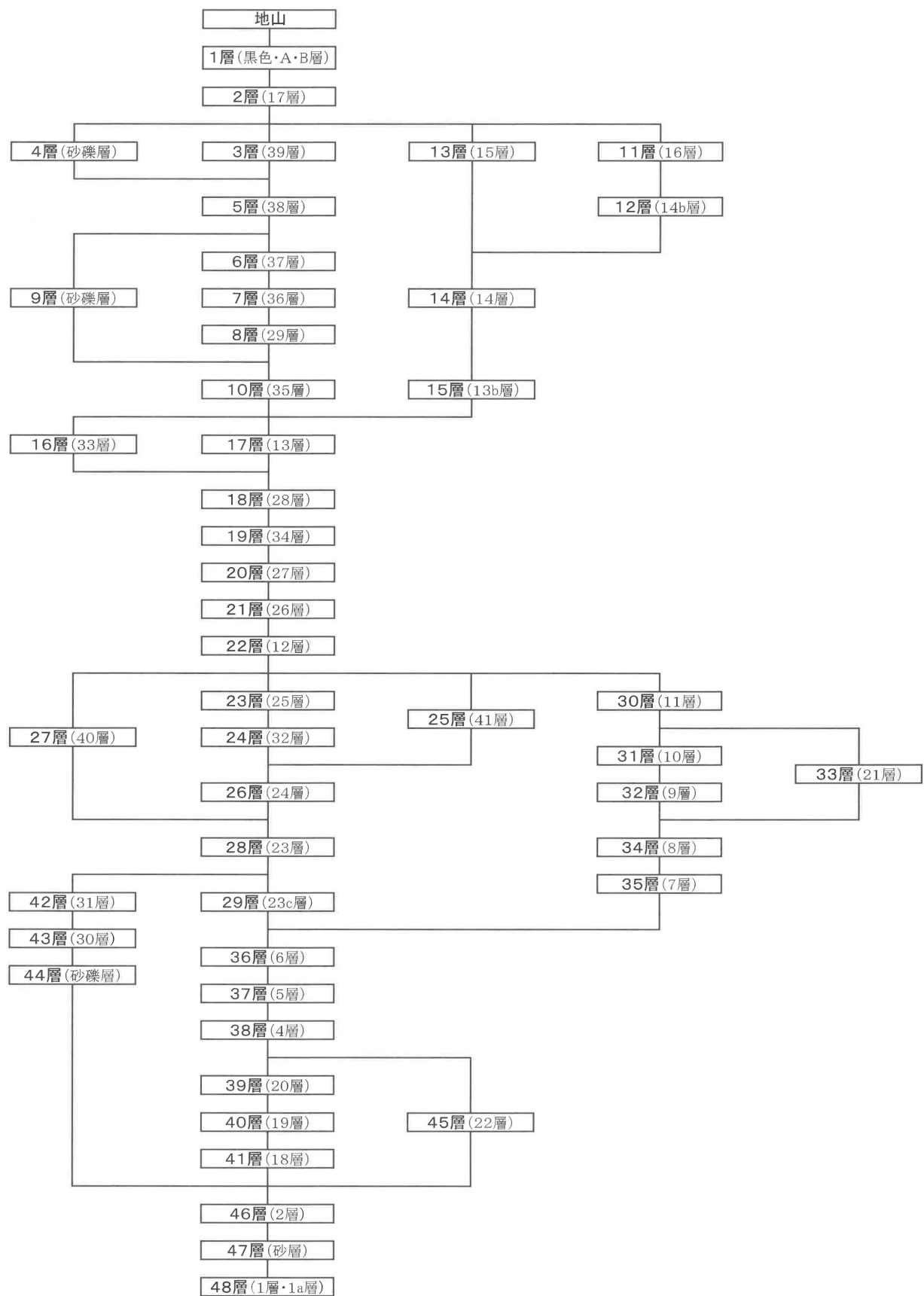
1層はいわゆる「クロボク」と呼ばれる層であり、地山を覆うように形成されている。この層は当初は縄文貝塚より大きく広がっていたものと思われ、貝塚の周囲1～2 mの幅でこの層は確認できている。ただし、純粋にクロボク層のみの部分はb～h - 10区ぐらいの範囲で、厚さは最大18cmあるが、それより北の貝塚中心部は貝殻が混ざってしまい2層の一部となっている。1層からは、遺構では地床炉が3基ある。遺物は土器及びスクレイパーが1点、砥石が1点出土している。貝層形成以前から貝層形成中にかけてこの層は形成されたものと思われる。

2（17）層〔黒色混土貝層〕（第16・17図）

1層上に堆積した黒褐色の混土貝層である。砂が41.9%混ざる混土貝層でb～k - 3～25区にかけて分布する大規模なものである。貝層は南側などを溝で壊されてはいるが、保存状態は比較的良好である。遺構では、敷石炉が1基、地床炉が14基見つかっている。石は多数出土している。遺物では土器が約500点、石鏃1点、点状刺突具類が2点、加工された骨が4点、貝輪が3点など出土している。

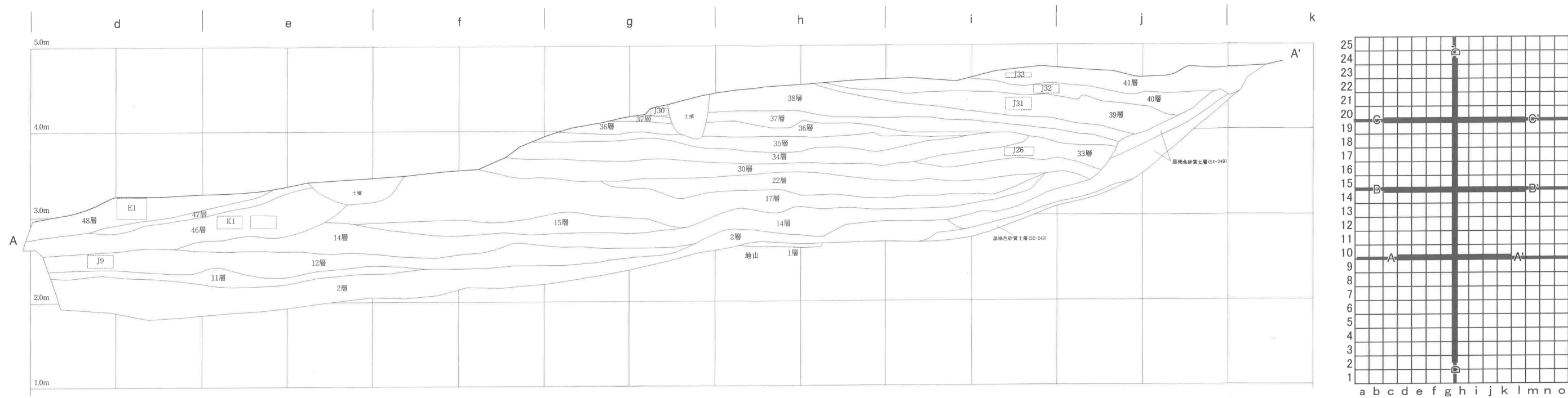
貝層の規模は、検出長約40m、検出幅約20m、厚さ最大46cmである。貝種組成は、ハマグリが70.9%、マガキが27.9%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より後期元住吉山Ⅰ式（蜆塚K式）～宮滝式期を中心に形成され、末端部は晩期稲荷山式期頃まで形成が続いたと思われる。

3（39）層〔ハマグリ純貝層〕（第18図）

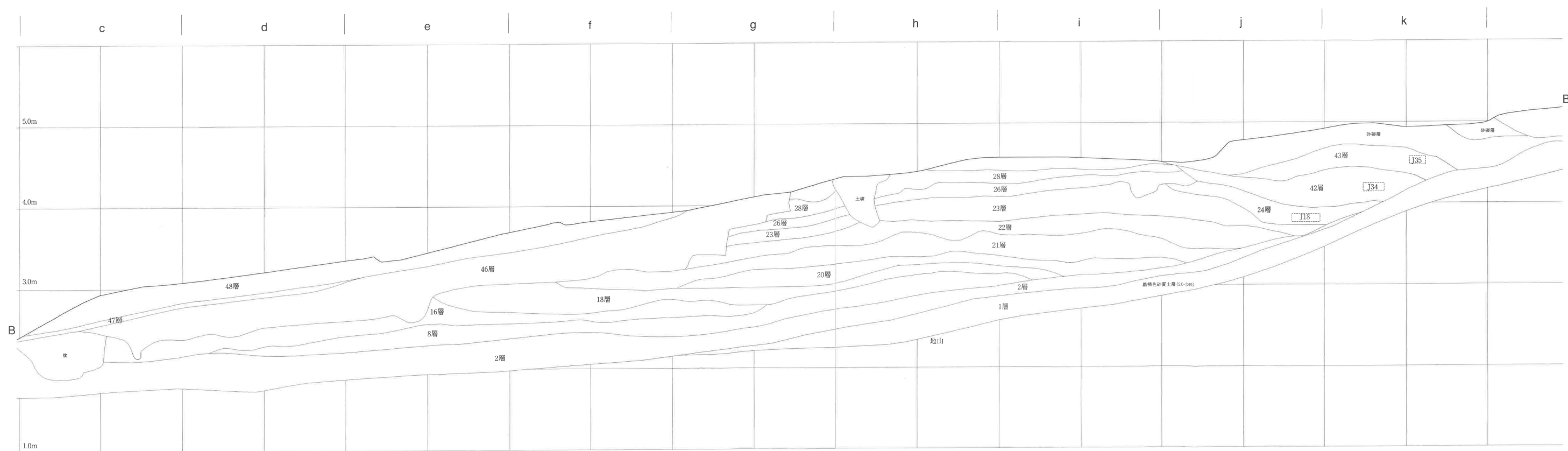


※()内の層名は発掘時層名

第12図 貝塚層序模式図

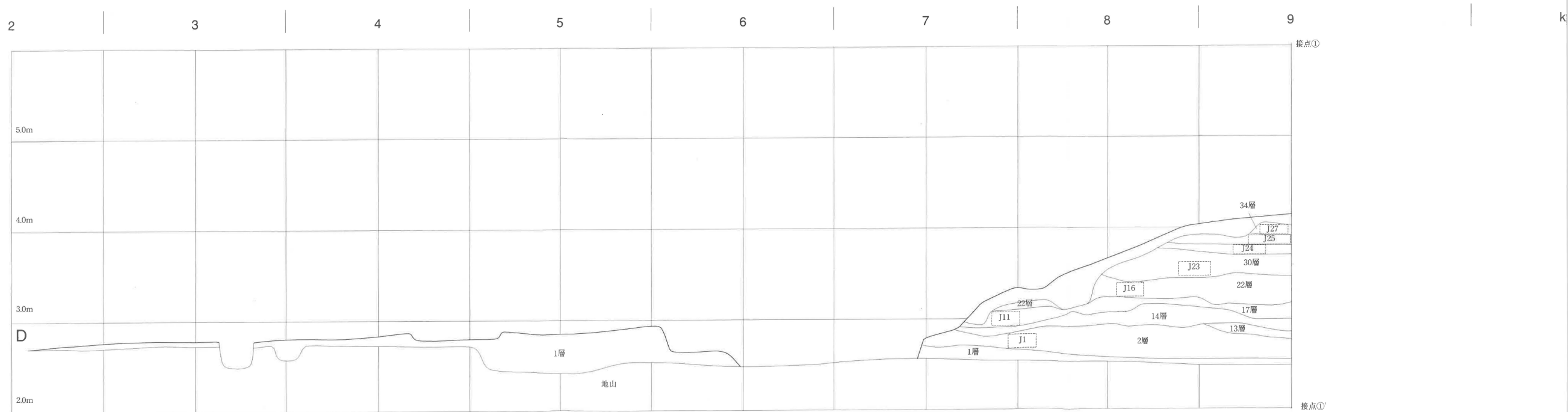
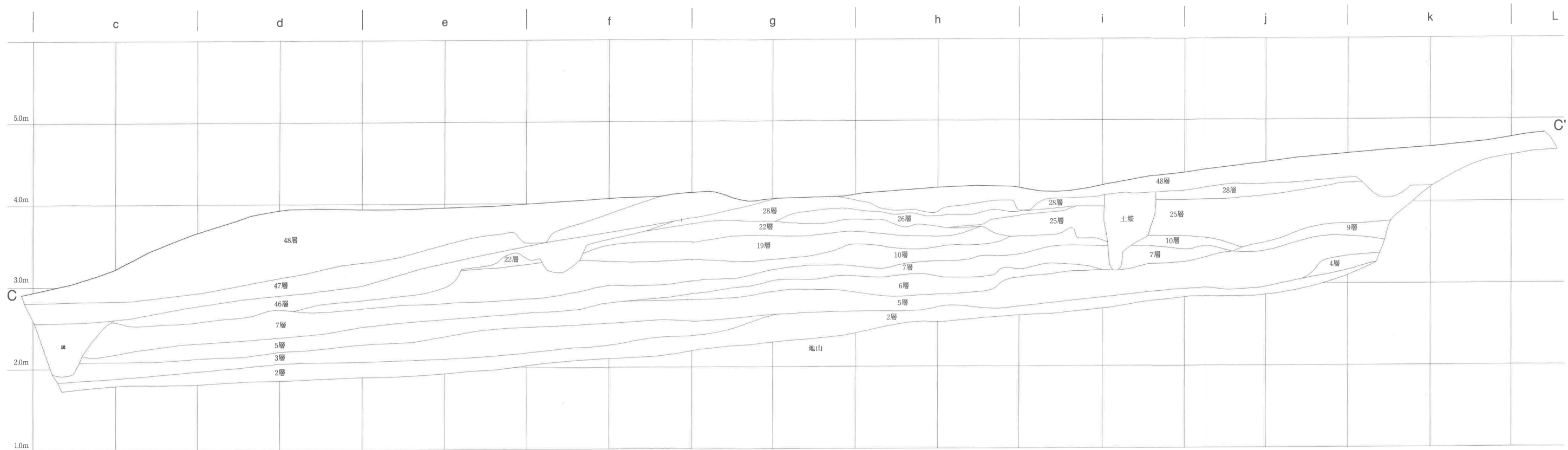


断面位置図

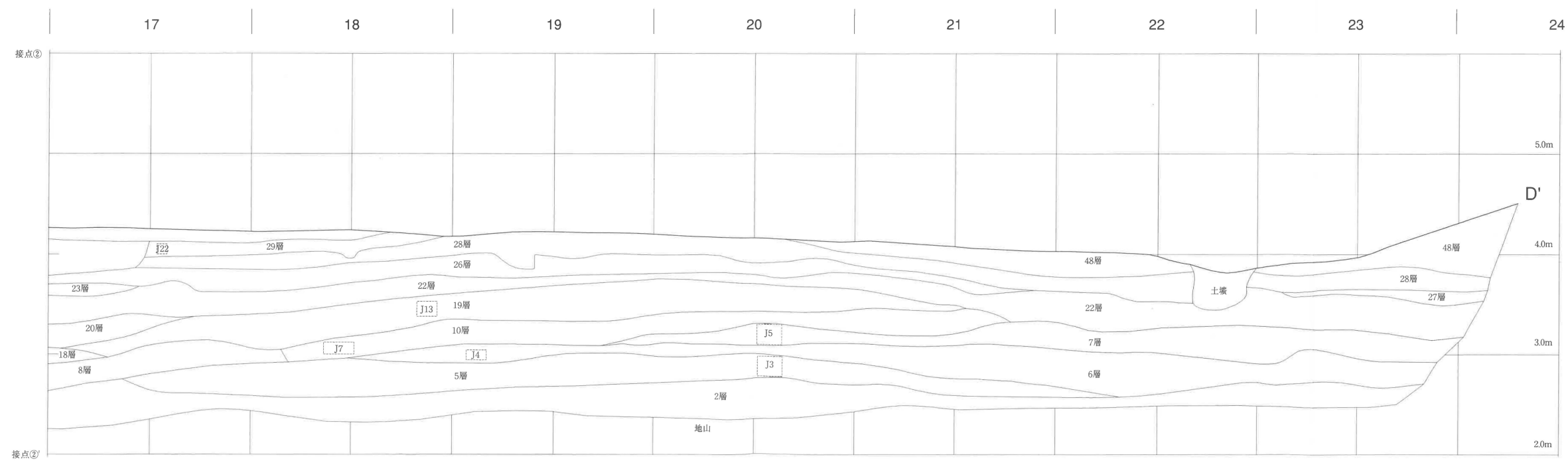
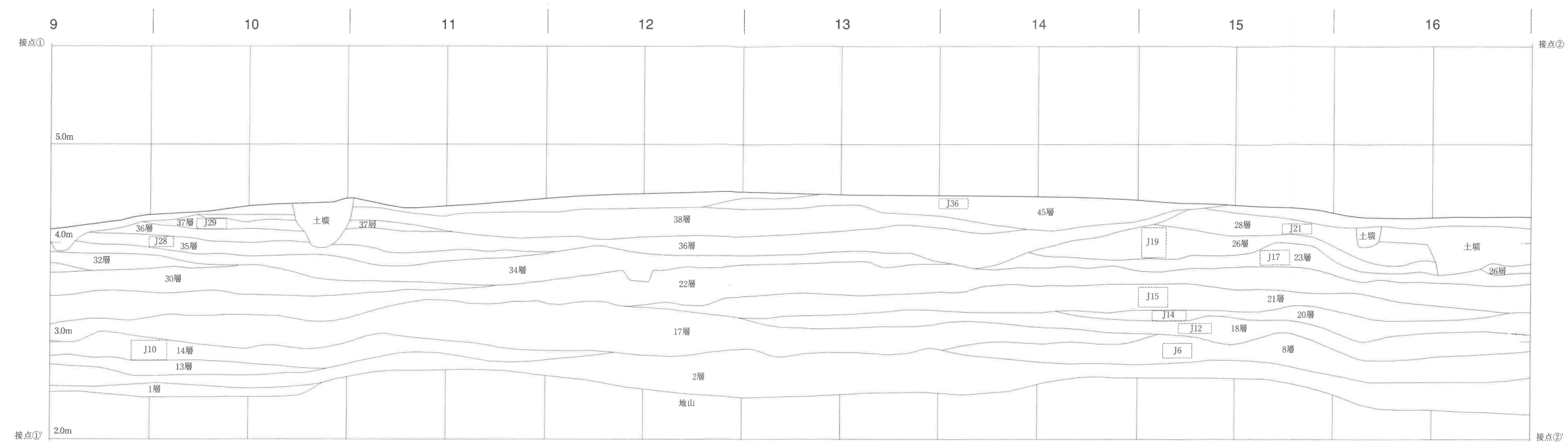


※層名は本文（第3章2）を参照

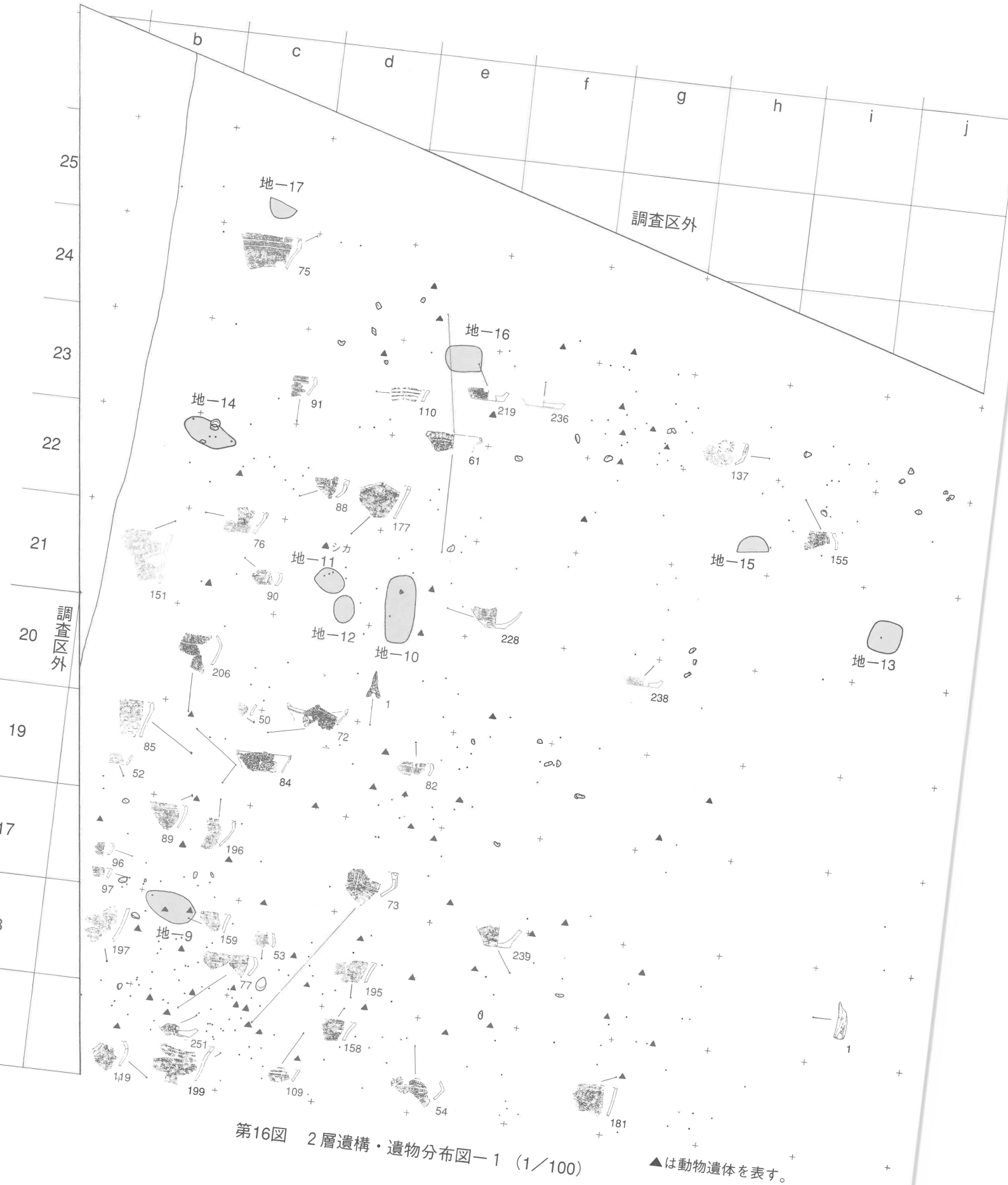
第13図 貝層断面図－1（1／50）

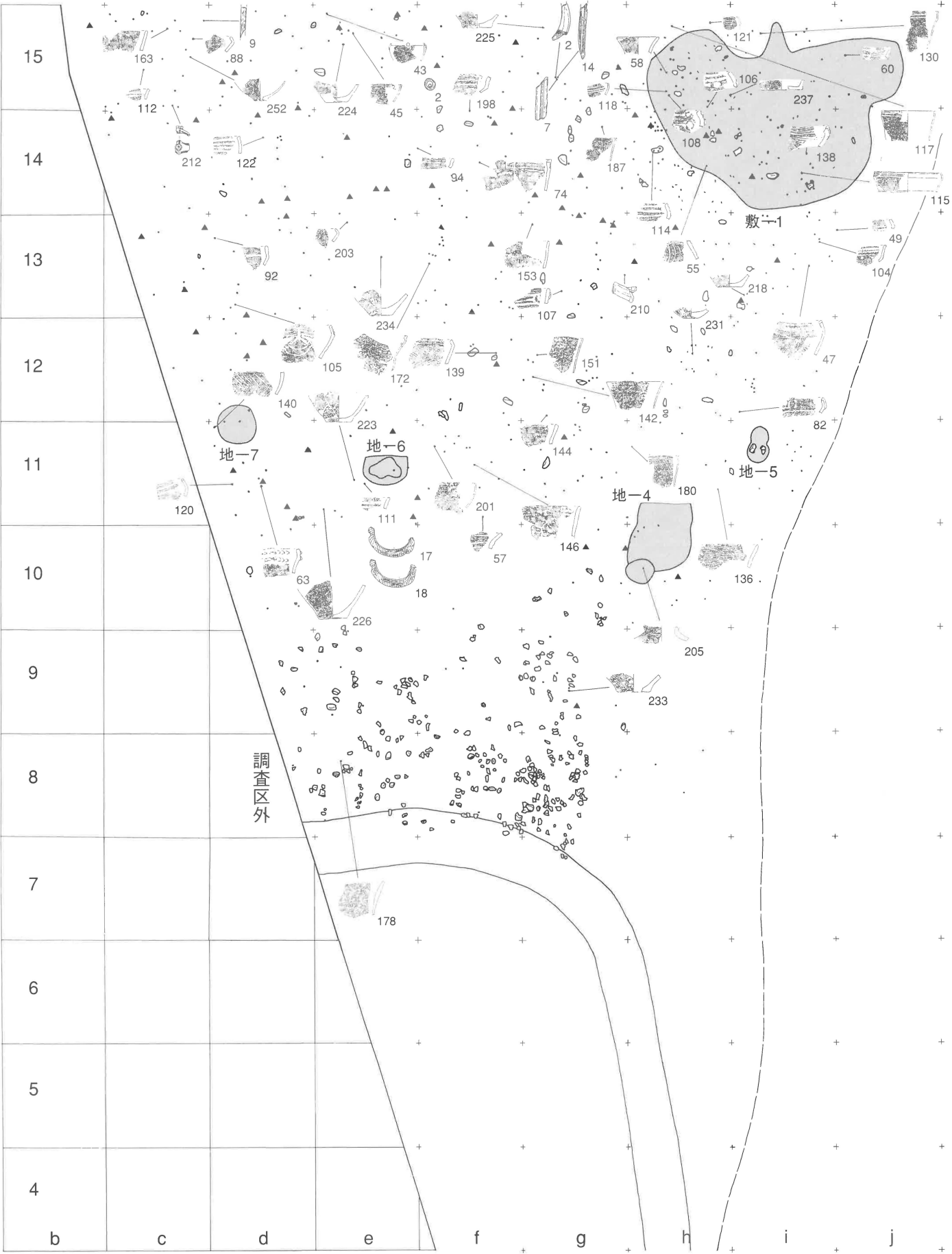


第14図 貝層断面図一 2 (1/50)

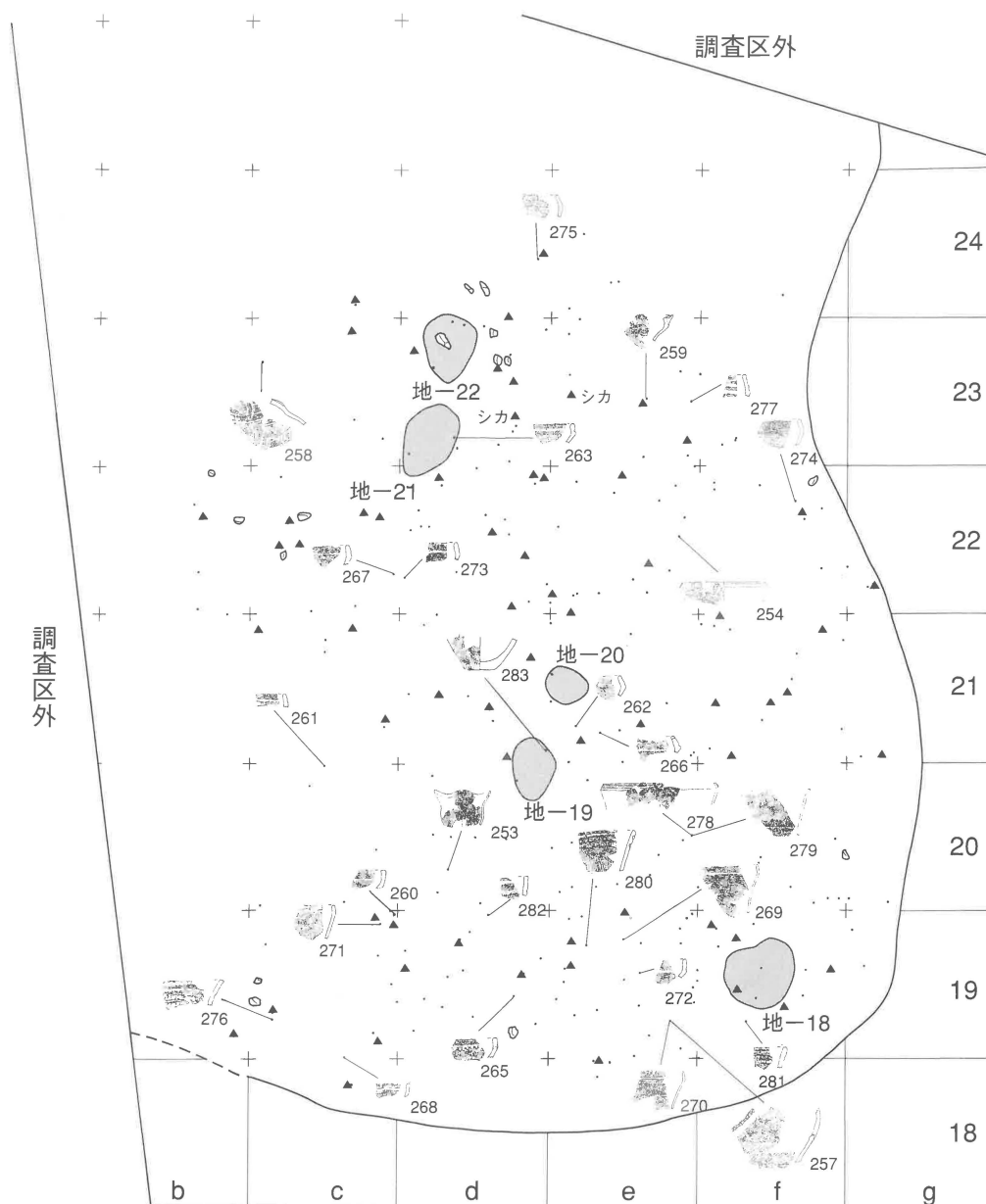


第15図 貝層断面図－3 (1/50)





第17図 2層遺構・遺物分布図-2 (1/100)



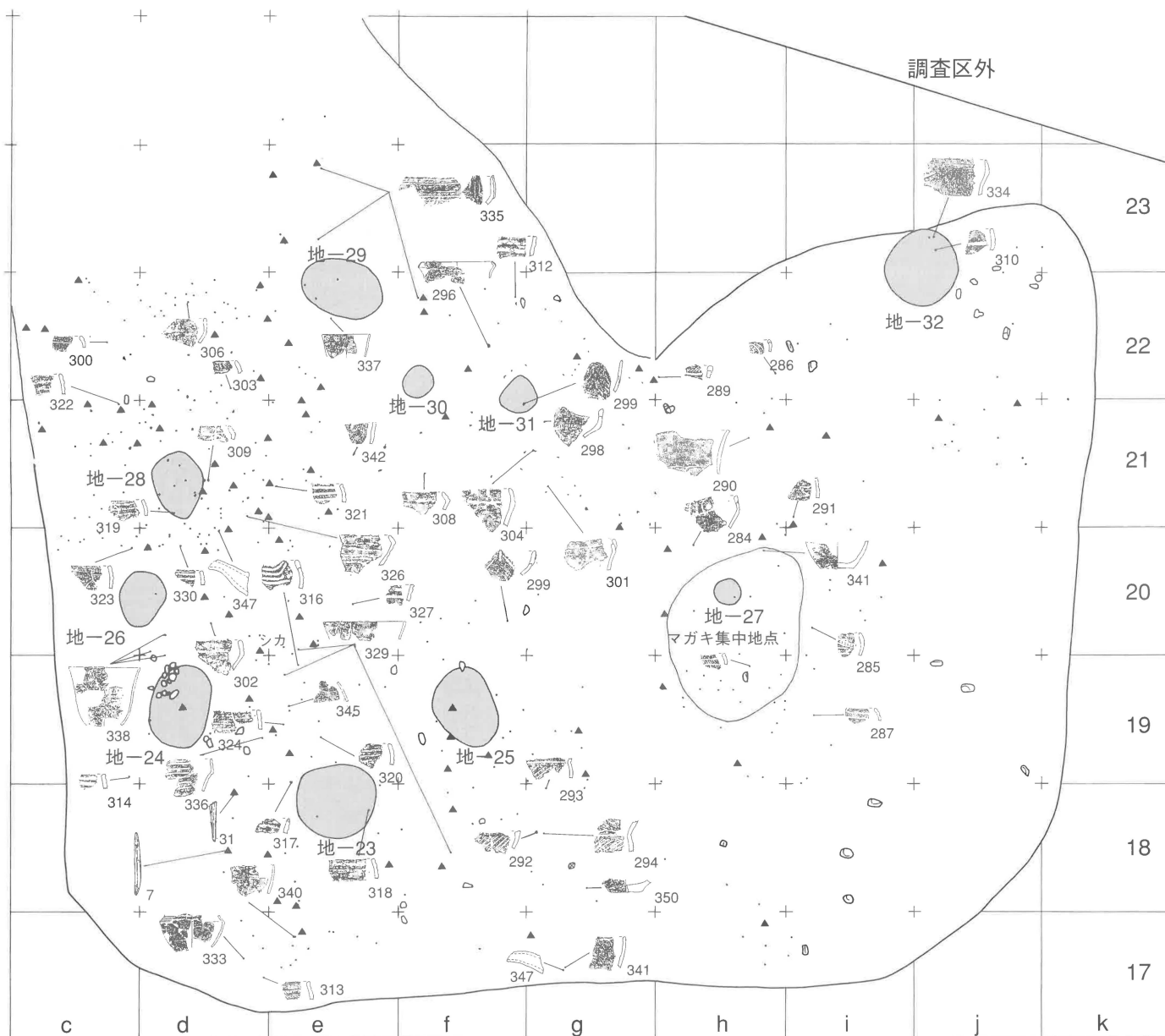
第18図 3層遺構・遺物分布図 (1/100)

2層上に堆積した貝層であり、砂が34.5%混ざる純貝層でb～g-18～25区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が5基散在して見つっている。石も16個と少ないが出土している。遺物では土器が221点、点状刺突具類が6点、扁平刺突具類が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約14m、検出幅約11m、厚さ最大31cmである。貝種組成は、ハマグリが88.3%、ヤマトシジミが2.2%、オオノガイが2.2%とハマグリ主体の貝層である。この層は遺物より後期の元住吉山Ⅰ式～宮滝式期に形成されたと思われる。

4 (砂礫) 層 [茶褐色砂礫層]

3層の東側、段丘崖際に堆積した砂礫層であり、j～k-20区周辺で確認されている。砂礫層は厚さ最大18cmで、段丘崖から崩落により堆積したものである。4層からは遺構・遺物は見つかっていない。後期の元住吉山Ⅰ式～宮滝式期間に堆積したものと考えられる。



第19図 5層遺構・遺物分布図 (1/100)

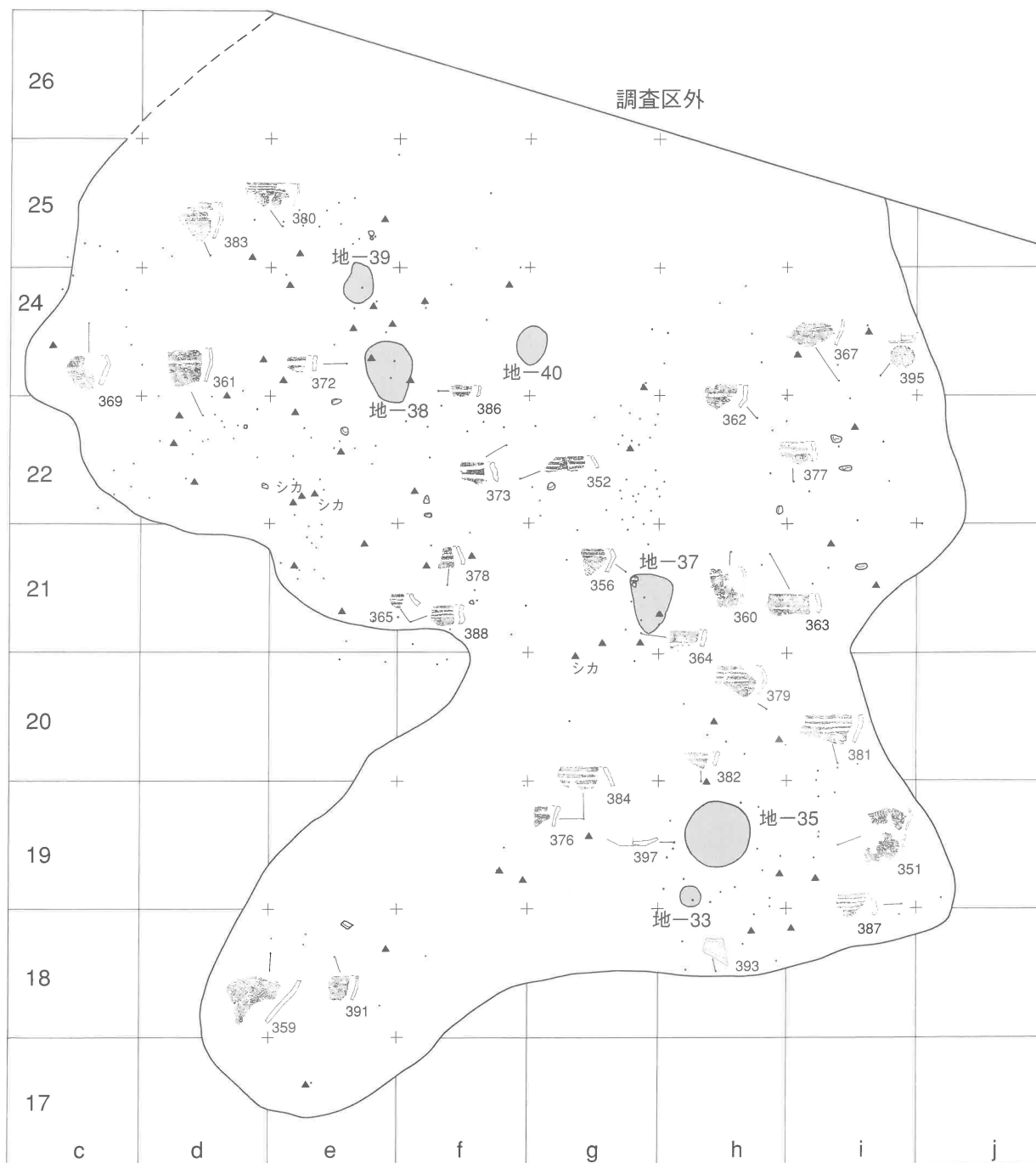
5 (38) 層 [ハマグリ純貝層] (第19図)

2層・3層上に堆積した貝層であり、砂が3.2%混ざる純貝層でc～k-17～24区にかけて分布する比較的大きなものである。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉が10基散在して見つかっている。石も46個と少ないが出土している。遺物では土器が384点、磨製石斧が1点、点状刺突具類が5点、加工のある骨が5点出土している。

貝層の規模は、検出長約18m、検出幅約16m、厚さ最大42cmである。貝種組成は、ハマグリが85.2%、マガキが11.9%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より後期の元住吉山Ⅰ式～宮滝式期に堆積したものと思われる。

6 (37) 層 [ハマグリ純貝層] (第20図)

5層上に堆積した貝層であり、砂が12.9%混ざる純貝層でc～j-17～26区にかけて分布する比較



第20図 6層遺構・遺物分布図(1/100)

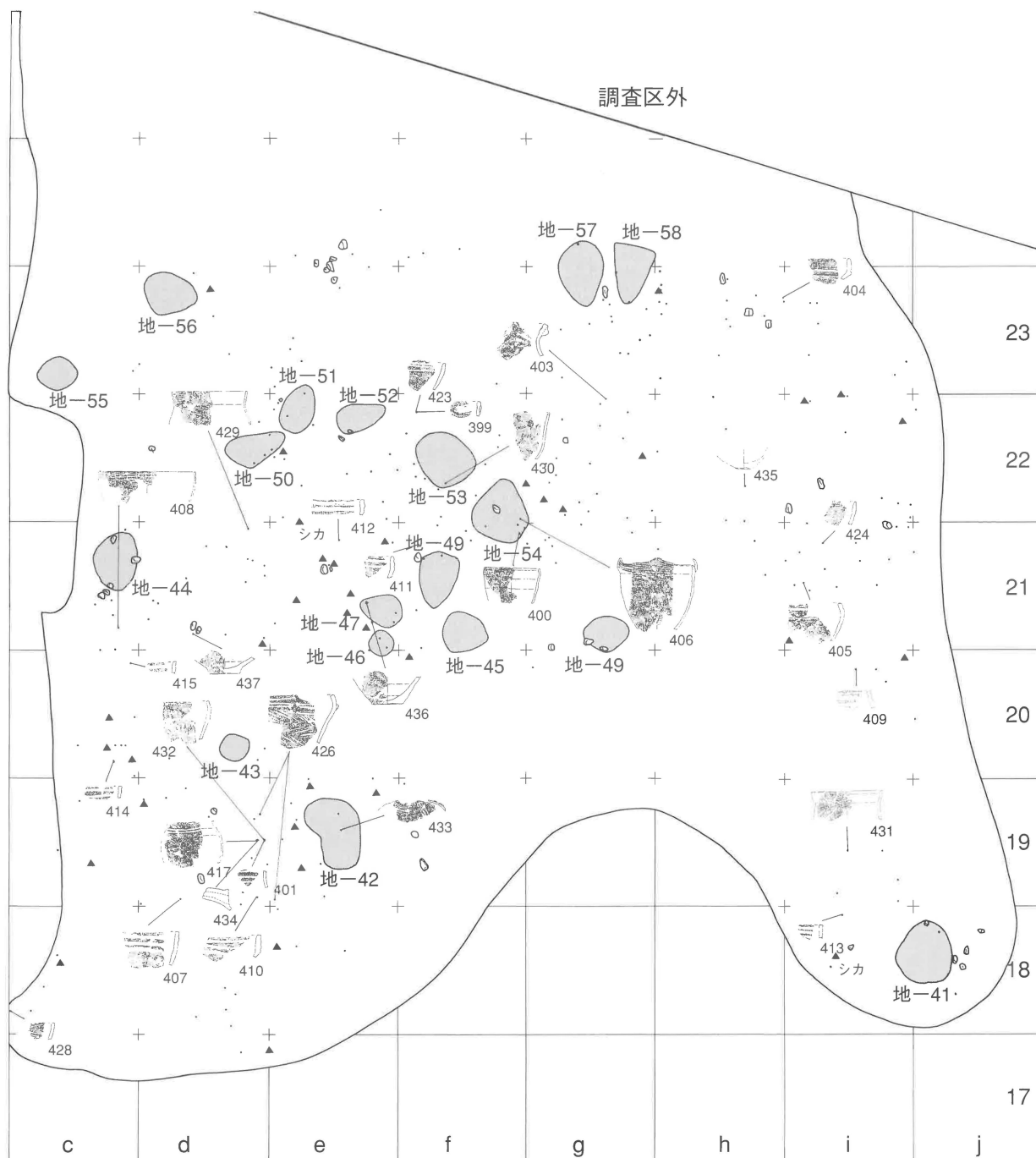
的大規模なものである。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉が8基散在して見つっている。石は15個が出土している。遺物では土器が253点、スクレイパーが1点、点状刺突具類が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約17m、検出幅約14m、厚さ最大43cmである。貝種組成は、マガキが79.2%、ハマグリが16.8%とマガキで占められる貝層である。但し、サンプル採取地点以外ではハマグリも多く、全体でみるとハマグリは半数近くは占めているようである。この層は遺物より後期の元住吉山Ⅱ式～宮滝式期に形成されたものと思われる。

7 (36) 層 [ハマグリ純貝層] (第21図)

6層上に堆積した貝層であり、砂が5.4%混ざる純貝層でc～j-17～26区にかけて分布する比較的大きなものである。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉18基が散在して見つかっている。石は38個が出土している。遺物では土器が135点、剥片が2点出土している。

貝層の規模は、検出長約17m、検出幅約15m、厚さ最大38cmである。貝種組成は、ハマグリが65.5%、マガキが24.1%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より後期後葉の宮滝式～伊川津式期に形成されたと思われる。

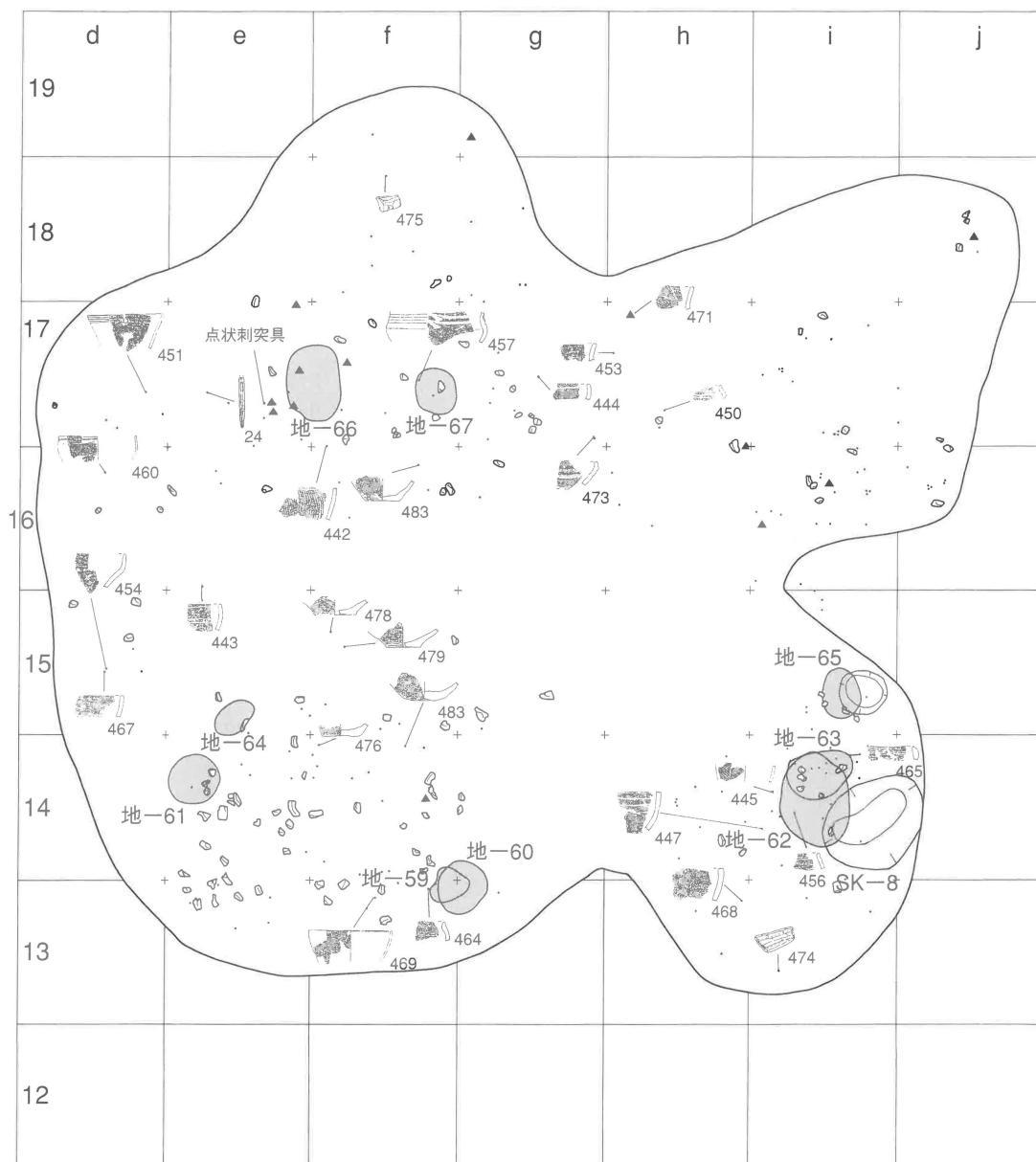


第21図 7層遺構・遺物分布図 (1/100)

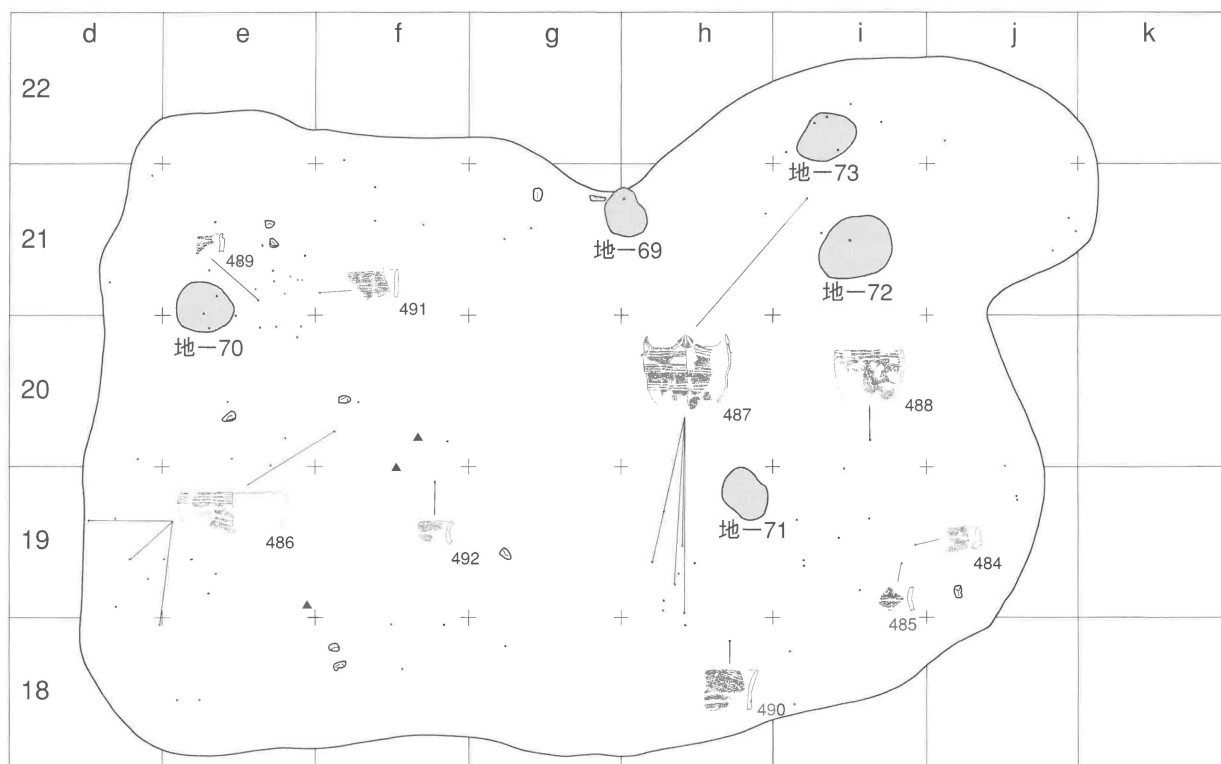
8 (29) 層 [ハマグリ純貝層] (第22図)

2層・7層上に堆積した貝層であり、砂が45.3%混ざる純貝層でd～j-13～19区にかけて分布する大規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、土壙が4基、地床炉が10基散在して見つかっている。石は94個と比較的多く出土している。遺物では土器が151点、点状刺突具類が2点出土している。

貝層の規模は、検出長約13m、検出幅約12m、厚さ最大34cmである。貝種組成は、ハマグリが93.7%、マガキが6.3%とハマグリ主体の貝層である。この層は遺物より後期の伊川津式期に形成されたものと思われる。



第22図 8層遺構・遺物分布図 (1/100)



第23図 10層遺構・遺物分布図 (1/100)

9 (砂礫) 層 [茶褐色砂礫層]

7層の東側、段丘崖際に堆積した砂礫層であり、j～k-20区周辺で確認されている。砂礫層は厚さ最大22cmで、段丘崖から崩落により5層上に堆積したものである。7層からは遺構・遺物は見つかっていない。後期後葉の伊川津式期以前に堆積したものと考えられる。

10 (35) 層 [ハマグリ純貝層] (第23図)

7層・8層上に堆積した貝層であり、砂が4.1%混ざる純貝層でd～k-18～22区にかけて広がっている。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が5基散在して見つかっている。石も10個と少ないが出土している。遺物では土器が84点出土している。

貝層の規模は、検出長約13m、検出幅約8m、厚さ最大42cmである。貝種組成は、ハマグリが85.1%、マガキが13.4%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より後期後葉の伊川津式期と思われる。

11 (16) 層 [ハマグリ純貝層] (第24図)

2層上に堆積した貝層であり、砂が11.8%混ざる純貝層でb～g-8～15区にかけて分布する大規模なものである。貝層は調査区外に延びているが、保存状態は比較的良好である。遺構では、土壇が3基、敷石炉が1基、地床炉が2基見つかっている。石も145個と多く出土している。遺物では土器が138点、石冠が1点、貝輪1点が出土している。

貝層の規模は、検出長約16m、検出幅約5m、厚さ最大22cmである。貝種組成は、ハマグリが61.0%、マガキが38.4%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より後期後葉の伊川津式期に形成されたものと思われる。

12 (14b) 層 [ハマグリ純貝層]

11層上に堆積した貝層であり、砂が22.2%混ざる純貝層でd～g-9～12区にかけて分布している。貝層は調査区外に延びているが、保存状態は比較的良好である。遺構は見つかっていない。石も13個と少ないが出土している。遺物では土器が6点出土している。

貝層の規模は、検出長約8m、検出幅約8m、厚さ最大31cmである。貝種組成は、ハマグリが98.7%とハマグリ主体の貝層である。この層は後期後葉の伊川津式期と推測される。

13 (15) 層 [ハマグリ純貝層] (第25図)

12層上に堆積した純貝層で、c～h-8～13区にかけて分布する。貝層は調査区外に延びており、所々を後世の土壌等で壊されているが保存状態は比較的良好である。

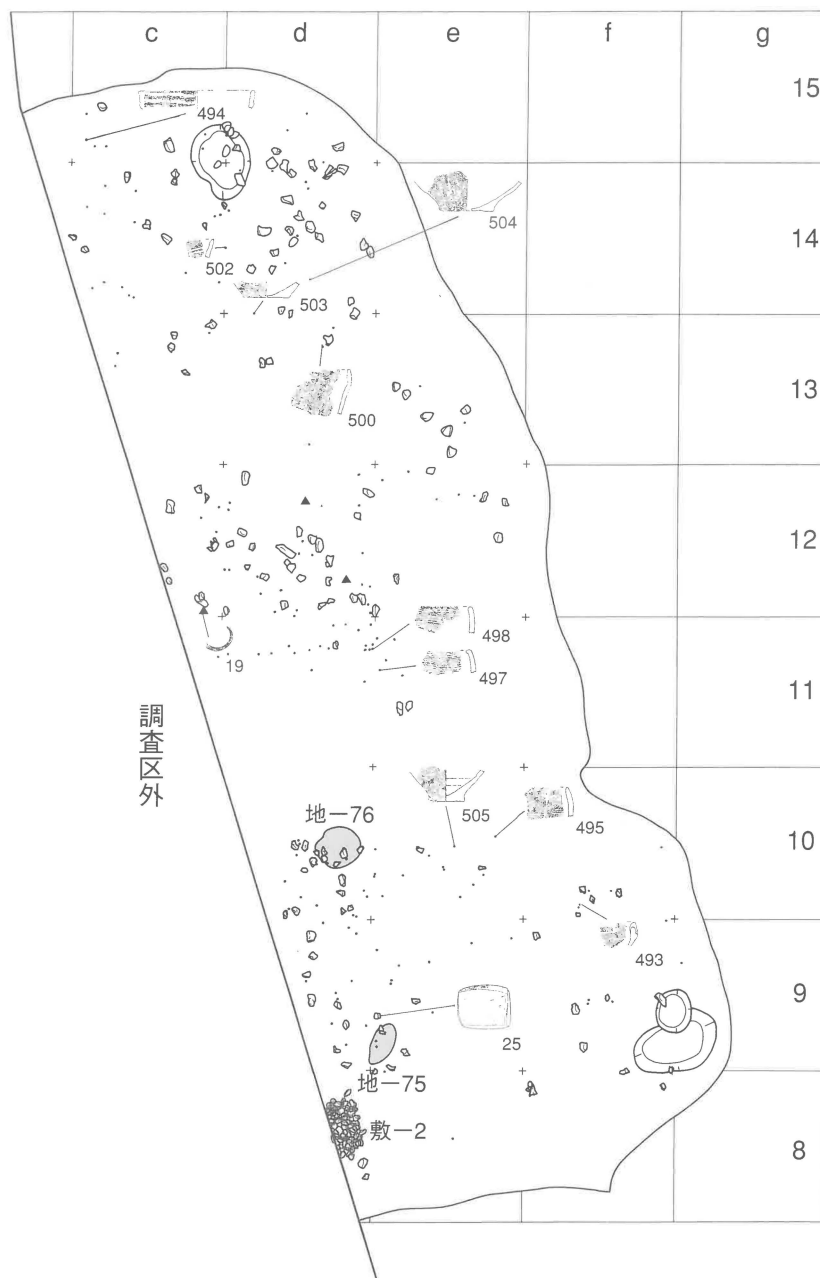
遺構では、地床炉が8基散在して見つかっている。石は約250個と多く出土している。遺物では土器が189点出土している。

貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約8m、厚さ最大60cmである。貝種組成はハマグリが主体である。この層は遺物より後期後葉の伊川津式期と思われる。

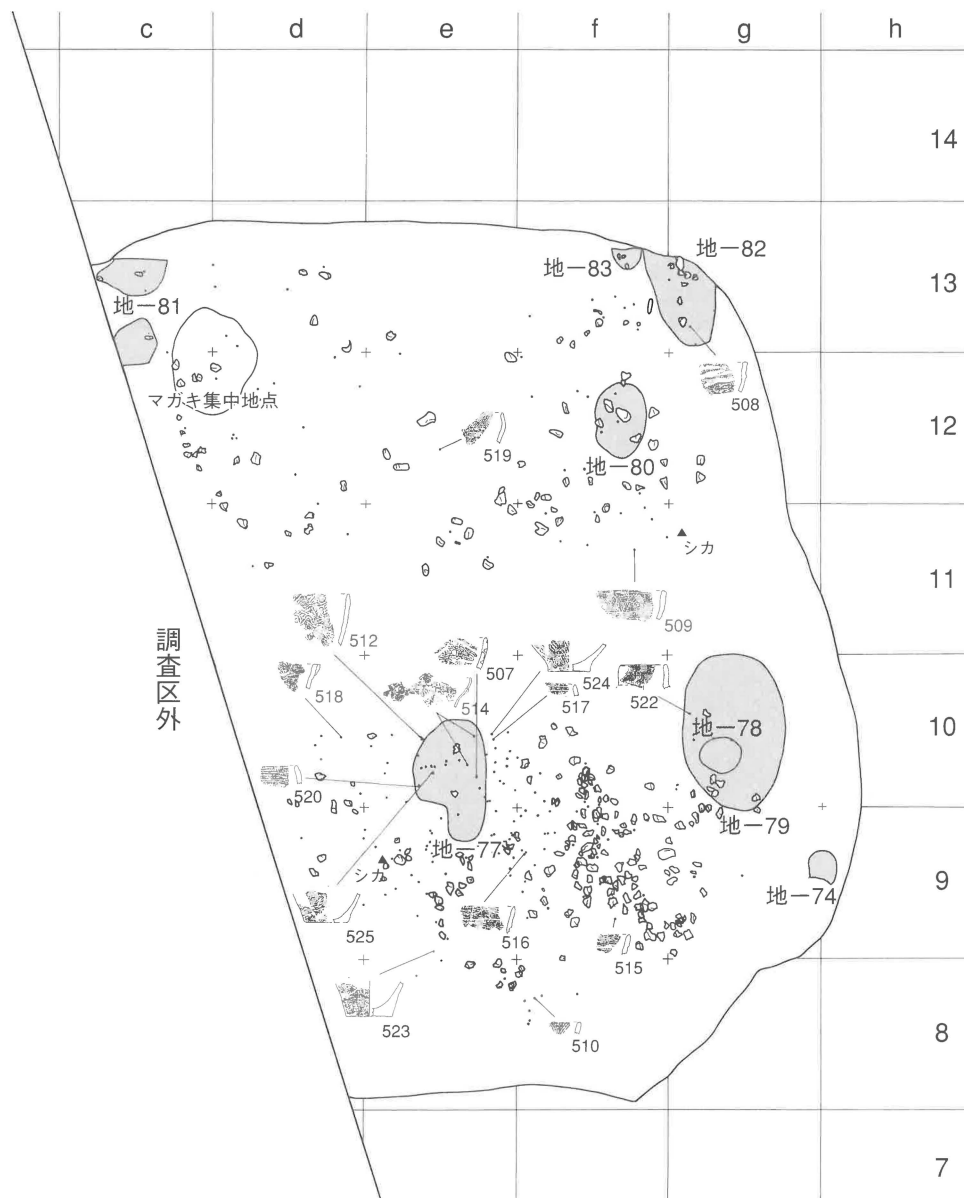
14 (14) 層 [ハマグリ純貝層] (第26図)

12層・2層上に堆積した貝層であり、砂が5.0%混ざる純貝層でc～j-7～14区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、敷石炉が6基、地床炉が12基散在して見つかっている。石は約70個が出土している。遺物では土器が53点出土している。

貝層の規模は、検出長約17m、検出幅約12m、厚さ最大38cmである。貝種組成は、ハマグリが81.7%、



第24図 11層遺構・遺物分布図 (1/100)



第25図 13層遺構・遺物分布図 (1/100)

マガキが15.9%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より後期後葉の伊川津式期に形成されたと思われる。

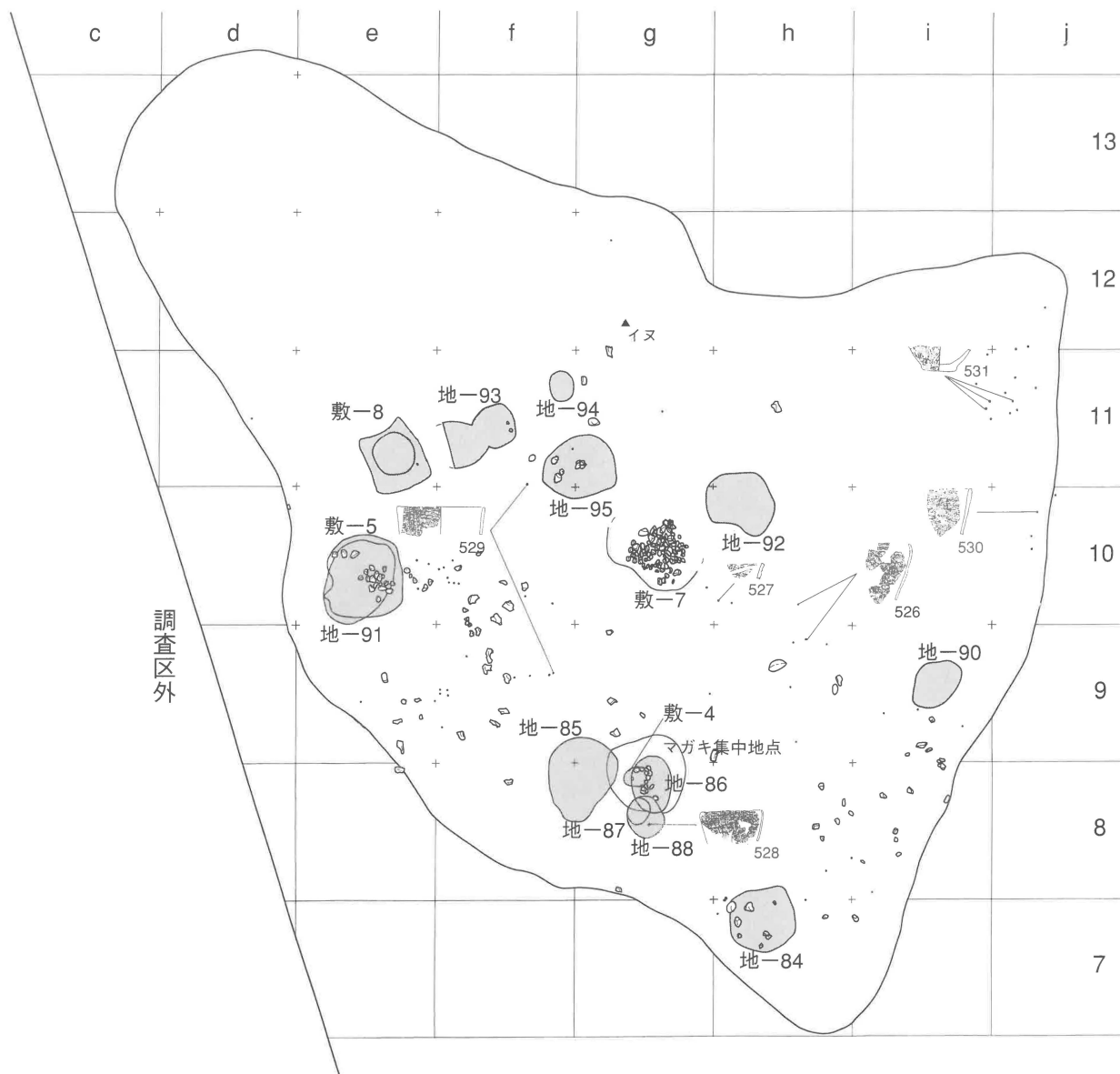
15 (13b) 層 [ハマグリ純貝層] (第27図)

14層上に堆積した純貝層でd～g-10～14区にかけて分布する小規模なものである。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉が3基見つかった。石は出土していない。遺物では土器が10点、骨刀が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約9m、検出幅約4m、厚さ最大26cmである。ハマグリ主体の貝層である。この層は遺物より後期後葉の伊川津式期に形成されたものと思われる。

16 (33) 層 [ハマグリ純貝層] (第28図)

8層上に堆積した純貝層でb～g-13～19区にかけて分布する。貝層は西側を溝で壊されているが、保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が1基見つかった。石は21個が出土してい



第26図 14層遺構・遺物分布図 (1/100)

る。遺物では土器が83点、点状刺突具類が1点、加工のある骨が2点出土している。

貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約8m、厚さ最大32cmである。ハマグリ主体の貝層で、遺物より後期後葉の伊川津式期に形成されたものと思われる。

17 (13) 層 [ハマグリ純貝層] (第29図)

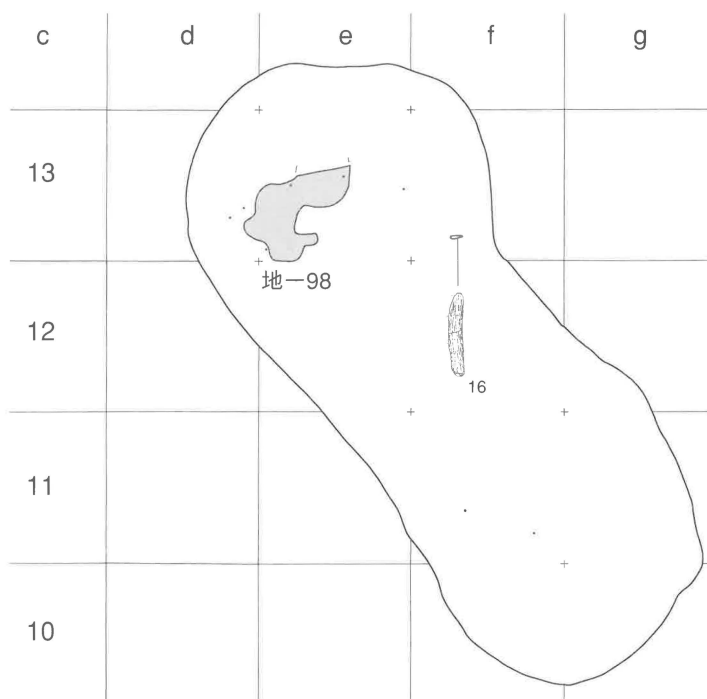
14層・15層上に堆積した貝層であり、砂が13.7%混ざる純貝層でe～j-7～15区にかけて分布する。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉が15基散在して見つっている。石は64個が出土している。遺物では土器が140点、点状刺突具類が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約16m、検出幅約10m、厚さ最大56cmである。貝種組成は、ハマグリが89.8%、マガキが8.5%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期前葉の蜆塚B式期に形成されたものと思われる。

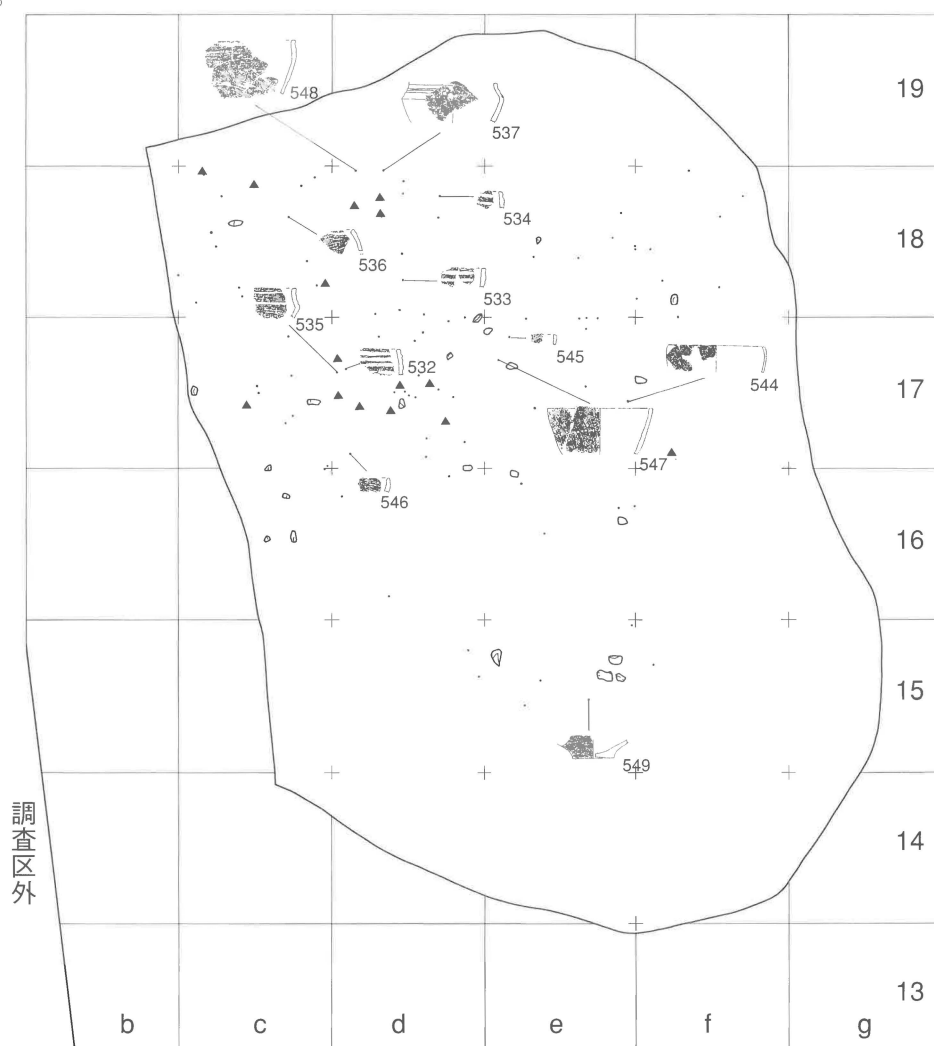
18 (28) 層 [ハマグリ純貝層] (第30図)

8層・16層上に堆積した貝層であり、砂が2.3%混ざる純貝層でd～k-13～18区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が8基見つかった。石は76個が出土している。遺物では土器が50点、磨製石斧が1点、加工のある骨が2点出土している。

貝層の規模は、検出長約15m、検出幅約9m、厚さ最大40cmである。貝種組成は、ハマグリが85.6%、マガキが11.4%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期前葉の蜆塚B式期に形成されたものと思われる。



第27図 15層遺構・遺物分布図 (1/100)



第28図 16層遺構・遺物分布図 (1/100)

19 (34) 層 [ハマグリ純貝層] (第31図)

10層上に堆積した貝層であり、砂が2.6%混ざる純貝層でe～j-17～22区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が6基見つかっている。石は12個と少ないが出土している。遺物では土器が43点、加工された骨が2点出土している。

貝層の規模は、検出長約11m、検出幅約10m、厚さ最大32cmである。貝種組成は、ハマグリが88.6%、マガキが3.8%、オオノガイが3.0%とハマグリとマガキ、オオノガイ等で占められる貝層である。この層は遺物より後



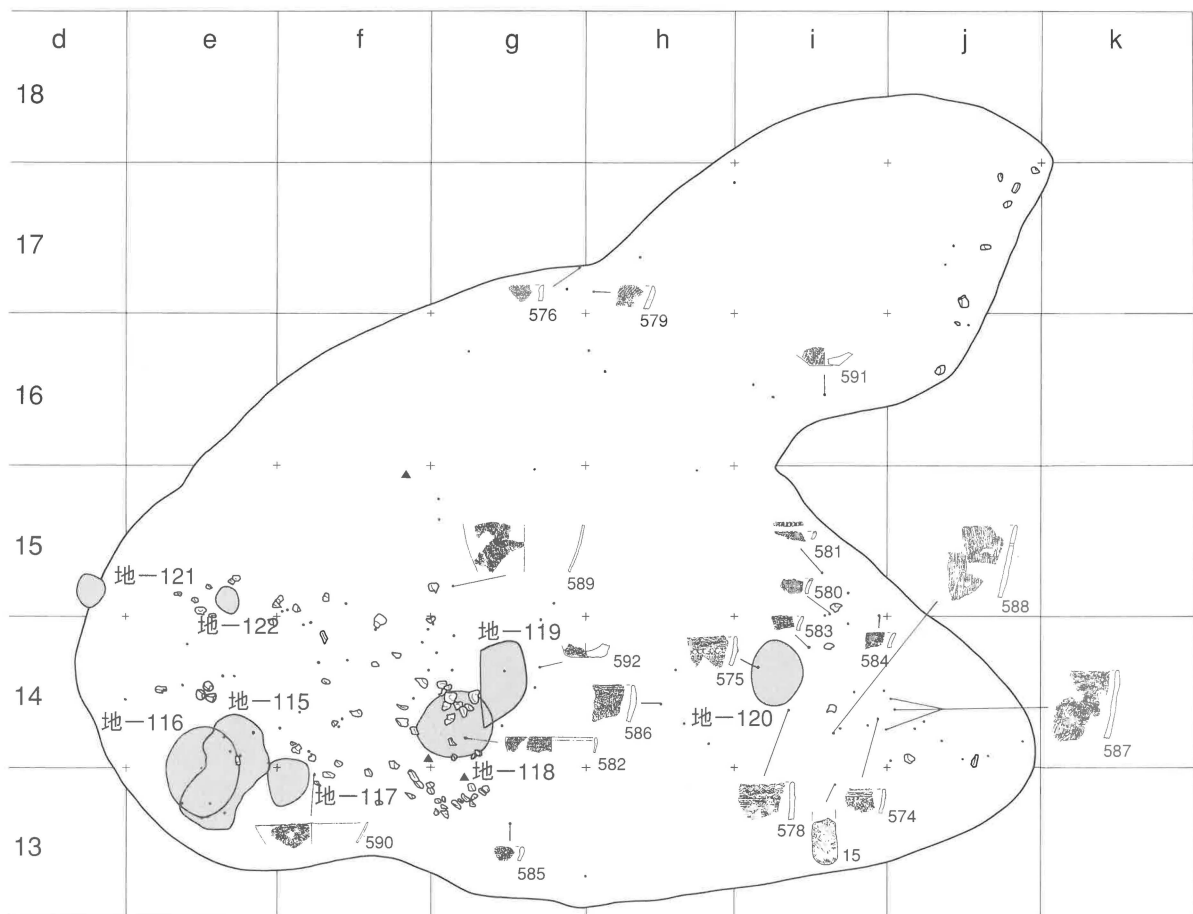
第29図 17層遺構・遺物分布図 (1/100)

期後葉の伊川津式期～晩期前葉の蜆塚B式期と思われる。

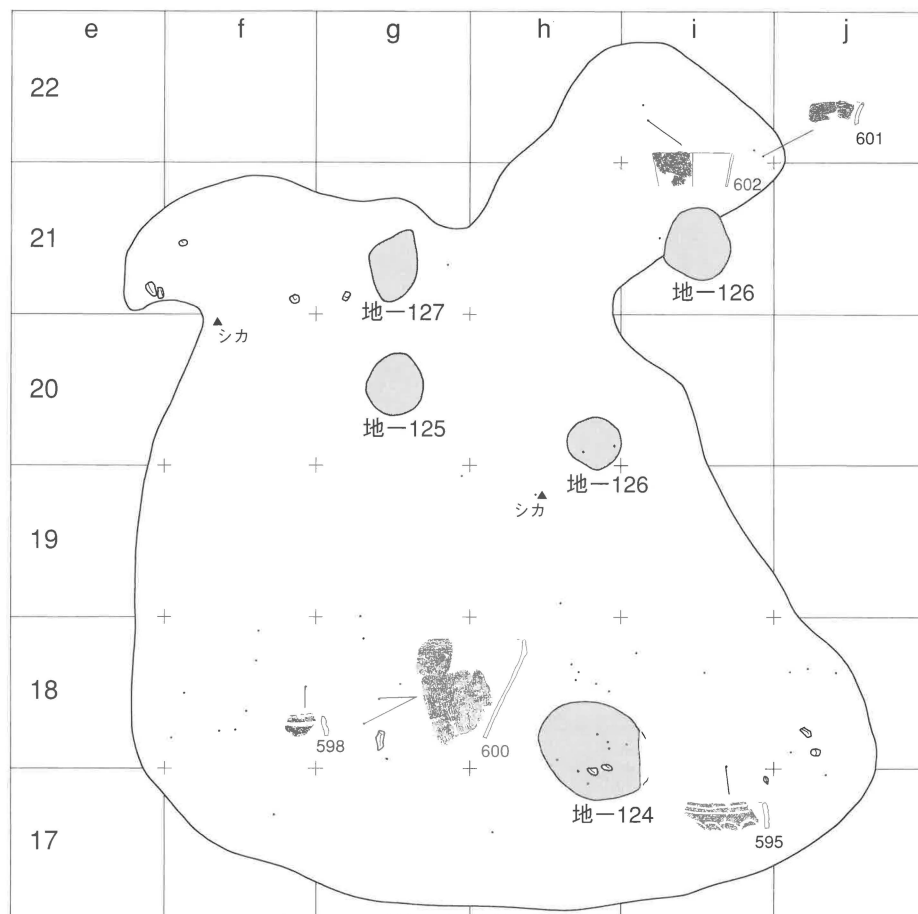
20 (27) 層 [ハマグリ純貝層] (第32図)

18層上に堆積した貝層であり、砂が1.6%混ざる純貝層でf～j-14～18区にかけて分布する小規模なものである。貝層の保存状態は良好である。遺構は確認されていない。石は6個と少ないが出土している。遺物では土器が22点出土しているが、貝層規模で見ると極めて少ない。

貝層の規模は、検出長約9m、検出幅約5m、厚さ最大26cmである。貝種組成は、ハマグリが94.7%、ヤマトシジミが4.6%とハマグリとヤマトシジミで占められる貝層である。この層は遺物より晩期前葉の蜆塚B式期に形成されたものと思われる。



第30図 18層遺構・遺物分布図 (1/100)

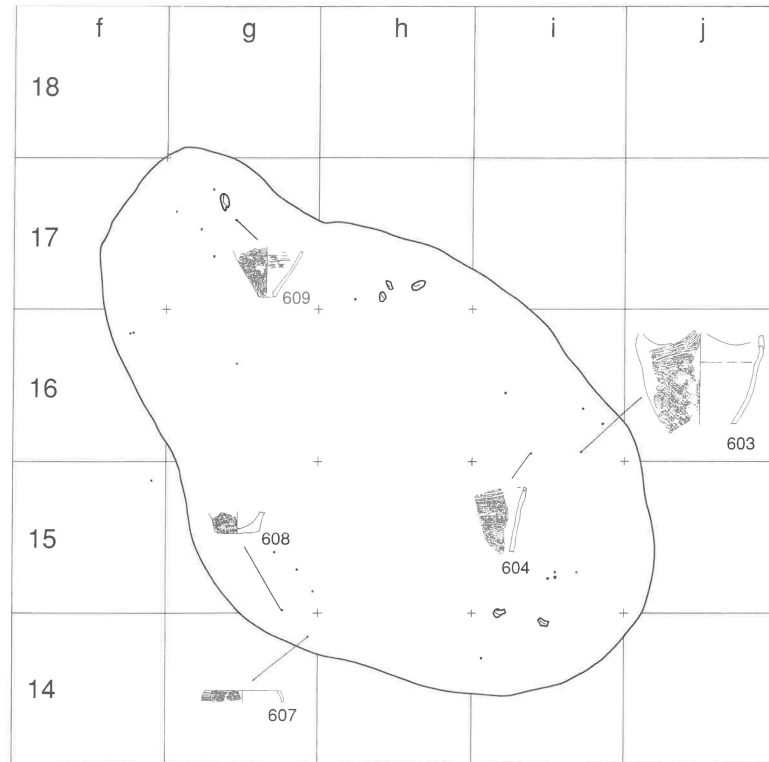


第31図 19層遺構・遺物分布図 (1/100)

21 (26) 層 [ハマグリ純貝層] (第33図)

18層・20層上に堆積した貝層であり、砂が7.7%混ざる純貝層でd～j-12～19区にかけて分布する。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉が2基見つかっている。石は61個が出土している。遺物では土器が90点、磨製石斧1点、剥片1点、針?1点、加工された骨が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約16m、検出幅約9m、厚さ最大34cmである。貝種組成は、ハマグリが95.2%、オオノガイが2.6%とハマグリで占められる貝層である。



第32図 20層遺構・遺物分布図 (1/100)

この層は遺物より晩期前葉の蜆塚B式期に形成されたものと思われる。

22 (12) 層 [ハマグリ純貝層] (第34・35図)

7層・17層・19層・21層上に堆積した貝層であり、砂が6.8%混ざる純貝層でd～k-7～25区にかけて分布する最大規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が17基散在して見つかっている。石も93個と少ないが出土している。遺物では土器が139点、磨製石斧が1点、点状刺突具類1点が出土している。

貝層の規模は、検出長約34m、検出幅約11m、厚さ最大38cmである。貝種組成は、ハマグリが91.7%、マガキが6.8%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期前葉の蜆塚B式期に形成されたものと思われる。

23 (25) 層 [ハマグリ純貝層] (第36図)

22層上に堆積した貝層であり、砂が3.8%混ざる純貝層でf～k-13～19区にかけて分布する。貝層の保存状態は良好である。遺構では、地床炉が2基散在して見つかっている。石は14個が出土している。遺物では土器が77点、磨製石斧が1点出土しているが、貝層規模で見ると極めて少ない。

貝層の規模は、検出長約13m、検出幅約9m、厚さ最大40cmである。貝種組成は、ハマグリが97.2%とハマグリ主体の貝層である。この層は遺物より晩期の蜆塚B式期または稲荷山式期に形成されたものと思われる。

24 (32) 層 [ハマグリ純貝層] (第37図)

23層上に堆積した貝層であり、砂が5.1%混ざる純貝層でi～k-13～19区にかけて分布するものである。貝層の保存状態は良好である。遺構は確認されていない。石は8個と少ないが出土している。

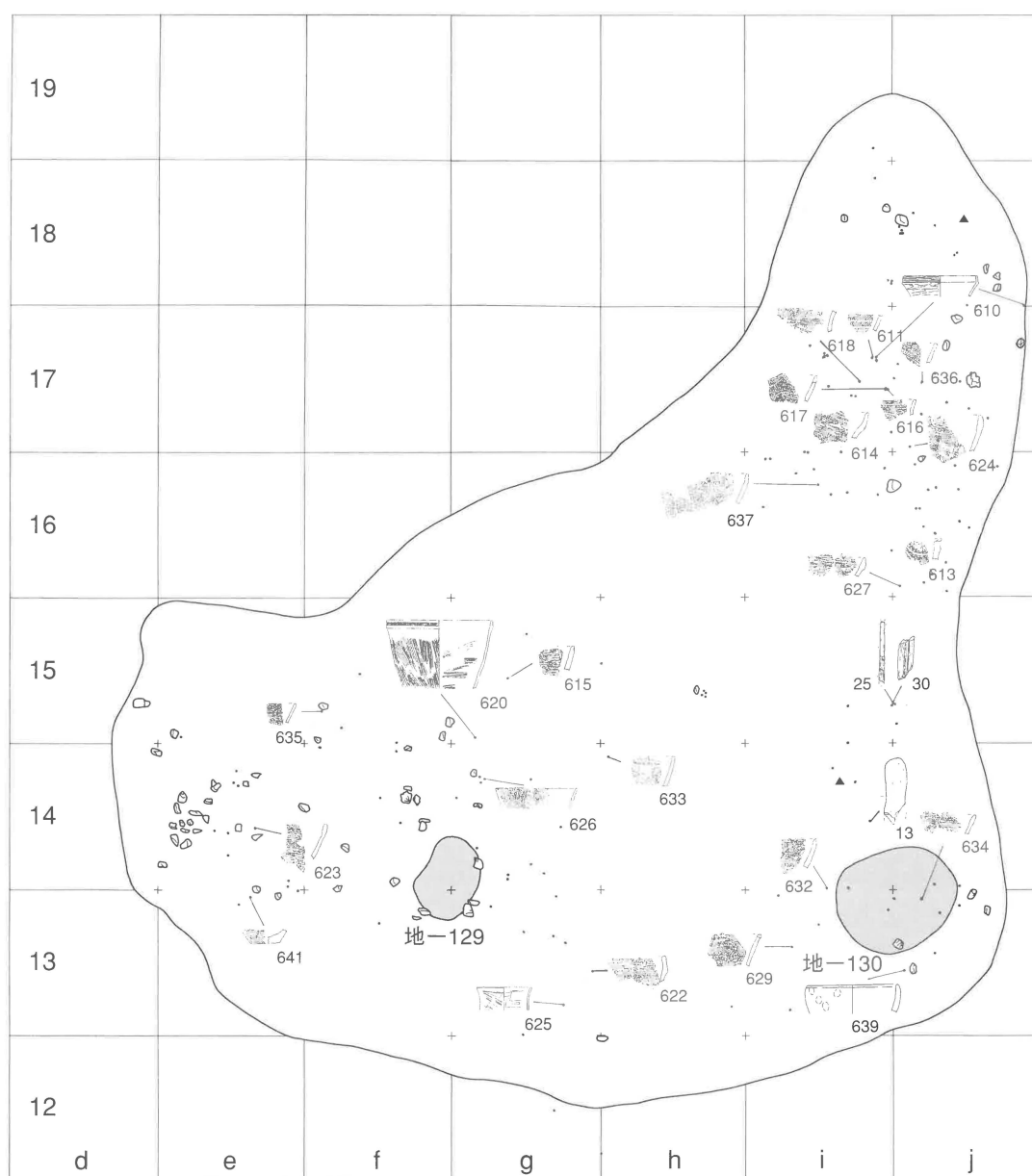
遺物では土器が25点出土しているが、貝層規模で見ると極めて少ない。

貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約4m、厚さ最大28cmである。貝種組成は、ハマグリが77.8%、マガキが20.0%、シオフキが2.2%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

25 (41) 層 [マガキ純貝層] (第38図)

9層・10層上に堆積した純貝層で i ~ k - 18~24区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が3基散在して見つかった。石も9個と少ないが出土している。遺物では土器が118点出土している。

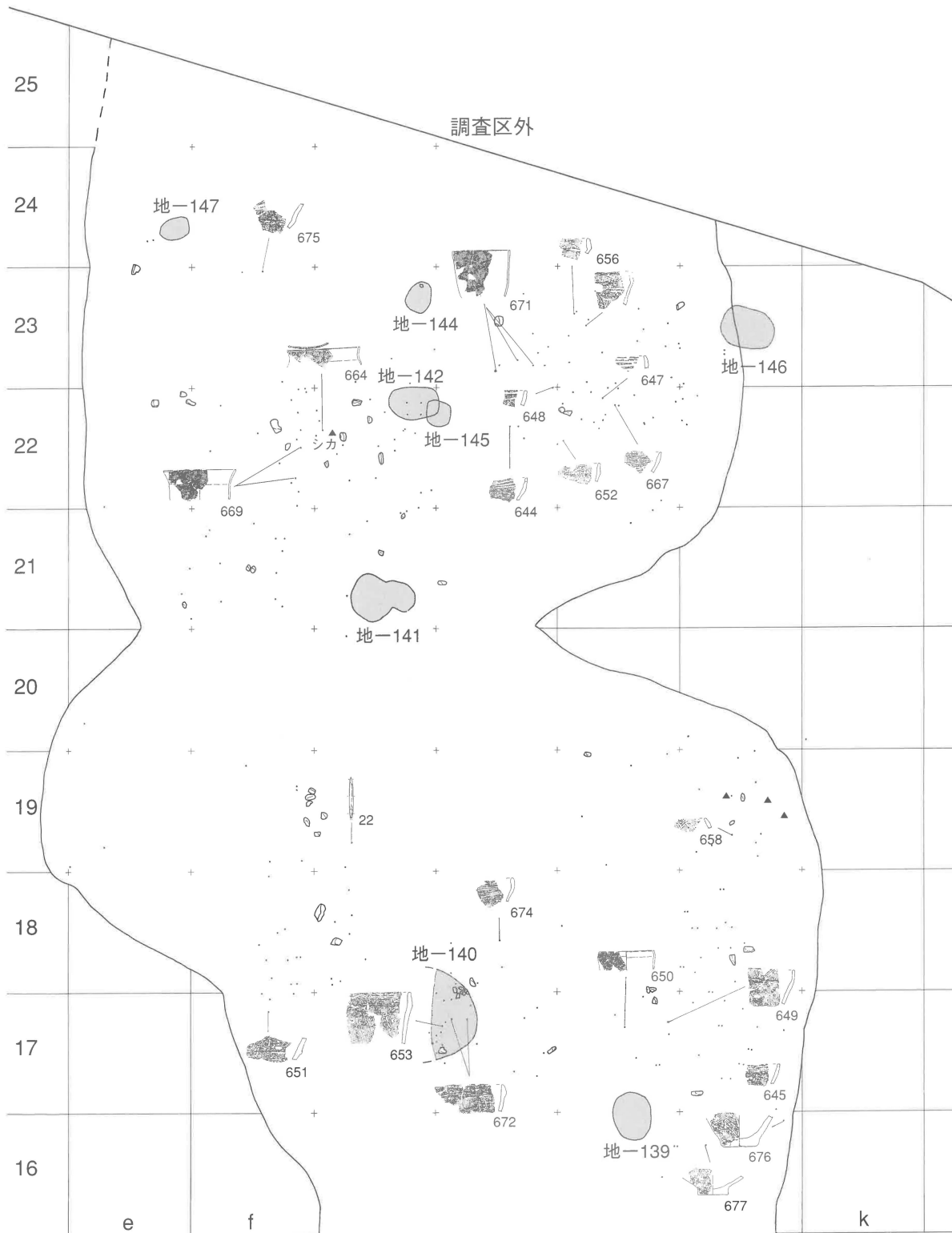
貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約5m、厚さ最大61cmである。貝種組成は、マガキが主体の貝層である。この層は遺物より晩期の稲荷山式期に形成されたものと思われる。



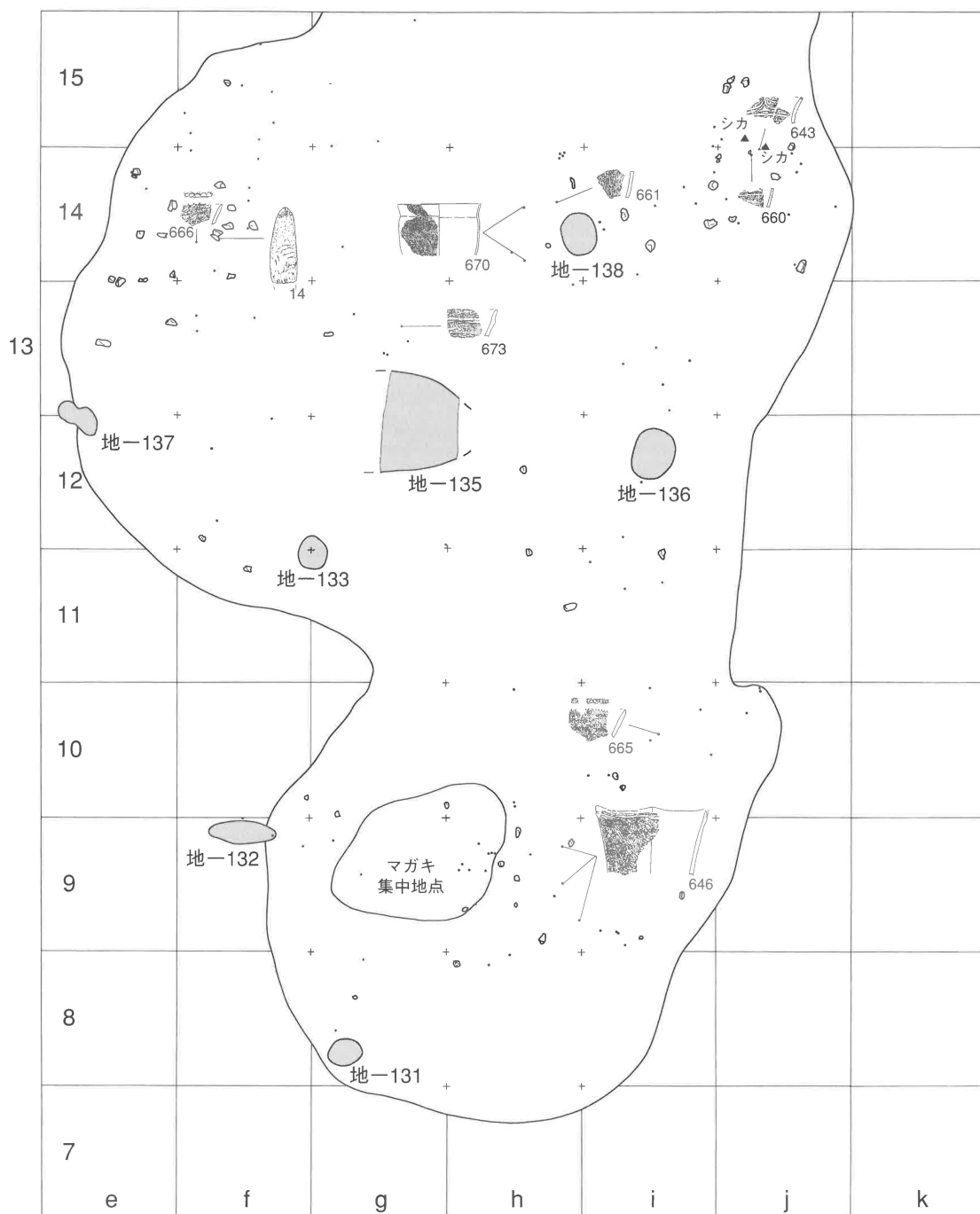
第33図 21層遺構・遺物分布図 (1/100)

26 (24) 層 [ハマグリ純貝層] (第40図)

22層・23層・25層上に堆積した貝層であり、砂が42.5%混ざる純貝層でf～k-13～23区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が5基散在して見つかった。石は21個と少ないが出土している。遺物では土器が192点、剥片が1点出土しているが、貝層規模で



第34図 22層遺構・遺物分布図-1 (1/100)



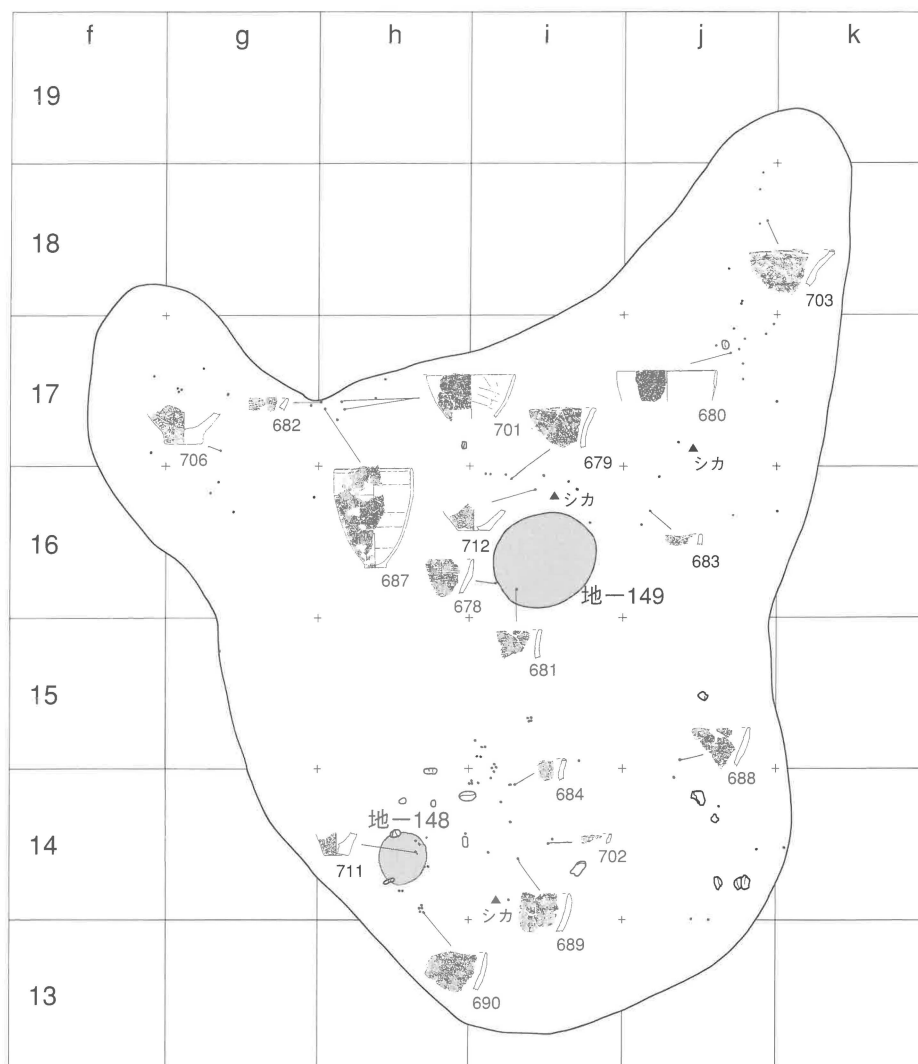
第35図 22層遺構・遺物分布図-2 (1/100)

見ると極めて少ない。

貝層の規模は、検出長約19m、検出幅約10m、厚さ最大24cmである。貝種組成は、ハマグリが96.0%、オオノガイが3.5%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

27 (40) 層 [ハマグリ純貝層] (第39図)

22層上に堆積した貝層であり、砂が9.7%混ざる純貝層で f ~ i - 23~25区にかけて分布する小規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が1基見つかった。石



第36図 23層遺構・遺物分布図 (1/100)

は4個と少ないが出土している。遺物では土器が5点出土しているが、貝層規模で見ると極めて少ない。

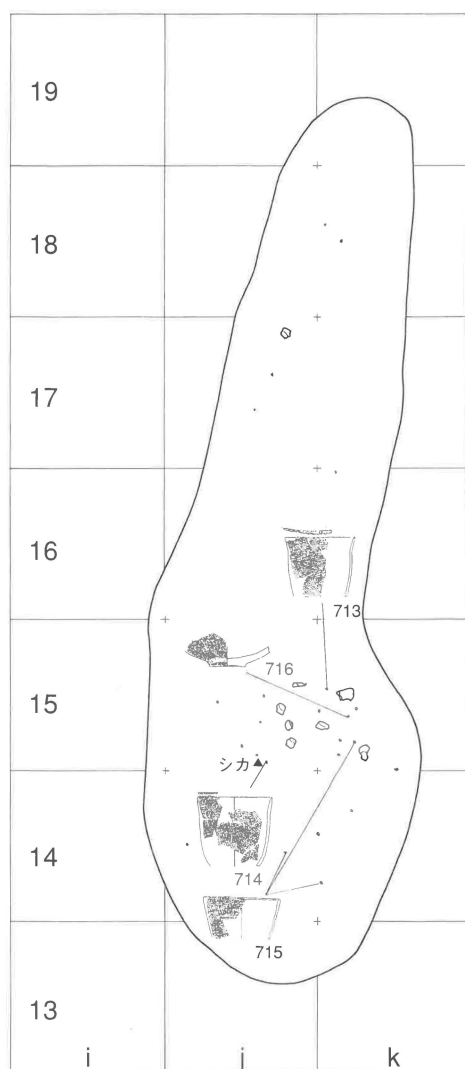
貝層の規模は、検出長約6m、検出幅約4m、厚さ最大18cmである。貝種組成は、ハマグリが99.3%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

28 (23) 層 [ハマグリ純貝層] (第41図)

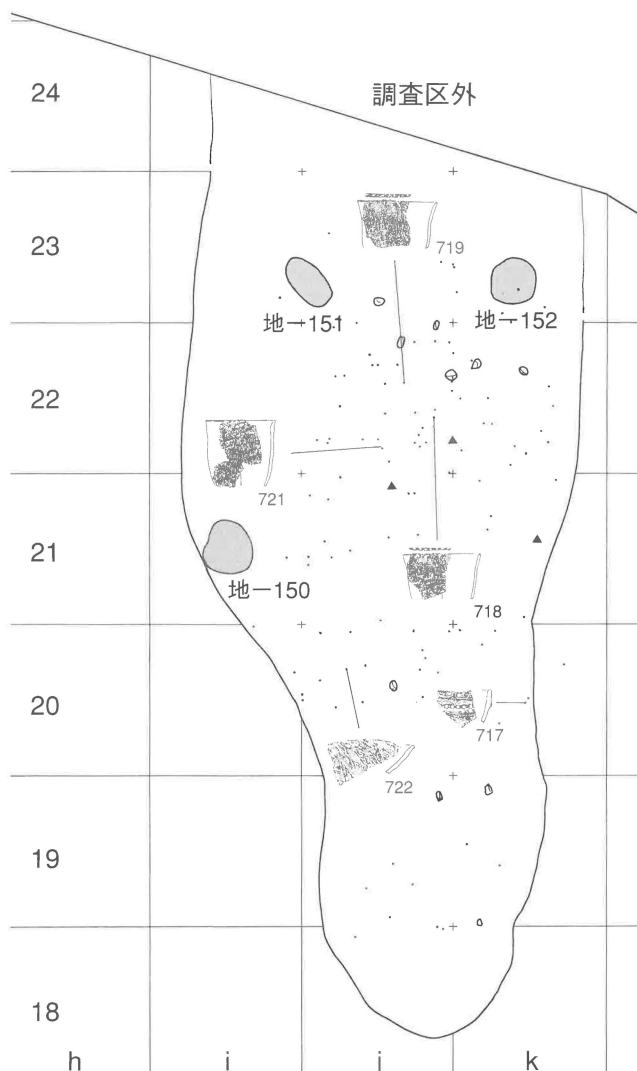
22層・26層上に堆積した貝層であり、砂が32.7%混ざる純貝層でe～k-14～25区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が14基散在して見つかった。石は36個と少ないが出土している。遺物では土器が141点、磨製石斧が2点、点状刺突具類が1点、加工された骨が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約22m、検出幅約11m、厚さ最大34cmである。貝種組成は、ハマグリが95.2%、ヤマトシジミが1.8%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

29 (23c) 層 [ハマグリ純貝層]



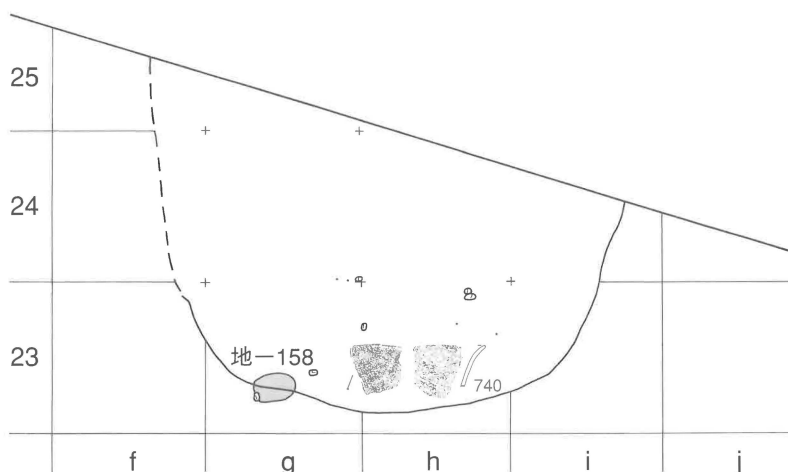
第37図 24層遺構・遺物分布図 (1/100)



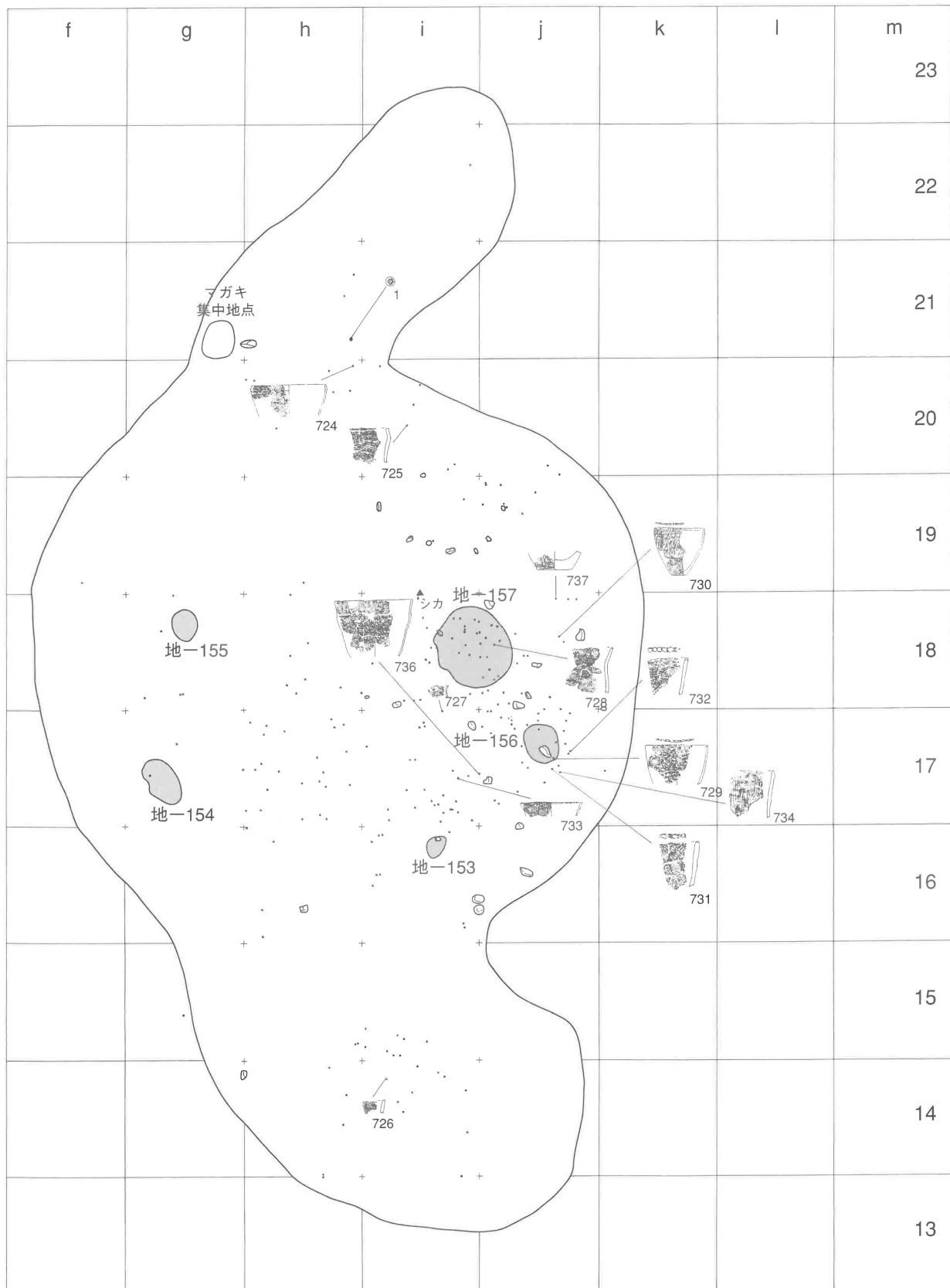
第38図 25層遺構・遺物分布図 (1/100)

28層上に堆積した貝層であり、砂が6.4%混ざる純貝層でg～1-17～18区にかけて分布する。貝層は所々を後世の遺構で壊されており、保存状態はあまり良好ではない。遺構は確認されていない。石は1個と少ないが出土している。遺物では土器が17点出土している。

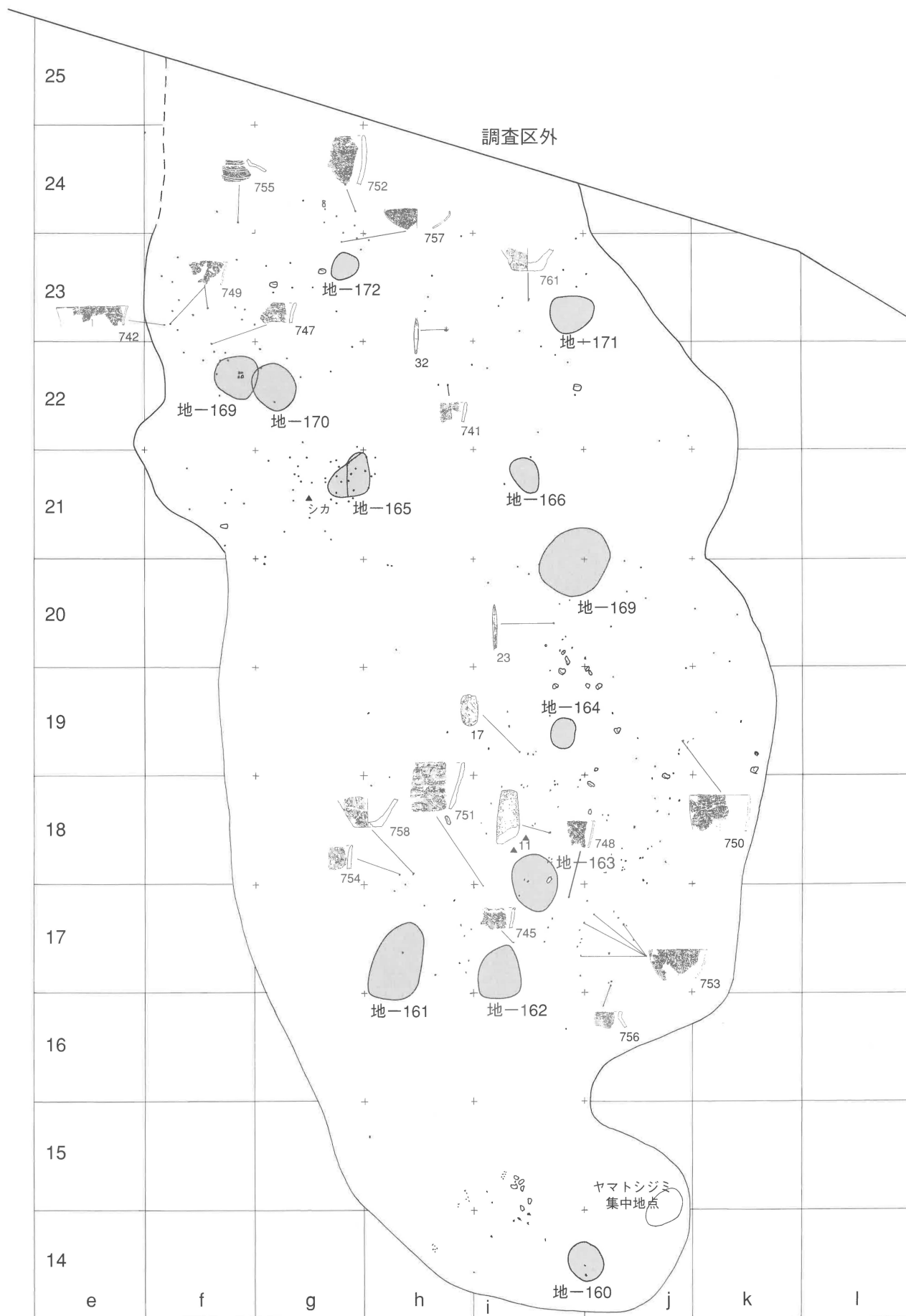
貝層の規模は、検出長約4m、検出幅約4m、厚さ最大16cmである。貝種組成は、ハマグリが85.7%、マガキが7.1%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期の稲荷山式期に形成されたものと思われる。



第39図 27層遺構・遺物分布図 (1/100)



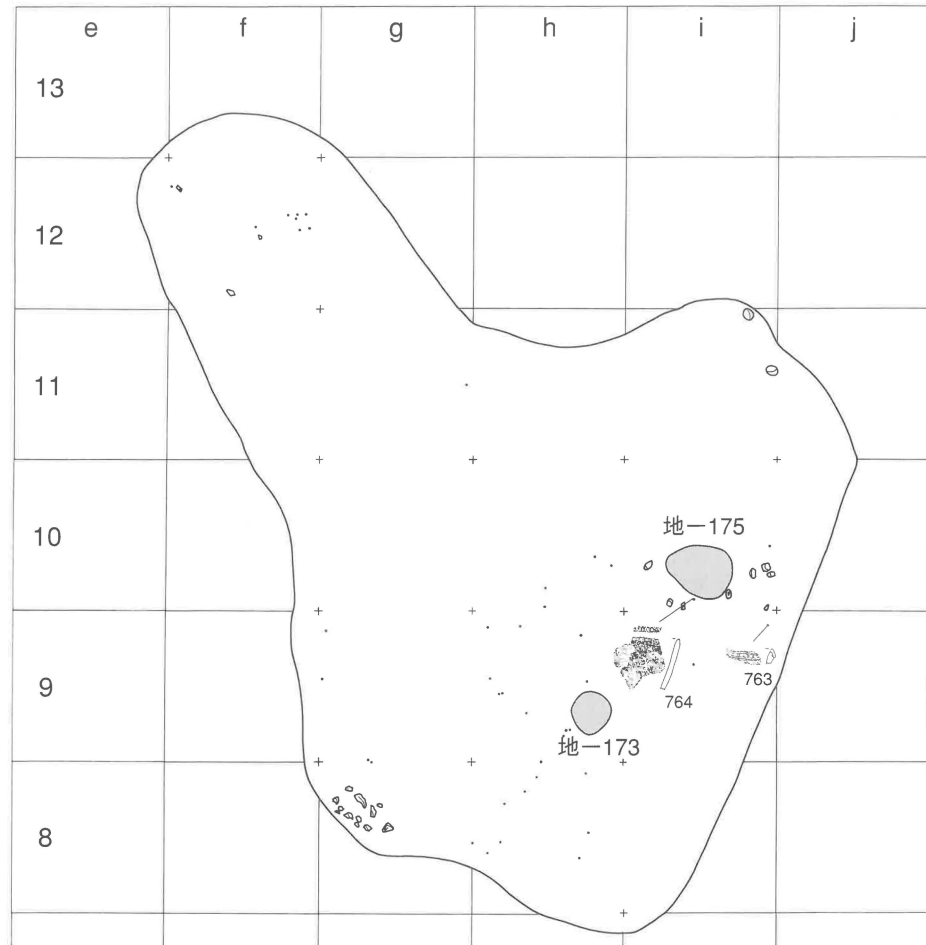
第40図 26層遺構・遺物分布図 (1/100)



第41図 28層遺構・遺物分布図 (1/100)

30 (11) 層 [ハマグリ純貝層] (第42図)

22層上に堆積した貝層であり、砂が23.1%混ざる純貝層で e ~ j - 7 ~ 13 区にかけて分布する大規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が3基見ついている。石は24個が出土している。遺物では土器が30点出土しているが、貝層規模で見ると極めて少ない。



第42図 30層遺構・遺物分布図 (1/100)

貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約7m、厚さ最大24cmである。貝種組成は、ハマグリが96.1%、マガキが3.1%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晚期中葉の桜井式期に形成されたと思われる。

31 (10) 層 [ハマグリ純貝層] (第43図)

30層上に堆積した貝層であり、砂が40.1%混ざる純貝層で g ~ h - 8 ~ 9 区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構は確認されていない。石も確認されていない。遺物では土器が3点出土している。

貝層の規模は、検出長約4m、検出幅約2m、厚さ最大10cmである。貝種組成は、ハマグリが55.8%、マガキが32.2%、オオノガイ6.0%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晚期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

32 (9) 層 [ハマグリ純貝層] (第44図)

30層・31層上に堆積した貝層であり、砂が12.0%混ざる純貝層で g ~ j - 8 ~ 10 区にかけて分布する小規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構は確認されていない。石は1個と少ないが出土している。遺物では土器が19点出土している。

貝層の規模は、検出長約6m、検出幅約4m、厚さ最大16cmである。貝種組成は、ハマグリが94.1%、イシマキガイが2.8%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晚期中葉の稲荷山式期に形成されたものと推測される。

33 (21) 層 [ハマグリ純貝層] (第45図)

30層上に堆積した貝層であり、砂が13.4%混ざる純貝層で i ~ j - 10~13区にかけて分布する小規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構は確認されていない。石は4個と少ないが出土している。遺物では土器が16点出土し、極めて少ない。

貝層の規模は、検出長約6m、検出幅約2m、厚さ最大26cmである。貝種組成は、ハマグリが93.2%、マガキが2.5%、ヤマトシジミが2.5%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと推測される。

34 (8) 層 [ハマグリ純貝層] (第46図)

30層・33層上に堆積した貝層であり、砂が65.4%混ざる純貝層で e ~ j - 8~14区にかけて分布する大規模なものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が1基見つかっている。石は34個が出土している。遺物では土器が113点、敲石が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約11m、検出幅約10m、厚さ最大28cmである。貝種組成は、ハマグリが96.5%、マガキが1.6%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

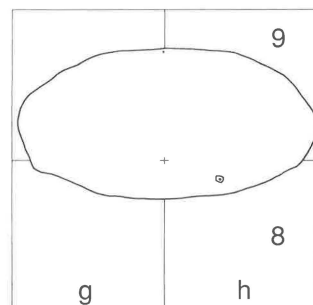
35 (7) 層 [ハマグリ純貝層] (第47図)

34層上に堆積した貝層であり、砂が8.4%混ざる純貝層で f ~ j - 8~13 ? 区にかけて分布するが北側の範囲を明確にできていない。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が1基散在して見つかっている。石も7個と少ないが出土している。遺物では土器が21点出土しているが、貝層規模で見ると極めて少ない。

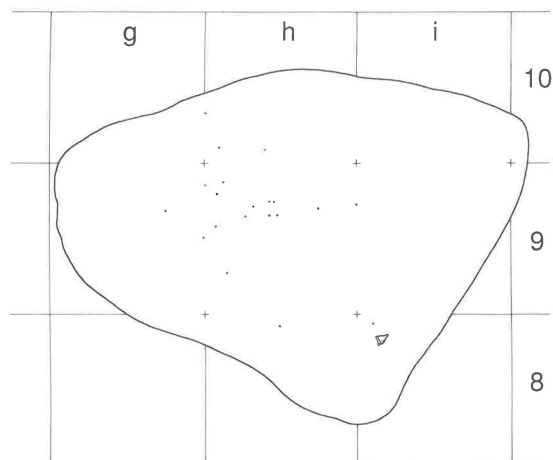
貝層の規模は、検出長約9m?、検出幅約6m、厚さ最大20cmである。貝種組成は、ハマグリが99.6%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと推測される。

36 (6) 層 [ハマグリ純貝層] (第48図)

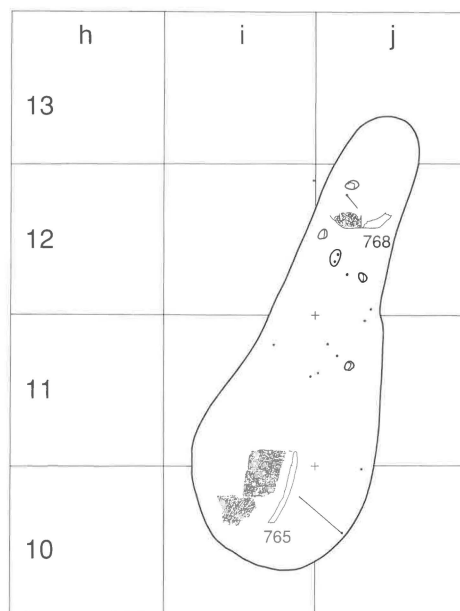
35層上に堆積した純貝層で f ~ j - 8~15区にかけて分布するものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が3基見つかっている。石は18個が出土している。遺物では土器が77点出土しているが、



第43図 31層遺構・遺物分布図 (1/100)



第44図 32層遺構・遺物分布図 (1/100)



第45図 33層遺構・遺物分布図 (1/100)

貝層規模で見ると極めて少ない。

貝層の規模は、検出長約15m、検出幅約8m、厚さ最大20cmで、ハマグリが主体の貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

37 (5) 層 [ハ
マグリ純貝層] (第
49図)

33層・36層上に堆積した貝層であり、砂が14.4%混ざる純貝層でg～j-9～12?区にかけて分布するが北側の範囲を明確にできていない。貝層の保存状態

は比較的的良好である。遺構では、地床炉が1基見つっている。石は出土していない。遺物では土器が10点出土している。

貝層の規模は、検出長約 6 m²、検出幅約 6 m、厚さ最大 20 cm である。貝種組成は、ハマグリが 99.4% とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

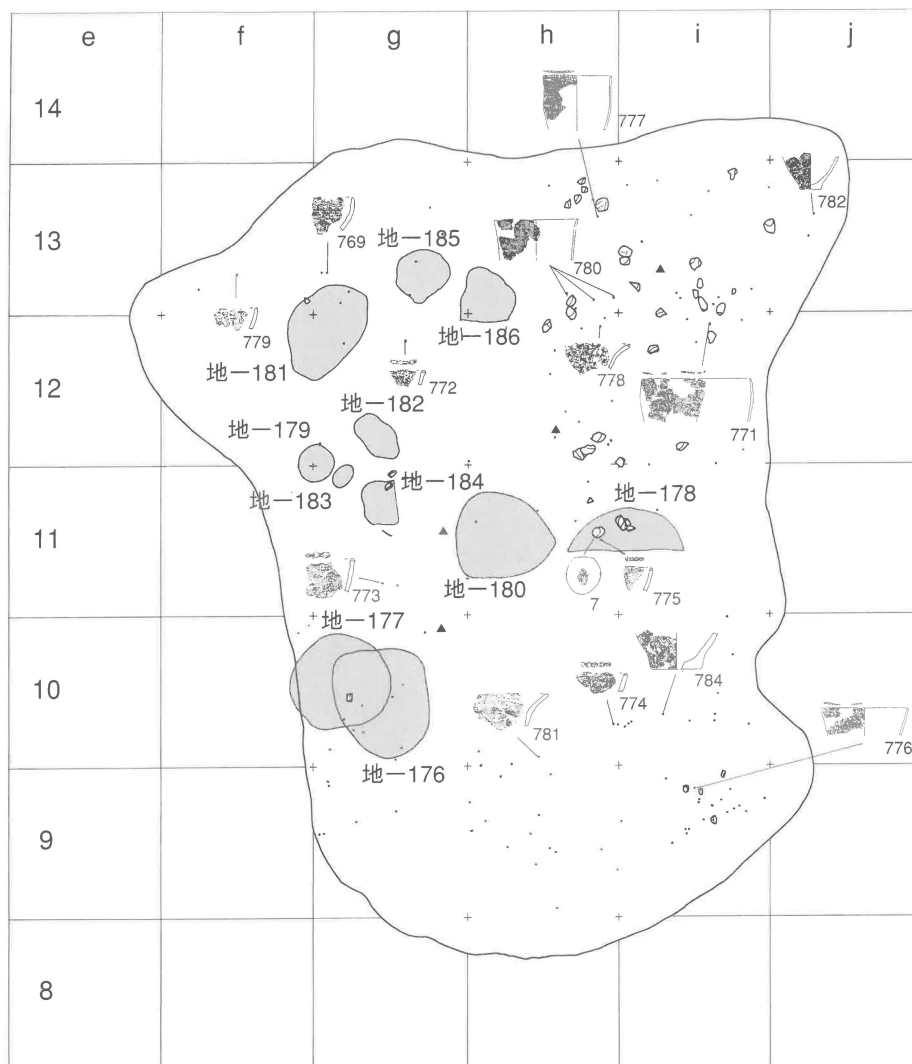
38 (4) 層 [ハマグリ純貝層] (第50図)

37層上に堆積した貝層であり、砂が59.6%混ざる純貝層でf～k-9～14区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が5基散在して見つかっている。石は14個が出土している。遺物では土器が54点、加工痕のある骨が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約11m、検出幅約8m、厚さ最大32cmである。貝種組成は、ハマグリが78.4%、マガキが13.7%、ヤマトシジミが2.9%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

39 (20) 層 [マガキ純貝層] (第51図)

38層上に堆積した貝層であり、砂が14.7%混ざる純貝層でh～k-10～14区にかけて分布する。貝



第46図 34層遺構・遺物分布図 (1/100)

層の保存状態は比較的良好である。遺構では、敷石炉が1基、地床炉が3基見つかっている。石は34個が出土している。遺物では土器が29点出土している。

貝層の規模は、検出長約10m、検出幅約4m、厚さ最大32cmである。貝種組成は、マガキが75.7%、ハマグリが17.1%とマガキとハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

40 (19) 層 [マガキ純貝層] (第52図)

39層上に堆積した貝層であり、砂が21.4%混ざる純貝層でh～k-9～15区にかけて分布するものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が



第47図 35層遺構・遺物分布図 (1/100)

4基見つかっている。石は38個が出土している。遺物では土器が36点出土している。

貝層の規模は、検出長約13m、検出幅約4m、厚さ最大28cmである。貝種組成は、マガキが75.2%、ヤマトシジミが10.6%、ハマグリが9.7%とマガキとヤマトシジミ、ハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

41 (18) 層 [ハマグリ・ヤマトシジミ灰褐色混土貝層] (第53図)

40層上に堆積した貝層であり、砂が27.0%混ざる純貝層でi～l-9～15区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構は確認されていない。石26個が出土している。遺物では土器が46点、敲石が1点出土している。

貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約4m、厚さ最大30cmである。貝種組成は、ハマグリが46.0%、ヤマトシジミが39.3%、マガキが11.7%とハマグリとヤマトシジミ、マガキで占められる貝層である。この層は遺物より晩期後葉の西之山式期に形成されたものと思われる。

42 (31) 層 [ヤマトシジミ純貝層] (第54図)

24層上に堆積した貝層であり、砂が1.4%混ざる純貝層でi～k-13～19区にかけて分布するものである。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構では、地床炉が4基見つかっている。石は13個が出土している。遺物では土器が54点出土している。

貝層の規模は、検出長約12m、検出幅約3m、厚さ最大38cmである。貝種組成は、ヤマトシジミが82.0%、ハマグリが16.3%とヤマトシジミとハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晩

期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

43(30)層[ハマグリ純貝層](第55図)

42層上に堆積した貝層であり、砂が14.0%混ざる純貝層でj～l-13～20区にかけて分布する。貝層の保存状態は比較的良好である。遺構は確認されていない。石は25個が出土している。遺物では土器が40点出土している。

貝層の規模は、検出長約14m、検出幅約4m、厚さ最大28cmである。貝種組成は、ハマグリが95.2%、マガキが4.8%とハマグリで占められる貝層である。この層は遺物より晚期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

44(砂礫)層[黄褐色砂礫層]

43層上に堆積した砂礫層である。j～k-15・16区周辺で確認されたのみである。この砂層は厚さが最大で40cmもある。遺構・遺物は出土していない。

45(22)層[ハマグリ純貝層]

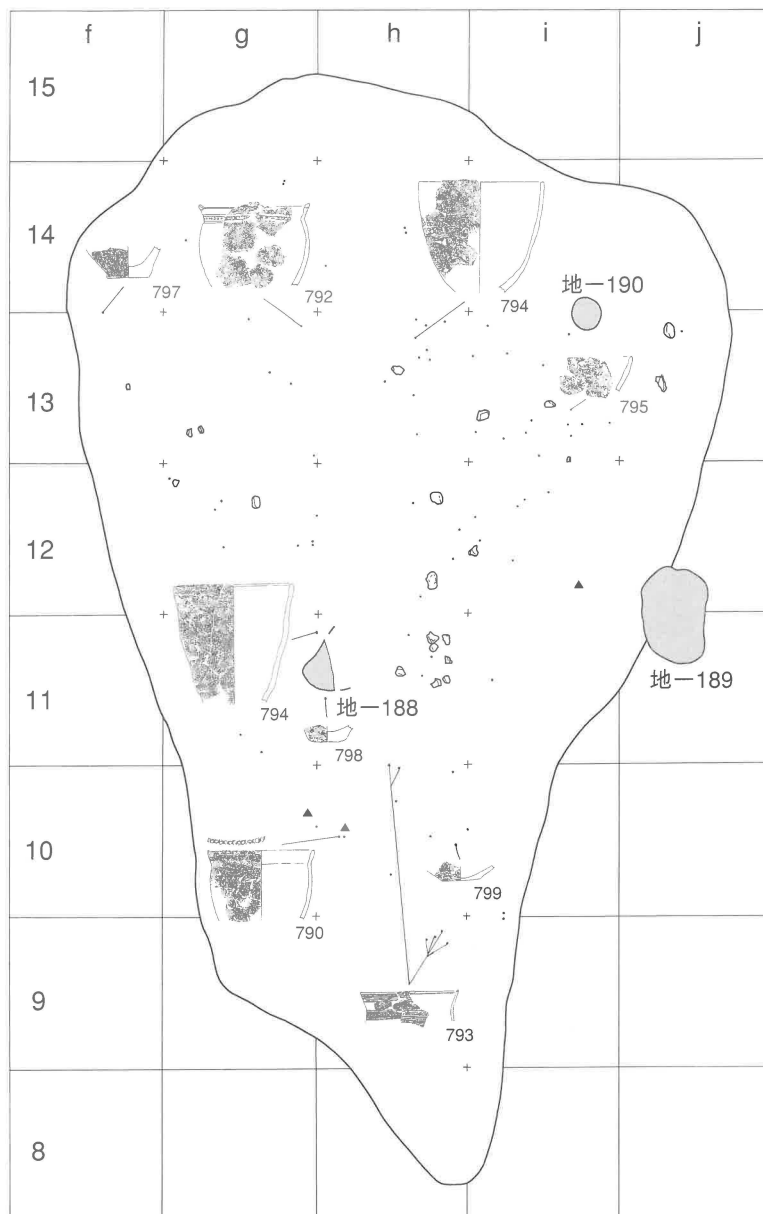
36層・38層上に堆積した貝層であり、砂が41.1%混ざる純貝層でg～h-12～15区周辺にかけて分布するが範囲は明確にできなかった。貝層の保存状態は悪く、末端は把握しがたかった。遺構は無いが、遺物では土器が4点出土している。

貝層の規模は、検出長約5m、検出幅は不明、厚さ最大32cmである。貝種組成は、ハマグリが92.9%、マガキが5.7%とハマグリとマガキで占められる貝層である。この層は遺物より晚期中葉の稲荷山式期に形成されたものと思われる。

46(2)層[黒褐色混土貝層](第10図)

縄文貝層の上に堆積した古墳時代の貝層であり、砂が42.2%混ざる混土貝層でb～g-8～24区にかけて分布する大規模なものである。貝層は所々を土壌等で壊されており、保存状態は悪い。

貝層の規模は、検出長約33m、検出幅約10m、厚さ最大66cmである。貝種組成は、ハマグリが92.1%、ヤマトシジミが6.0%とハマグリとヤマトシジミで占められる貝層である。この層は遺物より7世紀



第48図 36層遺構・遺物分布図(1/100)

を中心に形成されたものと思われる。

47 (砂) 層 [黄褐色砂層]

46層上に堆積した砂層である。古墳時代の貝層と近世の貝層を分けている。b～f－8～24区周辺で確認されている。この砂層は北側が厚くて最大26cmもあるが、南側では薄く8cmほどである。遺構・遺物は出土していない。

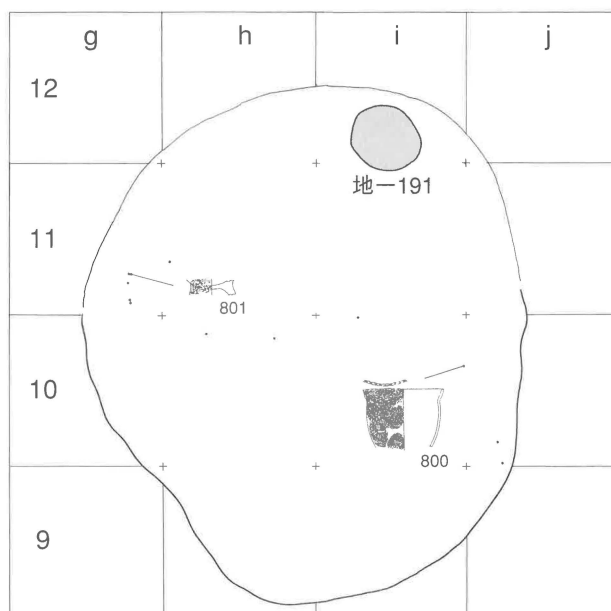
48 (1・1 a) 層 [ハマグリ純貝層] (第11図)

47層の砂層上及び縄文時代・古墳時代貝層上に堆積した貝層であり、砂が30.4%混ざる純貝層でb～k－8～24区付近にかけて分布する大規模なものである。貝層は所々を土壌等の遺構で壊されているが、保存状態は比較的良好である。

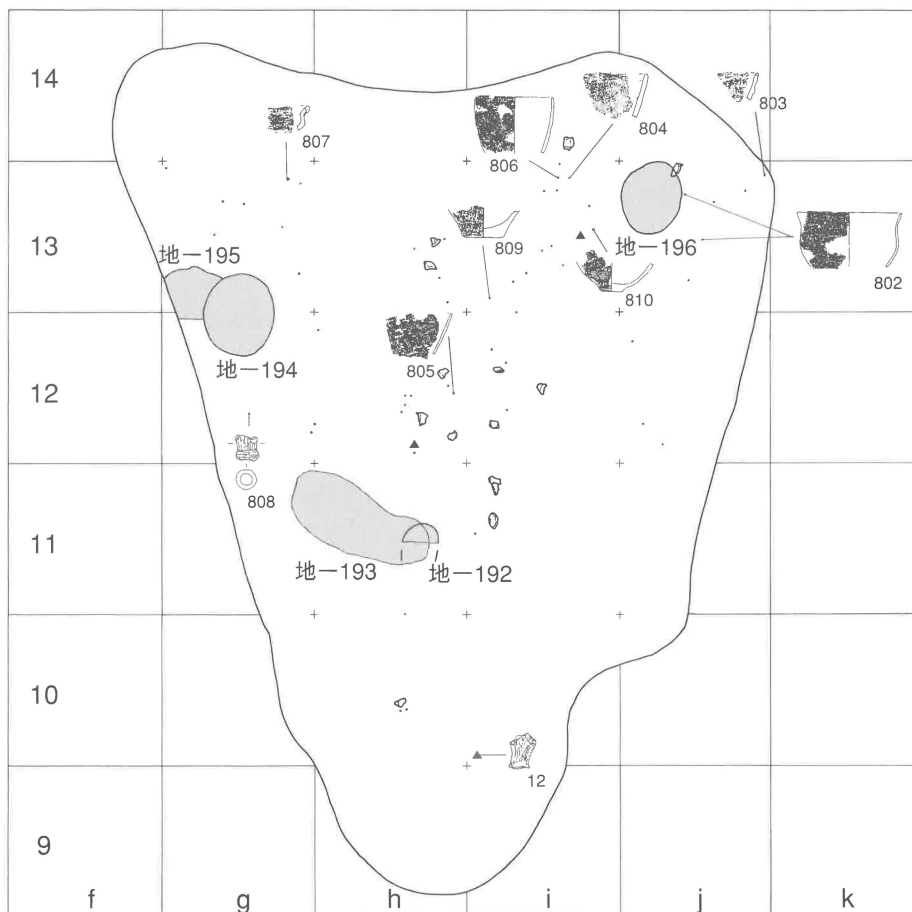
貝層の規模は、検出長約43m、検出幅約21m、厚さ最大80cmで、北側ほど厚い。貝種組成は、ハマグリが95.5%とハマグリで占められる貝層であるが、部分的にキサゴ層もみられた。この層は近世に堆積したものである。

表土 [暗灰色砂質土層]

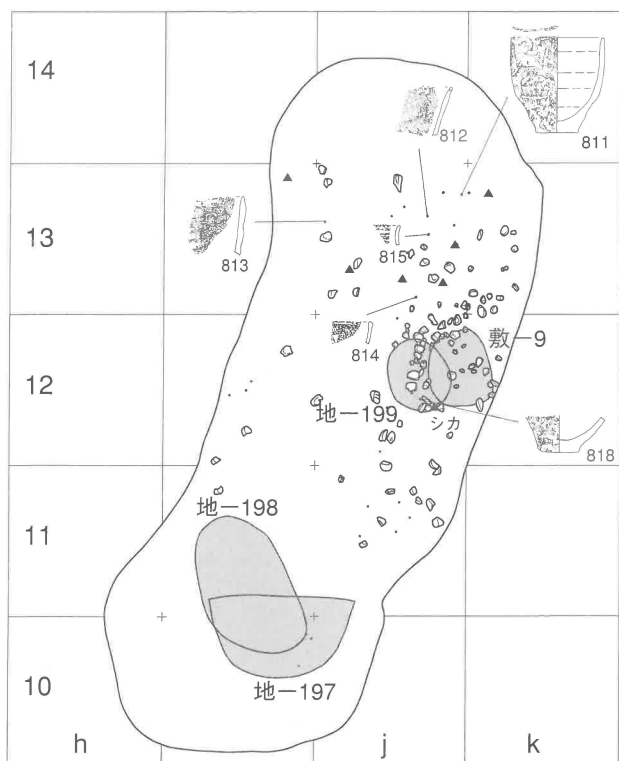
表土は暗灰色砂質土層で、貝殻が若干混ざっていた。厚さは50cm～1 m程もあり、貝塚を覆っていた。貝層まで重機を使い表土は剥いているため、記録には残していない。



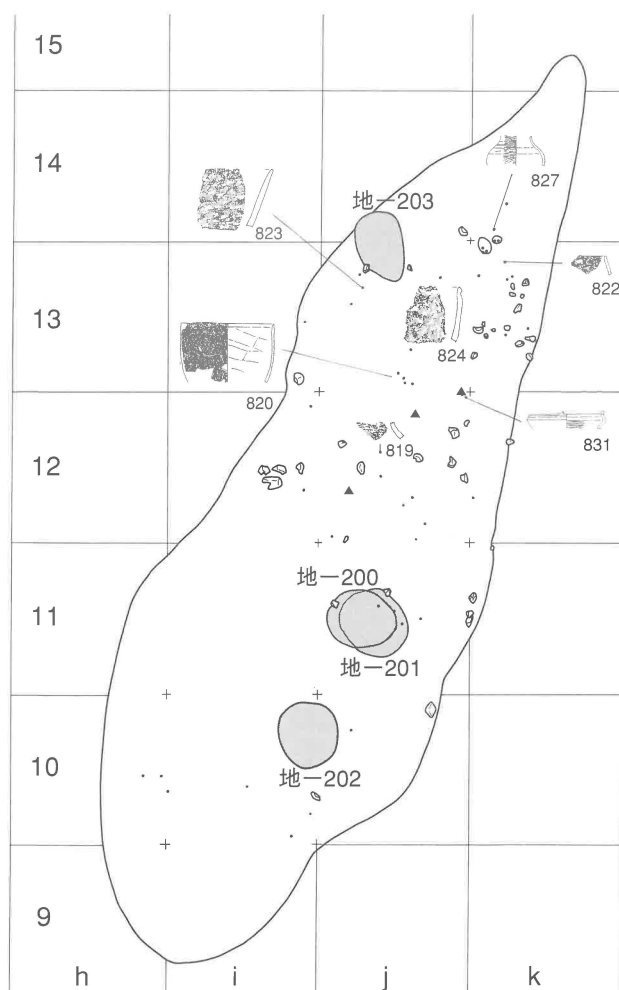
第49図 37層遺構・遺物分布図 (1/100)



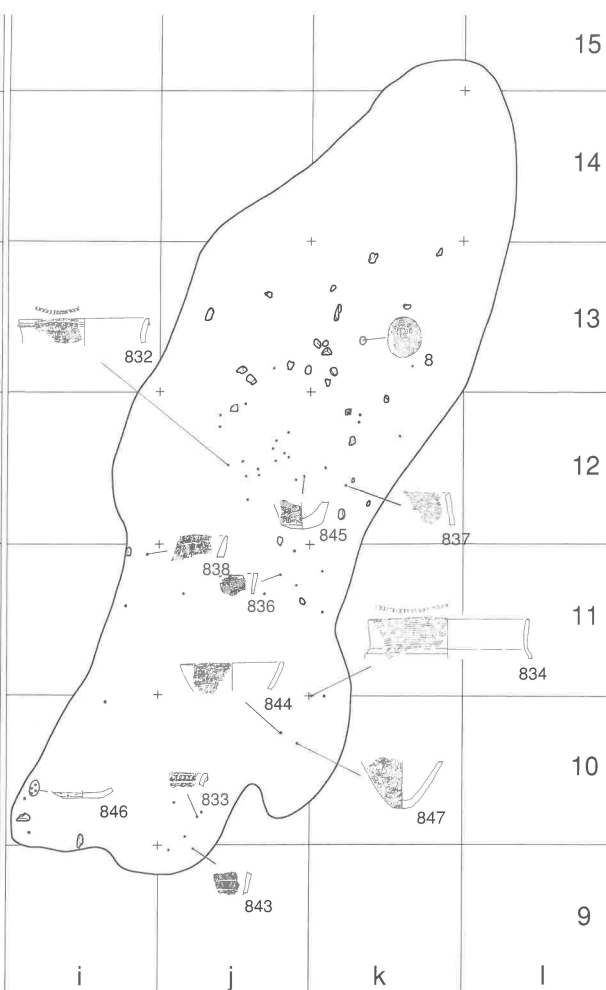
第50図 38層遺構・遺物分布図 (1/100)



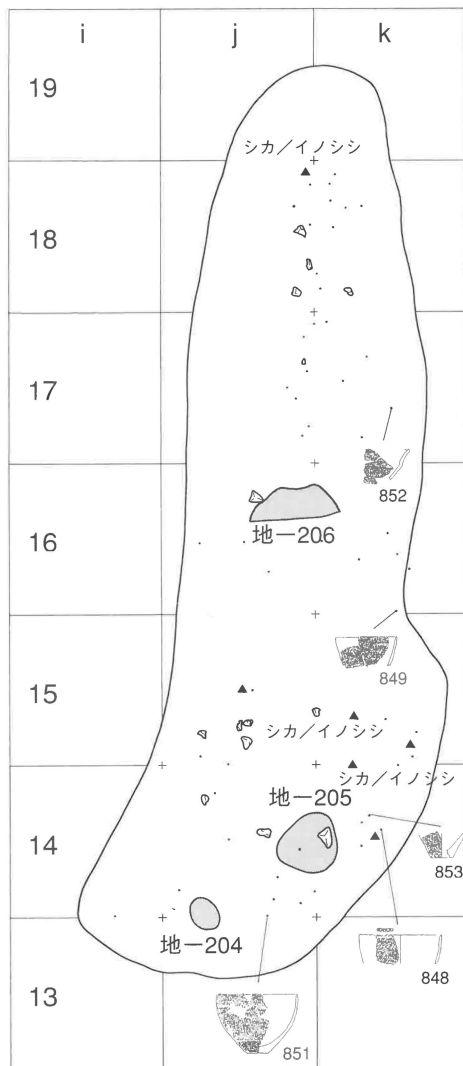
第51図 39層遺構・遺物分布図 (1/100)



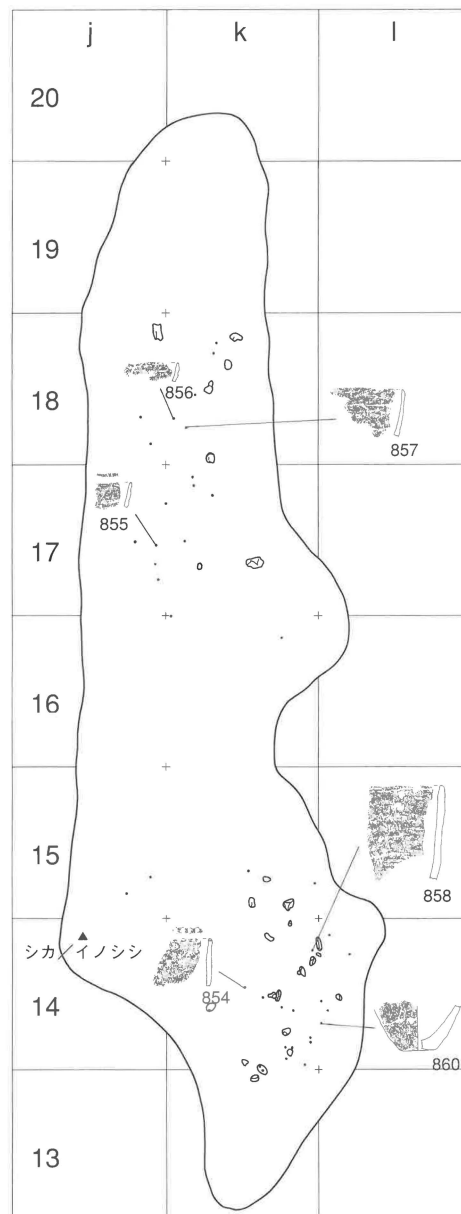
第52図 40層遺構・遺物分布図 (1/100)



第53図 41層遺構・遺物分布図 (1/100)



第54図 42層遺構・遺物分布図 (1/100)



第55図 43層遺構・遺物分布図 (1/100)

3. 縄文時代の遺構

今回の調査によって貝塚上面、貝層内及び地山より遺構が検出されている。遺構は、縄文時代の土壙、炉が貝塚上面、貝層内及び地山から、貝層を掘り込んだ弥生時代以降の土壙や古墳時代の竪穴住居、溝等が貝塚上面から検出されている。この節では縄文時代の遺構について、種類ごとにまとめて説明する。なお、測定値は検出面での数値である。

A. 土壙

土壙は、縄文貝層下の地山で検出されたものが約250基、8層で検出されたものが4基、11層で検出されたものが3基ある。いずれの土壙からも出土遺物は無い。地山で検出されたものはe～h-6～13区に集中していたが、若干他時代の土壙も混ざっている（第7図）。8層で検出されたものはi～k-13～15区に集中していた（第22図）。11層で検出されたものはf～g-9、c～d-14～15区で確認された（第24図）。これらの土壙の帰属時期は8層で検出されたものは後期後葉の伊川津式期、11層で検出されたものも後期後葉の伊川津式期である。一方地山で検出されたものは時期が不明であるが、貝塚形成初期の八王子式期～末期の西之山式期までのものであろう。今回説明する土壙は、これら土壙のうち主要なものを説明する。

SK-1（第56図）

SK-1は、i-4-I・II区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は豆形で、規模は長径221cm、短径98cm、深さは46cmである。遺物は出土していない。

SK-2（第56図）

SK-2は、h-4・5-II・IV区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は楕円形で、規模は長径166cm、短径94cm、深さは27cmである。遺物は出土していない。

SK-3（第56図）

SK-3は、e・f-10-II・III区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は長楕円形で、規模は長径196cm、短径67cm、深さは7cmである。遺物は出土していない。

SK-4（第56図）

SK-4は、i-10-II・III区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は円形で、規模は径101cm、深さは30cmである。遺物は出土していない。

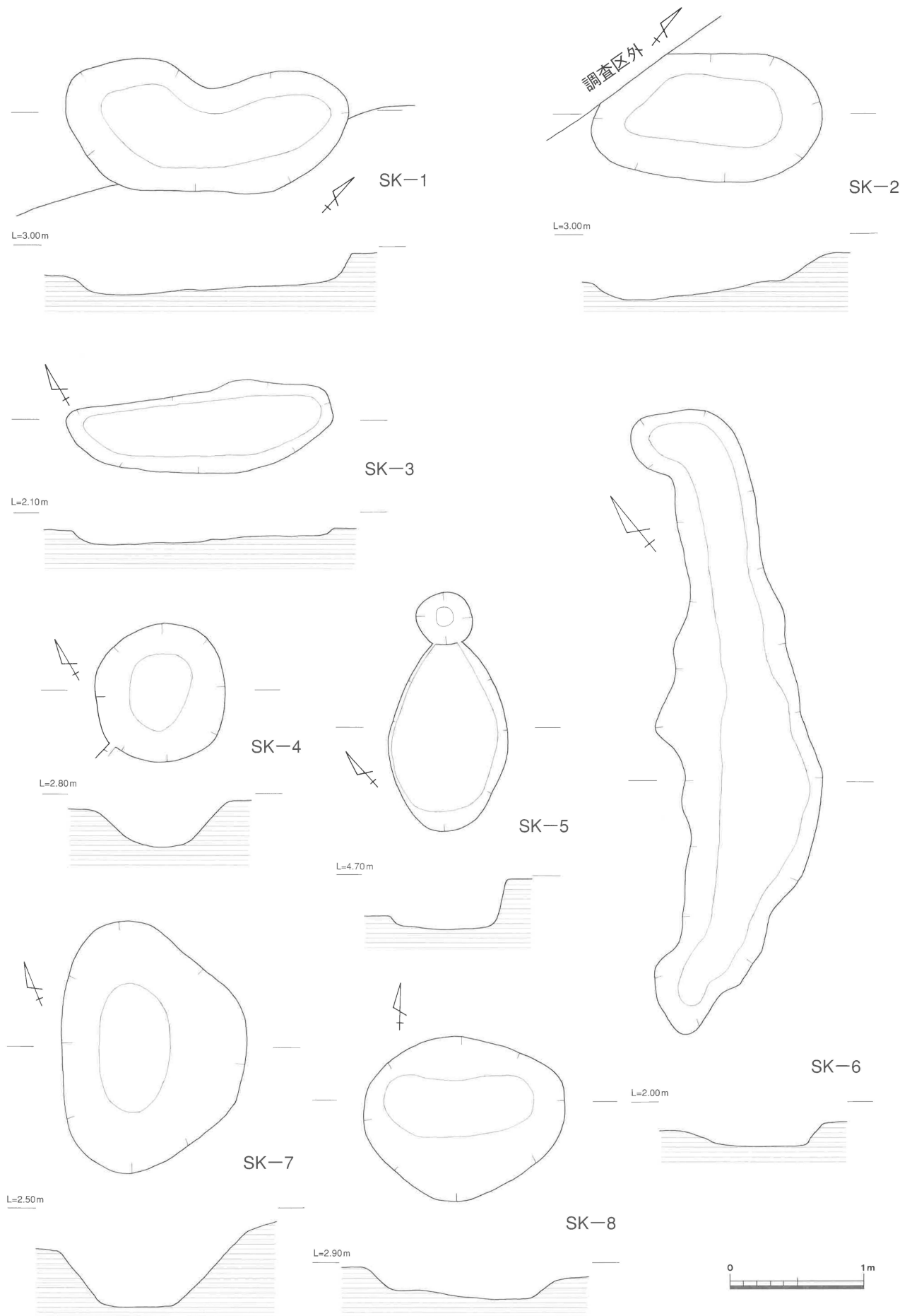
SK-5（第56図）

SK-5は、k-12-IV区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は楕円形で、規模は長径141cm、短径90cm、深さは33cmである。遺物は出土していない。

SK-6（第56図）

SK-6は、d-16・17-I・II区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は帯状に延び、規模は長径468cm、短径110cm、深さは13cmである。遺物は出土していない。

SK-7（第56図）



第56図 土壌実測図 (1/40)

S K - 7 は、g - 18 - IV 区の地山に掘り込まれた土壙である。平面形は長楕円形で、規模は長径188cm、短径137cm、深さは53cmである。遺物は出土していない。

S K - 8 (第56図)

S K - 8 は、i・j - 14 - I ~ IV 区の8層で検出された土壙である。平面形は楕円形で、規模は長径149cm、短径122cm、深さは22cmである。遺物は出土していない。

B. 炉

検出された炉には、敷石炉と地床炉がある。このうち地床炉とは、発掘調査の際に検出された貝層上または貝層中の灰が集中する地点（焚き火痕）を指し、多数見つかっている。これらは土や灰を入れて使用したものや、石を用いたもの、貝層上に直接火を焚いたため貝が焼けたもので、同位置で何度も焚き火が繰り返されたものが多い。敷石炉は9基、地床炉は214基が発見されている。ここでは主要な炉のみを説明する。炉の詳細については第1表を参照いただきたい。

a. 敷石炉 (第57図、第1表)

敷石炉は2層で1基、11層で1基、14層で6基、39層で1基、全部で9基が確認されている。14層に過半数が集中している。

敷石炉-2 (第57図)

敷石炉-2 は、11層中の d - 8 - III・IV 区より検出されている。平面形は長楕円形に近い形状で、規模は長径84cm、短径は42cm、検出面の標高は2.4mである。石の大きさは長径4cm~14cm大の河原石主体で、比較的平坦に敷かれ、石は67個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色していた。敷石の石間の間隔は比較的密である。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

敷石炉-3 (第57図)

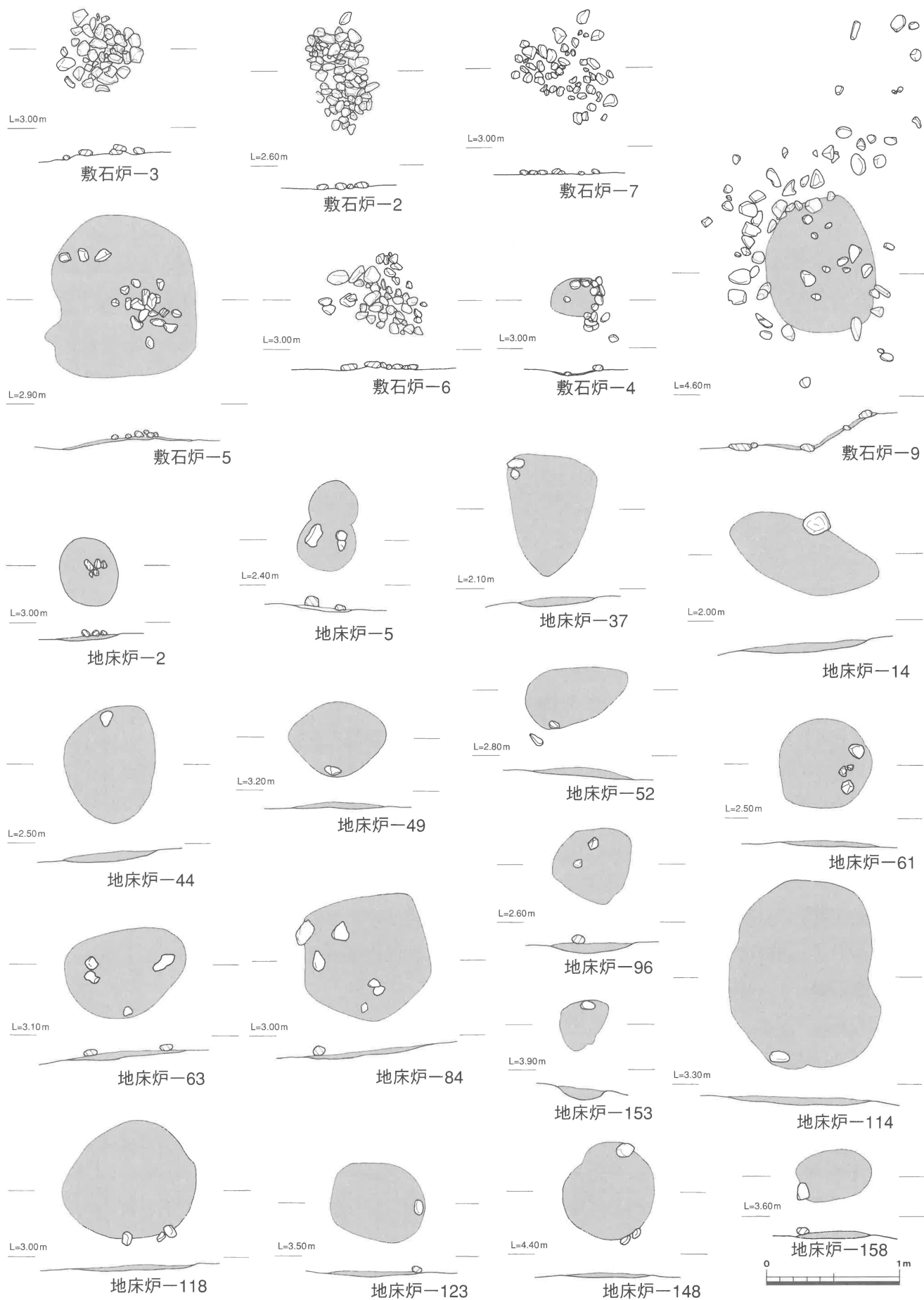
敷石炉-3 は、14層中の f・g - 8・9 - I ~ IV 区より検出されている。平面形は円形に近い形状で、規模は径68cm、検出面の標高は2.8mであった。石の大きさは長径6cm~15cm大の河原石主体で、比較的平坦に敷かれ、石は38個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色し、炭も認められた。敷石の石間の間隔は比較的密である。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

敷石炉-4 (第57図)

敷石炉-4 は、14層中の g - 8 - II・III 区より検出されている。平面形は楕円形に近い形状で、規模は長径40cm、短径31cm、検出面の標高は2.8mであった。石の大きさは長径6cm~9cm大の河原石主体で比較的平坦に敷くが、中央部付近には石が無いように敷石の石間の間隔は疎である。石は17個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色し、炭や灰も認められた。灰層の分布範囲は長径32cm、短径28cmである。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

敷石炉-5 (第57図)

敷石炉-5 は、14層中の e - 10 - I・IV 区より検出されている。平面形は円形に近い形状であるが石は散在し、規模は長径101cm、短径44cm、検出面の標高は2.9mであった。石の大きさは長径6cm~11cm大の河原石主体で比較的平坦に敷き、石が集中する箇所と散在する箇所に分かれている。敷石の



第57図 炉実測図 (1/40)

石間の間隔は疎である。石は20個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色し、炭や灰も認められた。灰層の分布範囲は長径120cm、短径114cmである。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

敷石炉－6（第57図）

敷石炉－6は、14層中のg-10-II～IV区より検出されている。平面形は長楕円形に近い形状で、規模は長径81cm、短径は59cm、検出面の標高は2.9mであった。石の大きさは長径4cm～16cm大の河原石主体で、比較的平坦に敷かれている。石は46個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色し、炭や茶褐色土が堆積していた。敷石の石間の間隔は比較的密である。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

敷石炉－7（第57図）

敷石炉－7は、14層中のg-10-I～IV区より検出されている。平面形は楕円形に近い形状で、規模は長径82cm、短径71cm、検出面の標高は2.8mであった。石の大きさは長径4cm～12cm大の河原石主体で比較的平坦に敷き、敷石の石間の間隔は比較的密である。石は54個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色し、炭や茶褐色土も認められた。茶褐色土は敷石を取り囲むように分布している。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

敷石炉－9（第57図）

敷石炉－9は、39層中のj・k-12・13-I～IV区より検出されている。石は散在し、平面形は長楕円形に近い形状である。規模は長径288cm、短径141cm、検出面の標高は4.2～4.5mであった。石の大きさは長径6cm～18cm大の河原石主体で、石が集中する箇所と散在する箇所に分かれている。敷石の石間の間隔は疎である。どちらかという、石は炭・灰層の周囲に集中している。石は68個を数え、殆どは円礫で火を受けたために変色している。炭・灰層の分布範囲は長径102cm、短径81cmである。土器は出土していない。帰属時期は稲荷山式期のものである。

b. 地床炉（第57図、第1表）

地床炉は7層が最も多くて18基を数え、以下22層が17基、2層が14基、14層が12基等、全部で214基が確認されている。ここでは石を伴っている主要なものを説明する。なお、記録時の混乱から、所在地が特定できない地床炉が数基存在している。

地床炉－2（第57図）

地床炉－2は1層中のe-9-I区で検出されている。中央に石5個を伴い、被熱した貝の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径52cm、短径42cm、厚さ2cmである。検出面の標高は3.5mである。土器は出土していない。帰属時期は八王子式～西之山式期のものである。

地床炉－5（第57図）

地床炉－5は2層中のi-11-II区で検出されている。中央に石3個を伴い、被熱した貝及び炭の分布範囲は、平面形は瓢箪形、規模は長径70cm、短径42cm、厚さ2cmである。検出面の標高は2.2mである。土器は出土していない。帰属時期は元住吉山I式～宮滝式期のものである。

地床炉－14（第57図）

地床炉-14は2層中のb・c-22-II・Ⅲ区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝の分布範囲は、平面形は長楕円形、規模は長径126cm、短径48cm、厚さ5cmである。検出面の標高は1.8mである。土器は出土していない。帰属時期は元住吉山I式～宮滝式期のものである。

地床炉-37（第57図）

地床炉-37は6層中のg・h-21-I～Ⅳ区で検出されている。縁に石2個を伴い、被熱した貝及び炭の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径92cm、短径64cm、厚さ5cmである。中央よりやや南の位置がコンクリート状に固まっている。検出面の標高は2.0mである。土器は出土していない。帰属時期は元住吉山II式～宮滝式期のものである。

地床炉-44（第57図）

地床炉-44は7層中のc-21-Ⅲ区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝の分布範囲は、平面形は長楕円形、規模は長径91cm、短径66cm、厚さ5cmである。検出面の標高は2.4mである。土器は出土していない。帰属時期は宮滝式～伊川津式期のものである。

地床炉-49（第57図）

地床炉-49は7層中のg-21-I・Ⅳ区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝の分布範囲は、平面形は長楕円形、規模は長径70cm、短径57cm、厚さ3cmである。検出面の標高は3.1mである。土器は出土していない。帰属時期は宮滝式～伊川津式期のものである。

地床炉-52（第57図）

地床炉-52は7層中のe-22-Ⅲ区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝の分布範囲は、平面形は長楕円形、規模は長径76cm、短径42cm、厚さ4cmである。検出面の標高は2.7mである。土器は出土していない。帰属時期は宮滝式～伊川津式期のものである。

地床炉-61（第57図）

地床炉-61は8層中のe-14-I区で検出されている。縁に石4個を伴い、被熱した貝や茶褐色土の分布範囲は、平面形は円形、規模は径64cm、厚さ3cmである。検出面の標高は2.3mである。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

地床炉-63（第57図）

地床炉-63は8層中のi-14-II・Ⅲ区で検出されている。縁付近に石4個が離れて置かれている。被熱した貝や茶褐色土の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径94cm、短径65cm、厚さ5cmである。検出面の標高は3.0mである。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

地床炉-84（第57図）

地床炉-84は14層中のh-7・8-I～Ⅳ区で検出されている。縁付近に石5個が離れて置かれている。被熱した貝や炭、暗茶灰色土の分布範囲は、平面形は五角形に近く、規模は長径93cm、短径92cm、厚さ5cmである。検出面の標高は2.9mである。炉内からは若干の土器片が出土している。帰属時期は伊川津式期のものである。

地床炉-96（第57図）

地床炉-96は15層中のc・d-13-I～Ⅳ区で検出されている。中央付近に石2個が離れて置かれている。被熱した貝や炭、暗灰褐色土の分布範囲は、平面形は楕円形に近く、規模は長径60cm、短径

59cm、厚さ7cmである。検出面の標高は2.5mである。土器は出土していない。帰属時期は伊川津式期のものである。

地床炉-114（第57図）

地床炉-114は17層中の i-14-I～IV区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝や炭の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径141cm、短径104cm、厚さ5cmである。検出面の標高は3.2mである。若干の土器片が出土している。帰属時期は蜆塚B式期のものである。

地床炉-118（第57図）

地床炉-118は18層中の f・g-14-I・IV区で検出されている。縁に石3個を伴い、炉はコンクリート状に固まっている。被熱した貝や灰の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径101cm、短径90cm、厚さ3cmである。検出面の標高は2.9mである。土器は出土していない。帰属時期は蜆塚B式期のものである。

地床炉-123（第57図）

地床炉-123は19層中の i-16・17-Ⅲ・IV区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝や茶褐色土の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径70cm、短径59cm、厚さ3cmである。検出面の標高は3.4mである。土器は出土していない。帰属時期は蜆塚B式期のものである。

地床炉-148（第57図）

地床炉-148は23層中の h-14-I・II区で検出されている。両縁に石3個を伴い、被熱した貝や黒褐色土、炭の分布範囲は、平面形は楕円形、規模は長径74cm、短径62cm、厚さ3cmである。検出面の標高は3.9mである。土器は出土していない。帰属時期は蜆塚B式または稲荷山式期のものである。

地床炉-153（第57図）

地床炉-153は26層中の i-16-Ⅲ区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝や暗灰褐色土の分布範囲は、平面形は楕円形に近く、規模は長径42cm、短径31cm、厚さ10cmである。検出面の標高は3.8mである。土器は2点出土している。帰属時期は稲荷山式期のものである。

地床炉-158（第57図）

地床炉-158は27層中の g-23-I・IV区で検出されている。縁に石1個を伴い、被熱した貝や黒褐色土の分布範囲は、平面形は楕円形で、規模は長径56cm、短径38cm、厚さ5cmである。検出面の標高は3.5mである。土器は出土していない。帰属時期は稲荷山式期のものである。

第1表 炉一覧表

遺構番号	層位	地区	平面形	長径 cm	短径 cm	厚さ cm	構造	石	出土遺物	備考
地床炉-1	1層	f-8-Ⅱ	楕円形?	112	(54)	10	焼貝、淡茶色粘質土、炭化物	無	土器	
地床炉-2	1層	e-9-Ⅰ	楕円形	55	44		焼貝	5	無	
地床炉-3	1層	e-10-Ⅰ	三角形	30	20		焼貝、淡茶色砂質土	無	無	
地床炉-4	2層	h-10-Ⅱ	楕円形?	(132)	114	9	暗赤色化した砂	無	無	
地床炉-5	2層	i-11-Ⅱ	双円形	58	42	1	被熱石、炭化物	3	無	
地床炉-6	2層	e-11-Ⅲ	楕円形?	88	(59)	3	焼貝、暗灰色土	無	無	
地床炉-7	2層	d-12-Ⅰ	円形	76	74	5	焼貝	多数	無	
地床炉-8	2層	f-14-Ⅳ	不明	(100)	(12)	7	焼貝	無	無	
地床炉-9	2層	c-16-Ⅱ	楕円形?	104	(22)	7	焼貝	1	無	
地床炉-10	2層	e-21-Ⅰ	長方形	141	64	4	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-11	2層	d-21-Ⅰ・Ⅳ	楕円形	64	30	4	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-12	2層	d-22-Ⅳ	楕円形	59	44	2	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-13	2層	j-21-Ⅰ	方形	65	64	10	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-14	2層	c-22-Ⅱ	長楕円形	119	50	5	焼貝、黒褐色土	1	無	
地床炉-15	2層	h-22-Ⅳ	円形?	64	(32)	5	焼貝	多数	無	
地床炉-16	2層	e-23-Ⅲ	長方形	74	51	10	焼貝、コンクリート状、黒褐色土	無	無	
地床炉-17	2層	c-25-Ⅳ	楕円形?	(31)	(42)	6	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-18	3層	f-19-Ⅱ	円形	99	92	10	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-19	3層	c-20・21-Ⅲ・Ⅳ	楕円形	84	58	7	焼貝、黒褐色土	無	土器	土器底部
地床炉-20	3層	e-21-Ⅱ	楕円形	58	50	4	焼貝、黒褐色土、炭化物	無	土器	
地床炉-21	3層	d-23-Ⅰ	楕円形	108	70	4	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-22	3層	d-23-Ⅱ	楕円形	92	75	3	焼貝、黒褐色土	無	土器	
地床炉-23	5層	e-18-Ⅱ・Ⅲ	円形	124	111	5	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-24	5層	e-19-Ⅱ	楕円形	128	90	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-25	5層	f-19-Ⅱ・Ⅲ	楕円形	122	91	8	焼貝、茶褐色土、灰	無	無	
地床炉-26	5層	d-20-Ⅰ	楕円形	86	72	5	焼貝、茶褐色土、コンクリート状、灰	無	無	
地床炉-27	5層	h-20-Ⅲ	円形	40	39	6	焼貝	無	無	
地床炉-28	5層	d-21-Ⅰ	楕円形	103	80	5	焼貝	無	無	
地床炉-29	5層	e-22-Ⅱ	楕円形	131	90	3	焼貝、灰	無	無	
地床炉-30	5層	f-22-Ⅰ	円形	52	50	6	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-31	5層	f-22-Ⅳ	台形	59	56	4	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-32	5層	j-23-Ⅰ	円形	120	118	5	焼貝、炭	無	無	
地床炉-33	6層	h-17-Ⅰ	円形	25	25	6	焼貝	無	無	
地床炉-34	6層	h-19-Ⅰ	円形	32	32	7	焼貝	無	無	
地床炉-35	6層	h-19-Ⅰ	円形	104	102	11	焼貝、暗灰茶色土、炭化物	無	無	
地床炉-36	6層	g-22・23-Ⅰ・Ⅱ	楕円形	80	66	5	焼貝	無	無	
地床炉-37	6層	g-21-Ⅳ	三角形	90	68	5	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	2	無	
地床炉-38	6層	e-23-Ⅰ	楕円形	100	72	7	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-39	6層	e-23-Ⅲ	楕円形	64	48	6	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-40	6層	g-23-Ⅰ・Ⅱ	楕円形	60	48	3	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-41	7層	j-18-Ⅱ	楕円形	98	84	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-42	7層	e-19-Ⅱ	楕円形	120	69	5	焼貝、茶褐色土、コンクリート状、灰	無	無	
地床炉-43	7層	d-20-Ⅳ	円形	46	44		焼貝、灰	無	無	
地床炉-44	7層	c-21-Ⅲ	楕円形	92	70	5	焼貝、黒褐色土	1	無	
地床炉-45	7層	e-21-Ⅰ・Ⅳ	楕円形	71	64	7	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-46	7層	e-21-Ⅳ	円形	42	39	4	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-47	7層	e-21-Ⅳ	楕円形	70	56	4	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-48	7層	f-21-Ⅱ・Ⅲ	楕円形	86	64	7	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-49	7層	g-21-Ⅰ・Ⅳ	楕円形	70	59	3	焼貝、黒褐色土	1	無	
地床炉-50	7層	d-22-Ⅲ	楕円形	94	50	4	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-51	7層	e-22-Ⅱ	楕円形	80	53	7	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-52	7層	e-22-Ⅲ	楕円形	78	42	15	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	2	無	
地床炉-53	7層	f-22-Ⅱ・Ⅲ	楕円形	98	78	6	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-54	7層	f-22-Ⅳ	台形	90	86	6	焼貝、黒褐色土	無	土器	
地床炉-55	7層	e-23-Ⅰ	楕円形	64	50	5	焼貝	無	無	
地床炉-56	7層	d-23-Ⅱ	楕円形	83	64	4	焼貝、黒褐色土	無	無	

遺構番号	層位	地区	平面形	長径 cm	短径 cm	厚さ cm	構造	石	出土遺物	備考
地床炉-57	7層	g-23-II	楕円形	103	70	8	焼貝、コンクリート状	無	土器	
地床炉-58	7層	g-23-III	三角形	92	66	7	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-59	8層	f-13-III	楕円形	54	46	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-60	8層	g-13-II	楕円形	78	69	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-61	8層	e-14-II	円形	70	70	3	焼貝、茶褐色土	5	無	
地床炉-62	8層	i-14-I	楕円形	122	97	8	焼貝、茶褐色土	無	土器	
地床炉-63	8層	i-14-III	楕円形	91	63	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-64	8層	e-15-I	楕円形	60	39	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-65	8層	i-15-IV	楕円形	70	53	5	焼貝、茶褐色土	5	無	
地床炉-66	8層	f-17-I	楕円形	103	74	5	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-67	8層	f-17-III	円形	66	56	2	焼貝、灰	無	無	
地床炉-68	8層	f-22-I	楕円形	80	71	5	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-69	10層	h-19-III	楕円形	69	52	8	焼貝、暗灰色土	無	土器	
地床炉-70	10層	e-21-I	楕円形	76	68	7	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-71	10層	g-21-III	楕円形	66	(51)	4	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-72	10層	i-21-II	楕円形	102	80	2	焼貝、灰	無	無	
地床炉-73	10層	i-22-I	楕円形	80	61		焼貝	無	無	
地床炉-74	11層	e-9-I	楕円形	60	30		焼貝、焼土	無	無	
地床炉-75	11層	d-10-IV	円形	59	57	1	焼土	無	無	
地床炉-76	13層	g-19-II	円形	(38)	36		焼貝	無	無	
地床炉-77	13層	e-10-IV	凸形	162	99	8	焼貝、茶褐色土、コンクリート状、炭	無	土器	
地床炉-78	13層	g-10-I	円形	56	50	1	焼貝	無	無	
地床炉-79	13層	g-10-I・II	楕円形	208	127	2	焼貝、茶褐色土、炭	無	土器	
地床炉-80	13層	f-12-III	楕円形	98	68	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-81	13層	c-13-IV	楕円形	88	(48)	12	焼貝、暗灰褐色土、炭	3	無	
地床炉-82	13層	g-13-II	楕円形	(48)	40	10	焼貝、暗灰褐色土、炭	9	土器	
地床炉-83	13層	g-13-II	楕円形	(130)	(90)	6	焼貝、暗灰褐色土、炭	6	無	
地床炉-84	14層	h-7-II	五角形	94	94	1	焼貝、暗灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-85	14層	f・g-8-I～IV	楕円形	126	108	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-86	14層	g-8-II	楕円形	83	60	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-87	14層	g-8-II	円形	40	36		焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-88	14層	g-8-II	楕円形	62	50	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-89	14層	e-9-I	楕円形	82	62	1	焼貝	無	無	
地床炉-90	14層	i-9-III	楕円形	84	60	5	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-91	14層	e-10-I	楕円形	126	90	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-92	14層	h-10-II	楕円形	103	(80)	23	焼貝、暗灰色土、炭	無	無	
地床炉-93	14層	f-11-I	双円形	(102)	68	8	焼貝	無	土器	
地床炉-94	14層	f-11-II	楕円形	44	38		焼貝	無	無	
地床炉-95	14層	g-11-I	楕円形	106	88	23	焼貝、暗灰色土	4	無	
地床炉-96	15層	c-13-IV	楕円形	(56)	56	20	焼貝、暗灰褐色土	2	無	
地床炉-97	15層	d-13-I	円形	36	32	12	焼貝、暗灰褐色土	無	無	
地床炉-98	15層	e-13-I	不整形	(120)	68	9	焼貝、暗灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-99	16層	f-23-II	楕円形	80	58		焼貝、灰	無	無	
地床炉-100	17層	g-8-I	円形	64	33	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-101	17層	g-10-I	円形	81	79	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-102	17層	h-11-III	豆形	60	51	5	焼貝	無	無	
地床炉-103	17層	i-11-II	円形	80	80	5	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-104	17層	g-12-I	楕円形	80	(50)	5	焼貝	無	無	
地床炉-105	17層	g-12-II	楕円形	82	(71)	10	焼貝	無	無	
地床炉-106	17層	i-12-I	楕円形	121	92	12	焼貝、茶褐色土、コンクリート状	無	土器	
地床炉-107	17層	e-13-II	楕円形?	(56)	43	3	焼貝、暗灰褐色土	1	無	
地床炉-108	17層	e-13-IV	不整形	130	92	5	焼貝、暗灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-109	17層	g-13-II	不整形	(58)	52	10	焼貝、暗灰褐色土	無	無	
地床炉-110	17層	g-13-II	楕円形?	(23)	22	4	焼貝、明灰褐色土	無	無	
地床炉-111	17層	g-13-IV	楕円形?	(60)	(30)	4	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-112	17層	i-13-I	楕円形	42	37	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-113	17層	i-13-I	円形	46	42	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-114	17層	i-14-I・IV	楕円形	141	52	5	焼貝、黒褐色土、炭	1	無	

遺構番号	層位	地区	平面形	長径 cm	短径 cm	厚さ cm	構造	石	出土遺物	備考
地床炉-115	18層	e-13-Ⅲ	不整形	152	62	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-116	18層	e-13-Ⅲ・Ⅳ	楕円形	138	98	3	焼貝、炭	無	無	
地床炉-117	18層	f-13-Ⅱ	楕円形	62	54	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-118	18層	g-14-Ⅰ	楕円形	102	88	3	焼貝、灰色、コンクリート状	3	無	
地床炉-119	18層	g-14-Ⅰ	楕円形	100	(60)	5	焼貝、暗灰色土、炭化物	無	無	
地床炉-120	18層	i-14-Ⅱ	楕円形	88	70	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-121	18層	d-15-Ⅳ	楕円形	42	38	1	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-122	18層	e-15-Ⅳ	楕円形	37	31	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-123	19層	i-16-Ⅱ	楕円形	70	59	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-124	19層	h-17-Ⅲ	楕円形	(140)	121	7	焼貝、暗灰色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-125	19層	g-20-Ⅱ	楕円形	82	74	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-126	19層	h-20-Ⅳ	楕円形	71	70	7	焼貝、暗褐色土、炭化物	無	無	
地床炉-127	19層	g-21-Ⅰ・Ⅳ	楕円形	97	64	8	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-128	19層	i-21-Ⅱ	楕円形	99	86	5	焼貝、黒褐色土	無	土器	
地床炉-129	21層	g-14-Ⅰ	楕円形	113	82	5	焼貝、炭	無	無	
地床炉-130	21層	j-14-Ⅰ	楕円形	164	135	10	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-131	22層	h-14-Ⅳ	楕円形	52	42	3	焼貝	無	無	
地床炉-132	22層	f-9-Ⅱ・Ⅲ	長楕円形	99	32	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-133	22層	g-11-Ⅱ	円形	51	46		焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-134	22層	g-12-Ⅱ	円形	33	33	2	焼貝	無	土器	
地床炉-135	22層	g-12-Ⅲ	楕円形?	(110)	141	6	焼貝	無	無	
地床炉-136	22層	i-12-Ⅲ	楕円形	79	60	2	焼貝、炭	無	無	
地床炉-137	22層	e-13-Ⅰ	楕円形	66	32	2	焼貝	無	無	
地床炉-138	22層	i-14-Ⅰ	楕円形	64	54	2	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-139	22層	i-16-Ⅱ・Ⅲ	楕円形	82	62	2	焼貝、炭	無	無	
地床炉-140	22層	h-17-Ⅱ	楕円形	(149)	(38)	13	焼貝、暗褐色土	7	土器	
地床炉-141	22層	g-21-Ⅰ・Ⅳ	双円形	106	81		焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-142	22層	g-21-Ⅲ	楕円形	82	52	3	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-143	22層	f-21-Ⅱ・Ⅲ	楕円形	78	36	4	焼貝	無	無	
地床炉-144	22層	g-22-Ⅲ	楕円形	52	42	6	焼貝、黒褐色土	無	土器	
地床炉-145	22層	g-22-Ⅲ	方形	40	39	6	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-146	22層	j-23-Ⅰ	楕円形	91	34		焼貝、灰	無	無	
地床炉-147	22層	e-24-Ⅳ	楕円形	50	36	3	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-148	23層	h-14-Ⅳ	楕円形	74	62	3	焼貝、黒褐色土、炭	3	無	
地床炉-149	23層	i-16-Ⅱ・Ⅲ	円形	134	122	6	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-150	25層	i-21-Ⅱ	楕円形	72	64	2	焼貝、炭	無	土器	
地床炉-151	25層	j-23-Ⅰ	楕円形	72	40	2	焼貝	無	無	
地床炉-152	25層	h-23-Ⅰ	円形	59	59	2	焼貝、灰色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-153	26層	i-16-Ⅲ	楕円形	39	30	10	焼貝、暗灰褐色土	1	土器	
地床炉-154	26層	g-17-Ⅰ	楕円形	86	56	2	焼貝、炭	無	無	
地床炉-155	26層	g-18-Ⅳ	楕円形	56	42	5	焼貝、灰	無	土器	
地床炉-156	26層	j-17-Ⅲ	楕円形	70	60	10	焼貝、明灰褐色土	無	無	
地床炉-157	26層	j-18-Ⅰ・Ⅱ	楕円形	141	121	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-158	27層	g-23-Ⅰ・Ⅳ	楕円形	56	38	5	焼貝、黒褐色土	1	無	
地床炉-159	28層	i-13-Ⅰ・Ⅳ	楕円形	99	64	5	焼貝、灰	無	無	
地床炉-160	28層	i-14-Ⅲ	楕円形	70	61	2	焼貝、炭	無	無	
地床炉-161	28層	h-17-Ⅰ	楕円形	151	90	4	焼貝	無	無	
地床炉-162	28層	h-17-Ⅳ	楕円形	99	73	3	焼貝	無	無	
地床炉-163	28層	i-18-Ⅳ	楕円形	107	88	5	焼貝、明灰褐色土	無	無	
地床炉-164	28層	i-19-Ⅳ	楕円形	59	48	2	焼貝、炭	無	無	
地床炉-165	28層	g-21-Ⅰ	楕円形	96	68	8	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-166	28層	i-21-Ⅱ	楕円形	70	44	2	焼貝、黒褐色土	無	無	
地床炉-167	28層	i-21-Ⅲ	楕円形	132	61	5	焼貝、暗褐色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-168	28層	k-21-Ⅱ	楕円形	101	71	2	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-169	28層	f-22-Ⅲ	円形	81	80	3	焼貝、黒褐色土	無	土器	
地床炉-170	28層	g-22-Ⅰ	楕円形	86	72	4	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-171	28層	i-23-Ⅳ	楕円形	80	68	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-172	28層	g-23-Ⅰ・Ⅱ	楕円形	58	48	8	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	無	無	

遺構番号	層位	地区	平面形	長径 cm	短径 cm	厚さ cm	構造	石	出土遺物	備考
地床炉-173	30層	h-9-Ⅳ	楕円形	60	52	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-174	30層	g-10-Ⅰ	豆形	50	32	2	焼貝	無	無	
地床炉-175	30層	i-10-Ⅳ	楕円形	90	72	3	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-176	34層	g-10-Ⅰ	楕円形	150	112	2	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-177	34層	h-10-Ⅰ	円形	132	124	5	焼貝、茶褐色土	無	土器	
地床炉-178	34層	i-10-Ⅱ	楕円形?	(160)	(62)	8	焼貝、暗灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-179	34層	g-11-Ⅱ	円形	50	46	3	焼貝	無	無	
地床炉-180	34層	h-11-Ⅲ	楕円形	126	112	5	焼貝、暗褐色土	無	無	
地床炉-181	34層	g-12-Ⅱ	楕円形	130	96	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-182	34層	f-13-Ⅳ	楕円形	68	40	2	焼貝、灰褐色土	無	無	
地床炉-183	34層	g-13-Ⅰ	楕円形	32	20	7	焼貝、灰褐色土	無	無	
地床炉-184	34層	g-13-Ⅰ	楕円形	(46)	(60)	2	焼貝、灰褐色土	1	無	
地床炉-185	34層	f-13-Ⅳ	楕円形	72	68	2	焼貝、暗灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-186	34層	g-13-Ⅰ	楕円形?	(70)	70	12	焼貝、暗灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-187	35層	g-13-Ⅰ	楕円形	62	(40)	2	焼貝、灰	無	無	
地床炉-188	36層	h-11-Ⅱ	楕円形?	(70)	(40)	12	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-189	36層	i-11-Ⅱ	楕円形	128	82	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-190	36層	h-14-Ⅳ	楕円形	48	38	1	焼貝、灰	無	無	
地床炉-191	37層	i-12-Ⅰ	楕円形	95	81	2	焼貝、灰、炭	無	無	
地床炉-192	38層	h-10-Ⅳ	円形?	46	30	7	焼貝、灰	無	無	
地床炉-193	38層	g-11-Ⅲ	楕円形	201	89	3	焼貝、茶褐色	無	無	
地床炉-194	38層	g-12-Ⅱ	楕円形	105	96	10	焼貝、灰褐色土、コンクリート状	無	無	
地床炉-195	38層	g-13-Ⅰ	楕円形	(86)	(69)		焼貝	無	無	
地床炉-196	38層	j-13-Ⅱ	楕円形	98	80	5	焼貝、茶褐色土	無	土器	
地床炉-197	39層	i-10-Ⅲ	楕円形	192	(108)	6	焼貝	無	無	
地床炉-198	39層	i-11-Ⅲ	楕円形	199	121		焼貝、茶褐色土、炭	無	無	
地床炉-199	39層	j-12-Ⅰ	楕円形	98	80	20	焼貝、灰	無	無	
地床炉-200	40層	j-11-Ⅰ	楕円形	98	81	5	焼貝、暗灰褐色土	無	無	
地床炉-201	40層	j-11-Ⅰ・Ⅱ	楕円形	96	74	2	焼貝、茶褐色土	無	土器	
地床炉-202	40層	j-12-Ⅱ	楕円形	88	77	8	焼貝、炭	無	無	
地床炉-203	40層	j-13-Ⅱ	楕円形	96	62	10	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-204	42層	j-14-Ⅰ	楕円形	44	33	4	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-205	42層	j-14-Ⅲ・Ⅳ	楕円形	82	70	5	焼貝、茶褐色土	無	無	
地床炉-206	42層	j-16-Ⅲ	楕円形	(118)	(38)	5	焼貝、明灰褐色土、炭	無	無	
地床炉-207	42層	i-6-Ⅰ	凸形	108	88	5	焼貝	2	無	
地床炉-208	貝塚上	f-12-Ⅰ	楕円形	74	58	3	焼貝、コンクリート状	無	無	
地床炉-209	貝塚上	j-12-Ⅰ	不整形	170	142	4	焼貝、灰、コンクリート状	無	無	
地床炉-210	貝塚上	h-15-Ⅰ	不整形	212	199	8	焼貝、灰、炭、コンクリート状	無	無	
地床炉-211	貝塚上	g-17・18	楕円形	238	152	3	焼貝	無	無	
地床炉-212	不明	g-15-Ⅰ	楕円形	34	26	2	焼貝	無	無	
地床炉-213	不明	g-19-Ⅱ	楕円形	122	112	6	焼貝、灰	無	無	
地床炉-214	不明	e-21-Ⅰ	楕円形	61	40	7	焼貝、黒褐色土、コンクリート状	無	無	
敷石炉-1	2層	h~k-14~16	不整形	484	298		焼礫	多数	土器	
敷石炉-2	11層	d-8-Ⅲ	楕円形	84	(42)		焼礫	67	無	
敷石炉-3	14層	g-8-Ⅰ	楕円形	68	66		焼礫、炭	38	無	
敷石炉-4	14層	g-8-Ⅱ	楕円形	40	31		焼礫、灰、炭	17	無	
敷石炉-5	14層	e-10-Ⅳ	楕円形	101	44		焼礫、灰、炭	20	無	
敷石炉-6	14層	g-10-Ⅲ	楕円形	81	59		焼礫、茶褐色土、炭	46	無	
敷石炉-7	14層	g-10-Ⅲ	楕円形	82	71		焼礫、茶褐色土、炭	54	無	
敷石炉-8	14層	e-11-Ⅳ	方形	94	82	9	焼礫、炭化物	多数	土器	
敷石炉-9	39層	j-12-Ⅲ	楕円形	288	141		焼礫、灰、炭	68	無	

4. 弥生時代以降の遺構

内田貝塚の弥生時代以降の特徴として、弥生時代中期末から後期初頭の限られた時期と、古墳時代前期前半の限られた時期に壺を中心とした何らかの祭祀が行われた可能性が想定され、近接する大西貝塚、水神第2貝塚と同様な傾向を示している。

A. 弥生時代の遺構

弥生時代後期の土壌が3基確認されている。出土遺物はいずれも弥生時代後期の壺であり、何らかの祭祀行為に伴って埋納されたものと考えられる。

S K-48 (第58図、第111図9～13、第112図14)

S K-48はI-13区にある長軸1.8m、短軸1.0m、深さ0.3m不整形の土壌である。遺物は弥生中期末の壺胴部(9～14)が出土している。

S X-252 (第58・59図、第115図125、写真17-1・2)

S X-252はH-14区にある平面長楕円形、断面皿状の土壌である。規模は、長軸1.95m、短軸0.75m、深さ0.2m、主軸方位はN-75°-Eである。遺物は、弥生後期の広口壺(125)が底面より0.27mほど上方で、横位で出土している。土器の周りからは数点の礫が出土しており(写真17-2)、被熱痕跡のある自然礫(124)も見られる。広口壺はほぼ完形で口縁部の一部が打ち欠かれており、何らかの祭祀行為に伴うものと考えられる。土壌内にはやや粘質の淡灰色土(3層)が、この上に混土貝層(2層)がある。遺物は遺構検出面よりかなり浮いた状態であり、土壌に伴わない可能性もある。

S X-253 (第58・59図、第116図126、写真18-1)

S X-253はI-14区にある平面楕円形、断面皿状の土壌である。規模は、長軸1.38m、短軸0.88m、深さ0.14m、主軸方位はN-55°-Eである。また、この底面の一部より、ピットを検出した。このピットは、遺存深度0.17mを有し、断面形状はU字状を呈する。

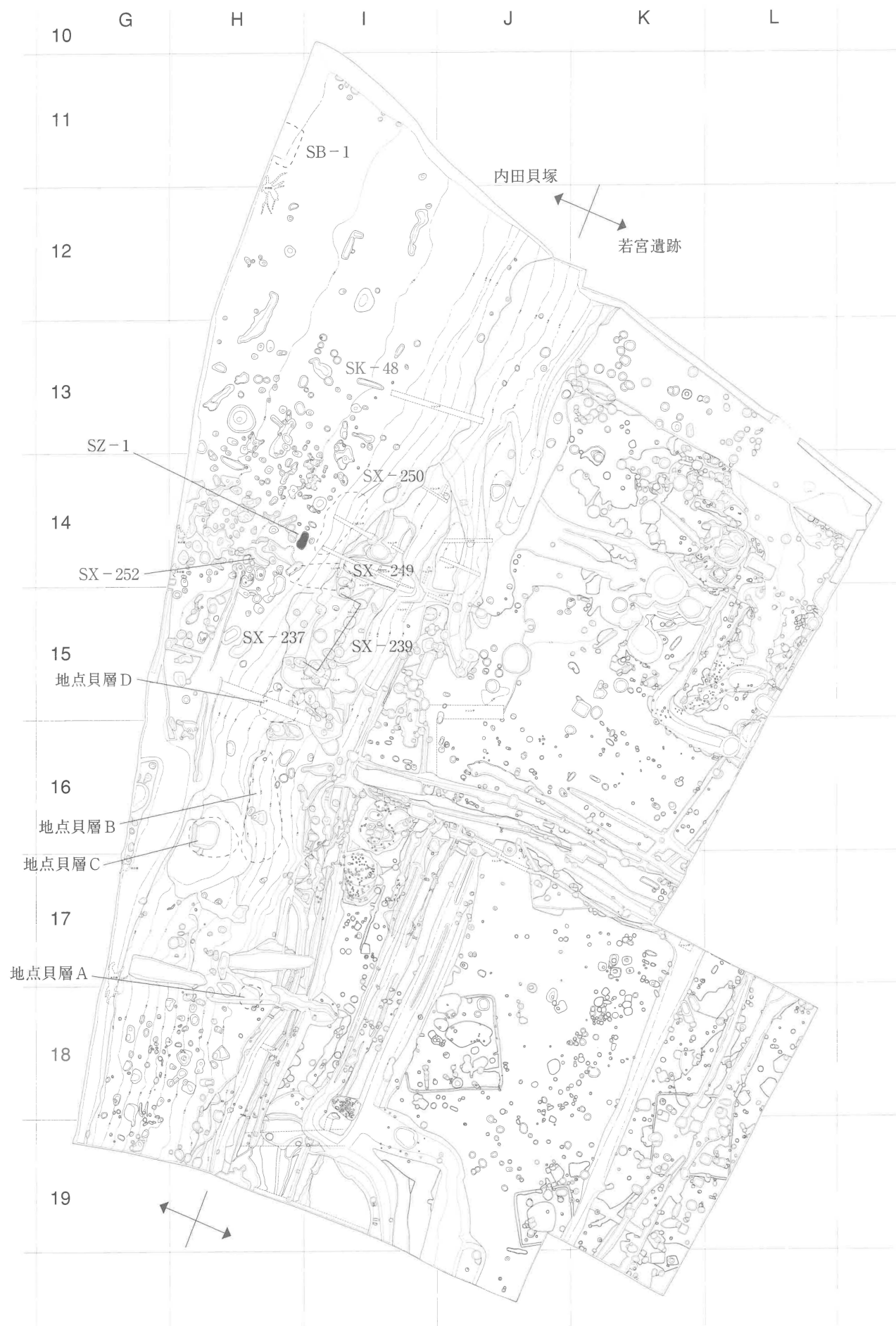
遺物は、弥生中期末の大型の広口壺が横位で出土している。胴部の一部が欠損しているが土器棺墓の可能性もある。

内田貝塚から出土した弥生時代の壺の中には焼成後胴部穿孔されたもの(9・316)や口縁部の一部を打ち欠いたもの(125)が見られることから、何らかの祭祀が行われた可能性が高い。出土状況では、土壌に伴うものも見られるが、いずれも小型の土壌であり台地斜面の下部にあるので、土壌墓の可能性はあるが方形周溝墓ではない。

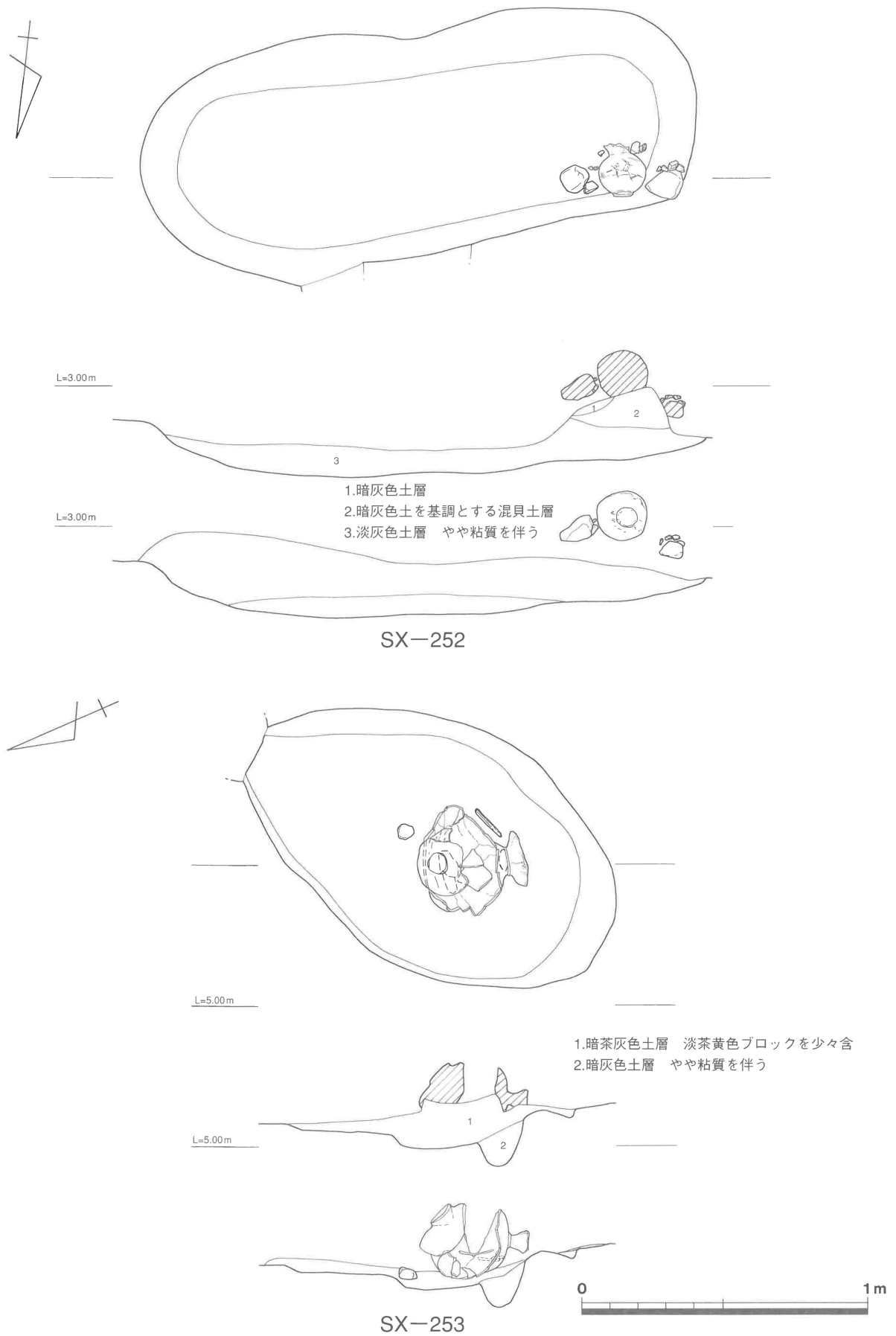
B. 古墳時代の遺構

古墳時代の遺構としては、貝塚46層(第60図)、竪穴住居(S B-1)、塀状遺構(S H-1)、井戸(S X-5)、廃棄土壌(S K-4・S X-4、S X-237・238・250)、塀状遺構(239)溝状堆積物(249)がある。

S B-1 (第58・61図)



第58図 遺構全体図 (1/400)



第59図 SX-252・253遺物出土状況図 (1/20)



第60図 古墳時代貝層平面図 (1/300)

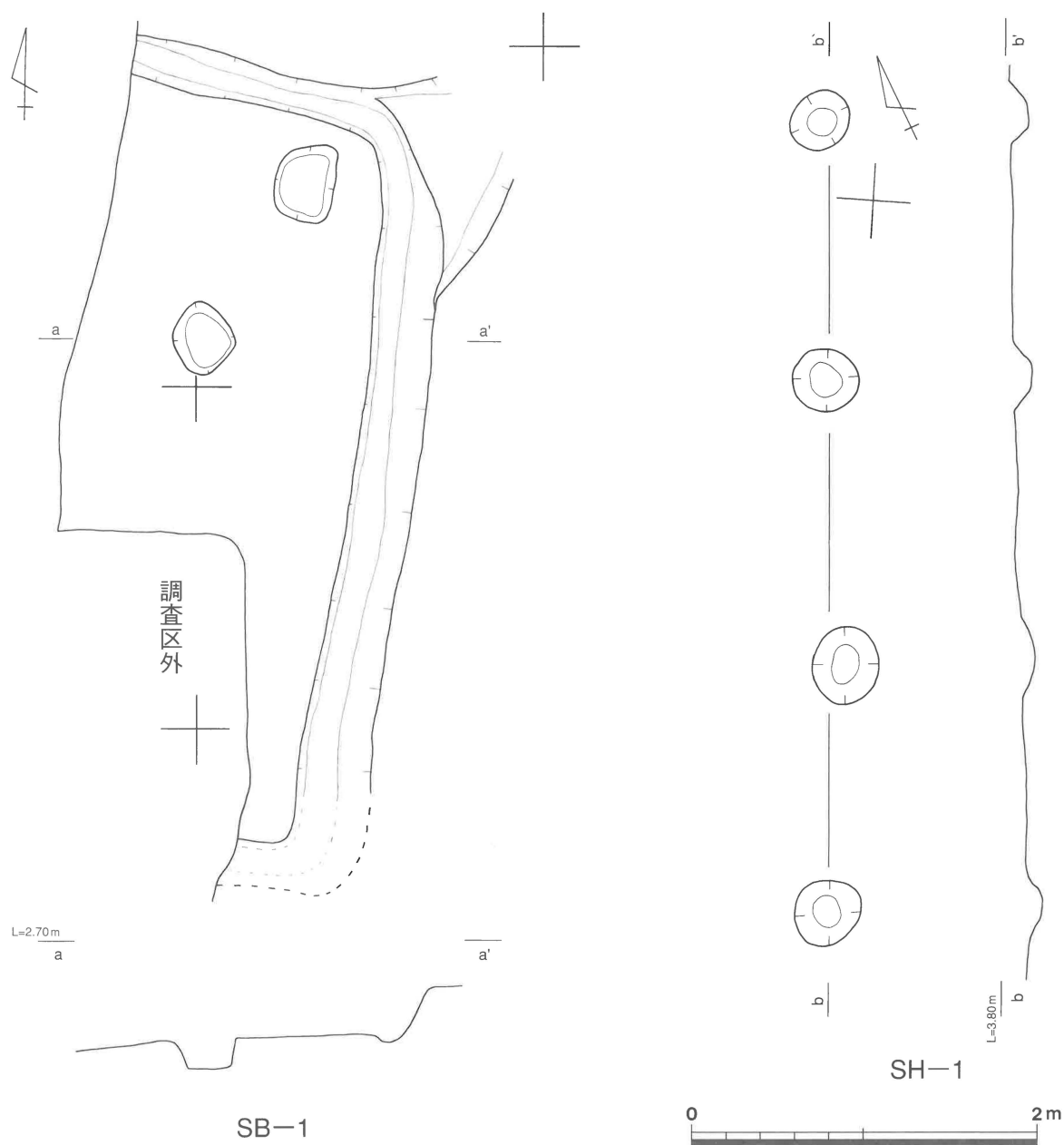
SB-1は貝塚発掘区のc-20・21区で確認された方形の竪穴住居である。発掘区の隅にあるため全形がはっきりしないが、支柱穴は4本で、一辺が5m程度と考えられる。

SH-1（第61図）

SH-1は貝塚発掘区のf-11～14区で確認された掘立柱の塀である。柱穴は4本確認され、直径は25～30cm程度、柱間は140～170cm程度である。

SK-4・SX-4（第111図5）

SK-4はH-17区で1×1.5mほどの土壇と認識されたが、掘り進めるとG-17区のSX-4と一体となった。SK-4・SX-4は人為的な遺構ではなく、段丘下部の自然の落ち込みと考えられる。古墳時代前期の高坏が出土し、SK-4とSX-4から出土した破片（5）が接合している。



第61図 SB-1、SH-1平面図（1/40）

S X-5（第58・62図、第114・115図69～109、写真20・21）

S X-5はH-16区にある大型の土壙である。台地斜面下端部で台地を削り落とすように横方向に掘り進め、直径約8mの半円形の穴を掘り、そのほぼ中央に一辺2mほどの方形の堀込が造られている。

S X-5は台地からの湧水地点に造られており、発掘中も内部の方形の穴には水が溜まっていた。いわゆる横井戸である。台地上の若宮遺跡の7世紀の集落に伴うものと考えられる。

出土遺物は、下層から7世紀初頭・後半の須恵器・土師器、中層から平安時代の灰釉陶器、上層からは中世の伊勢型鍋が出土しており、6世紀後半頃に井戸として造られたものが、廃棄後ごみ穴として再利用されたと考えられる。

S X-237（第58図、第112・113図15～50）

S X-237はH-15区で確認された4m×2.5mほどの不整形の土壙である。7世紀後半代の須恵器・土師器が出土している。

S X-238（第58図、第113図51・52）

S X-238はI-15区で確認された3.5m×2mほどの不整形の土壙である。S X-239と重なっており、出土遺物からはほぼ同時期の7世紀代の遺構と考えられる。

S X-239（第58・63図、第113図53、写真18-2・19-1・2）

S X-239はI-15区で確認された4間×1間以上のコの字形の掘立柱の塀状遺構である。柱穴の直径は60cm程度、柱間は100cm程度である。出土遺物はS X-238と類似した土師器坏が出土しているので7世紀と考えられるが、柱穴を掘る段階でS X-238の遺物が混入した可能性もある。

S X-249（第58図、第115図114～117）

S X-249はH-15～I-14区で確認された長さ約25m、幅0.5～4mほどの溝状の堆積物である。台地端部から傾斜がゆるくなるところに溜まっている堆積物のうち、上層をS X-248、下層をS X-249とした。S X-249は土師器甕（114）・二重口縁壺（115）・台付甕（116）・坏（117）から4世紀代の堆積物と考えられる。

S X-250（第58・64図、第115図118～123、写真22・23-1）

調査区北半部の西側（I-14区）で検出した焼土と集石を伴う遺構である。なお、S X-250南側部分については、南端部に土層観察用ベルトを任意に設定し、これより南側については包含層と認識して掘削を行ったため、詳細は不明であるがさらに広がっていたと考えられる。

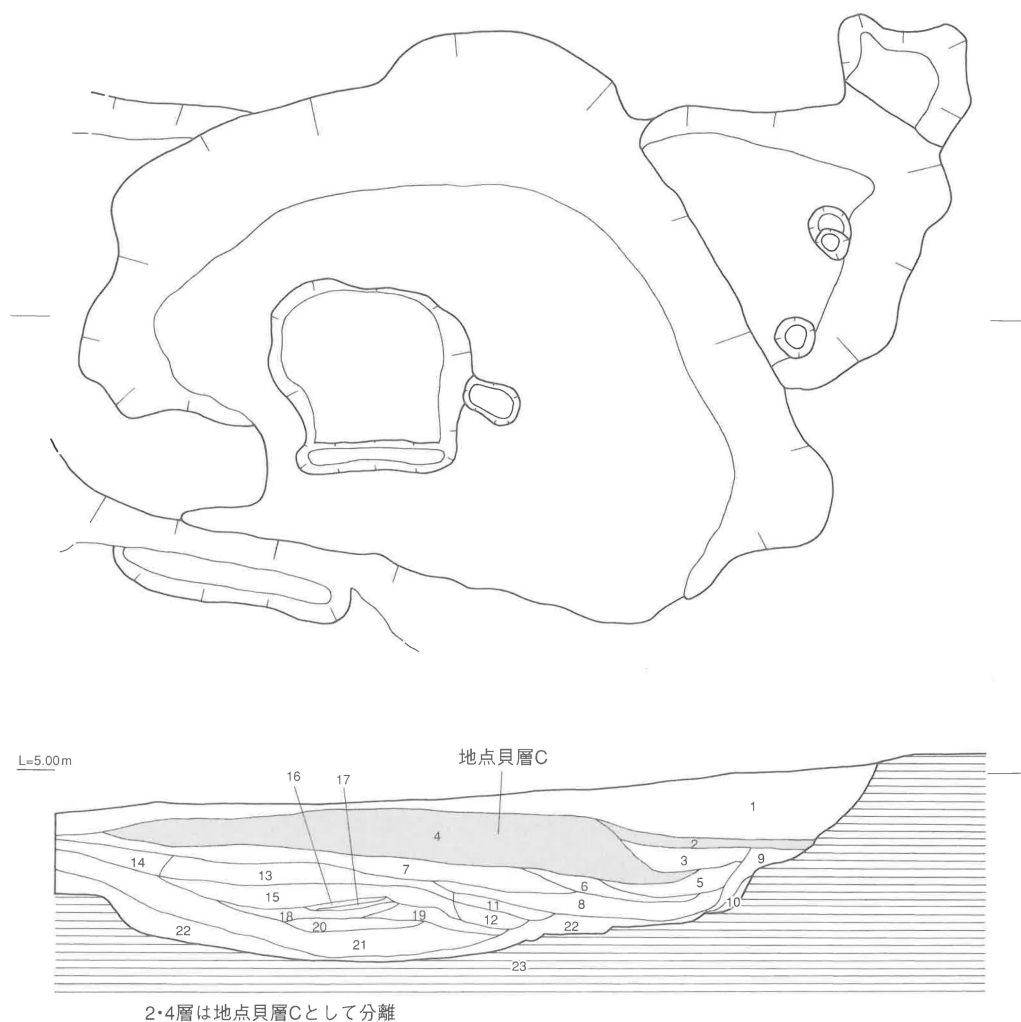
S X-250は現存部で長軸（南北方向）4.3m、端軸（東西方向）2.0m、主軸方位はN-30°-Eである。堆積埋土の状況は、上・下部層に大別できる。なお、今回の報告では、この上・下部層のさらに上にある堆積層、及びその出土遺物も掲載している。

まず、S X-250の上・下部層の上に存在する堆積層についてである。この堆積層はS X-250の上部層を覆うような形で存在し、先述した土層観察用ベルトより南側にも展開していたようである。遺存深度は最深部で0.24mを有し、S X-248と非常に酷似した埋土を呈している。この堆積層からは被熱した拳大、及び拳2個大程の礫石と複数の遺物が出土している。図示した遺物4点は、土師器の甕の胴部（122）、須恵器の坏蓋（118）、須恵器の高坏（119・120）である。須恵器の帰属時期については7C中頃～後半に比定され、この堆積層は当該時期の所産であると言えよう。しかし、分布状況及

び堆積層が存在する層位等を考慮すれば、SX-248と同一埋土である可能性も否定できない。

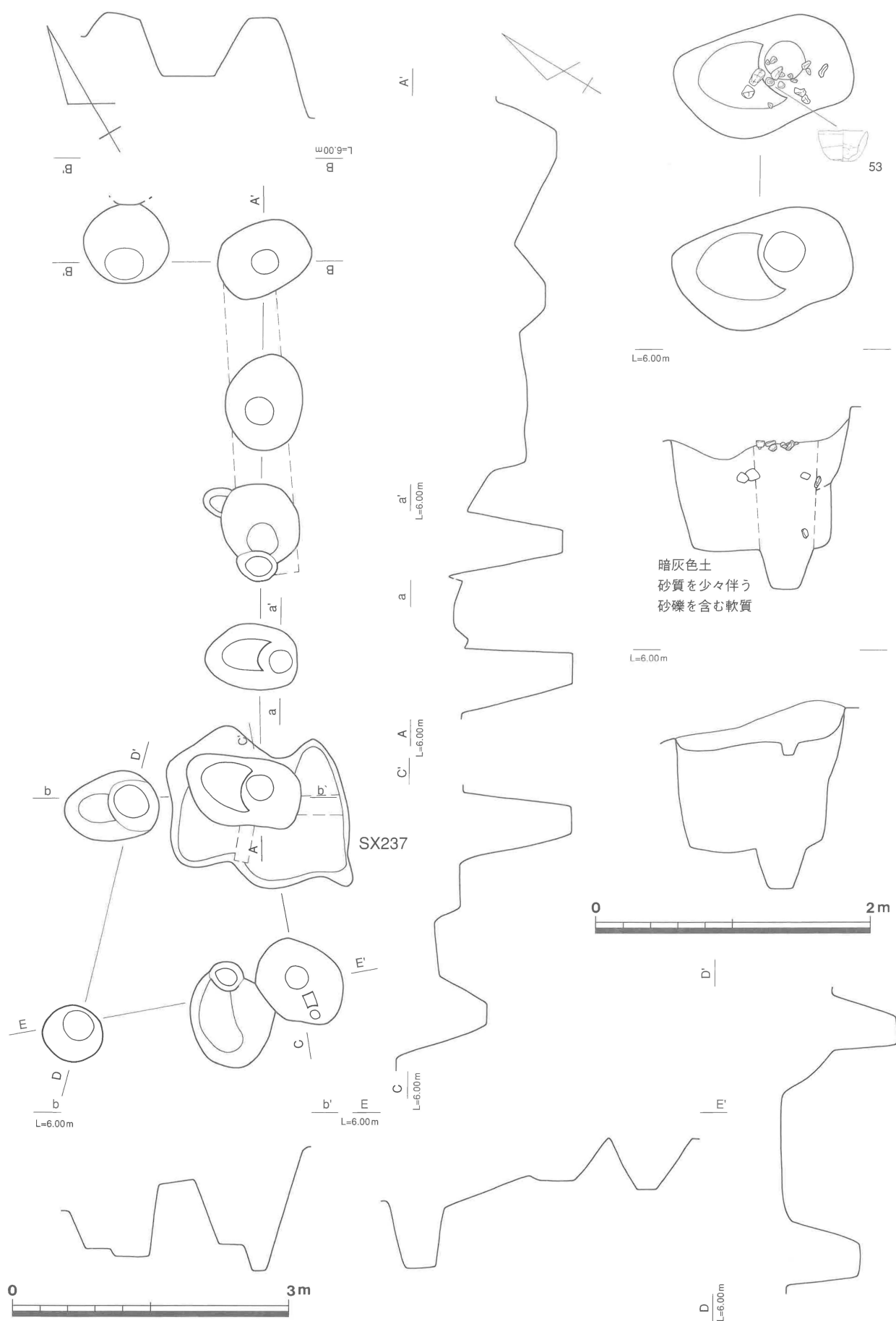
次に、SX-250の上・下部層についてである。まず、上部層については、焼土、集石、暗灰色を基調とするやや軟質な堆積埋土により構成されている。焼土の分布範囲はSX-250のほぼ中央部で、3cm前後のブロック状のものを多く内包し、若干炭化物を内包する。集石の分布範囲は焼土の分布範囲の片側で焼土に覆われる形でまとまって認められる。集石は3cm前後の円形・もしくは楕円形のもので構成されており、被熱したものも認められる。下部層については暗灰色を基調とする硬質で締りを有する層である。なお、この上・下部層から遺物は出土していない。

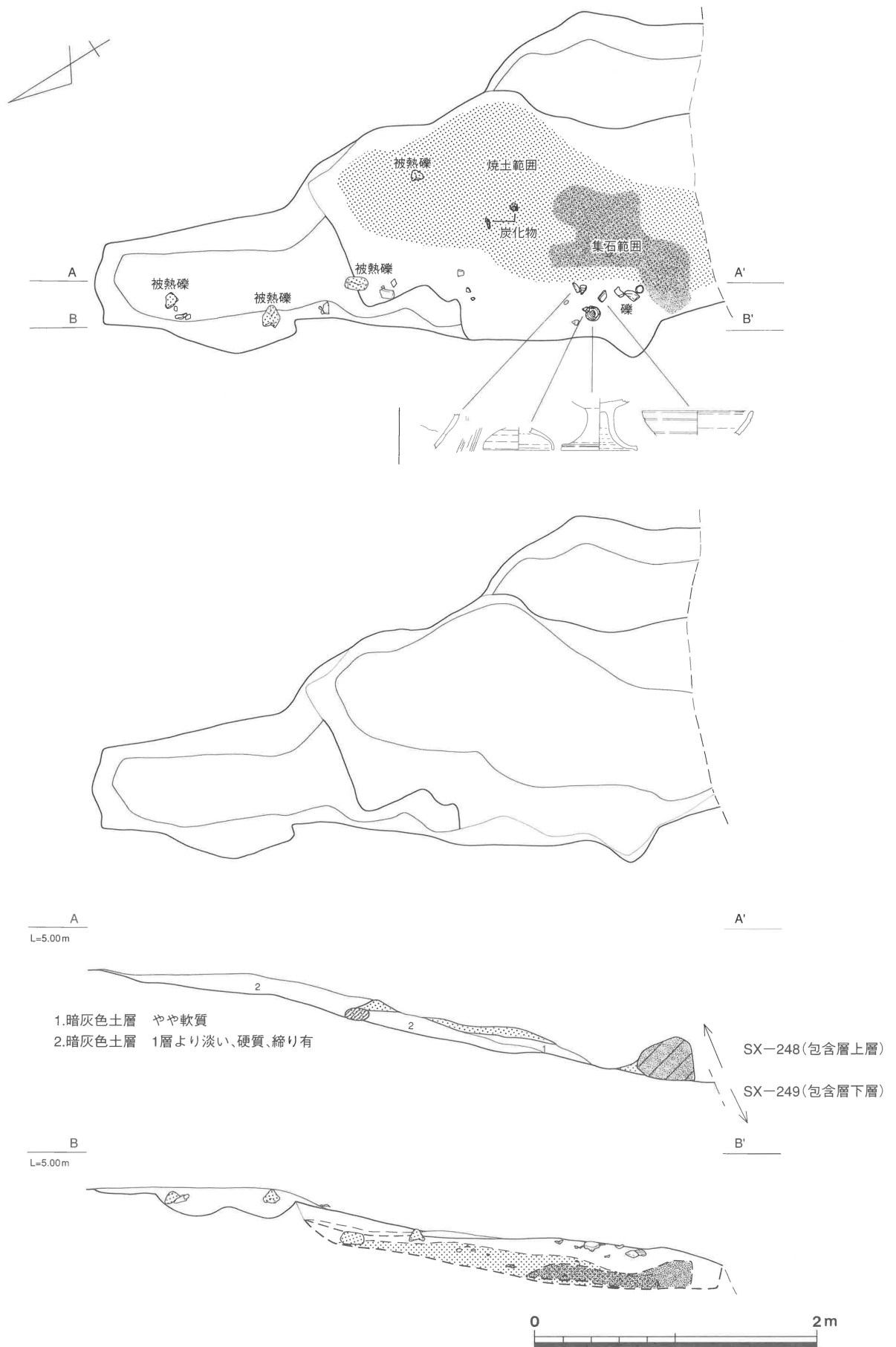
遺物が出土していないのではっきりとはわからないが、上部層に関しては4号窯と併存していた可能性も考えられる。そうであれば、SX-250は4号窯の灰原の一部であり、4号窯で埴輪を焼成する際の焼土、及び礫を廃棄した可能性が想定できる。



- | | | | |
|----------------------|------------|-----------------|-----------------|
| 1. 茶褐色砂質土層 | 7. 暗灰色砂礫層 | 13. 暗茶褐色砂礫層 | 19. 灰色砂層 |
| 2. ハマグリ破砕貝層(茶褐色土混ざる) | 8. 黒褐色砂礫層 | 14. 暗灰褐色砂礫層 | 20. 灰色砂礫層 |
| 3. 淡茶褐色砂礫層 | 9. 暗茶褐色砂礫層 | 15. 茶褐色砂礫層 | 21. 黒褐色砂礫層 |
| 4. ハマグリ純貝層(地点貝層C) | 10. 灰色砂層 | 16. 黒色砂層 | 22. 灰色砂礫層 |
| 5. 暗灰褐色砂質土層 | 11. 暗灰色砂礫層 | 17. 黒色砂層(やや明るい) | 23. 地山(黄褐色粘質土層) |
| 6. 暗灰褐色砂礫層 | 12. 灰色砂礫層 | 18. 黒色砂層(礫混ざる) | |

第62図 SX-5 平面・断面図 (1/80)





第64図 SX-250平面・断面図 (1/40)

C. 古代・中世の遺構

古代・中世の遺構としては、溝状堆積物（S X-248）、地点貝層（A～E・G～J）、古代以降として土墳墓（S Z-1）がある。

S X-248（第114図65～68）

S X-248はH-15～I-14区で確認された長さ約25m、幅0.5～4 mほどの溝状の堆積物である。台地端部から傾斜がゆるくなる場所に溜まっている堆積物のうち、上層をS X-248、下層をS X-249とした。中世陶器碗（65・66）、古代の須恵器無台碗（67）、縄文時代の匙形土製品（68）が出土していることから、S X-248は中世の堆積層と考えられる。

S Z-1（第66図、写真23-2）

S Z-1はH-14区（貝塚発掘区のi-8区）で確認された土墳墓である。足元的一端を欠くが、長径約2.6m、短径1.2m、深さ0.15mほどの楕円形の土墳である。遺体は伸展葬で頭部を北にして埋葬されていた。土墳は縄文時代の貝塚の末端で確認され、この貝層を掘り込んで構築されている。埋土は黒色土である。出土遺物はなく時期が確定できないが、古墳時代以降の可能性が高い。

地点貝層A（第58・66図）

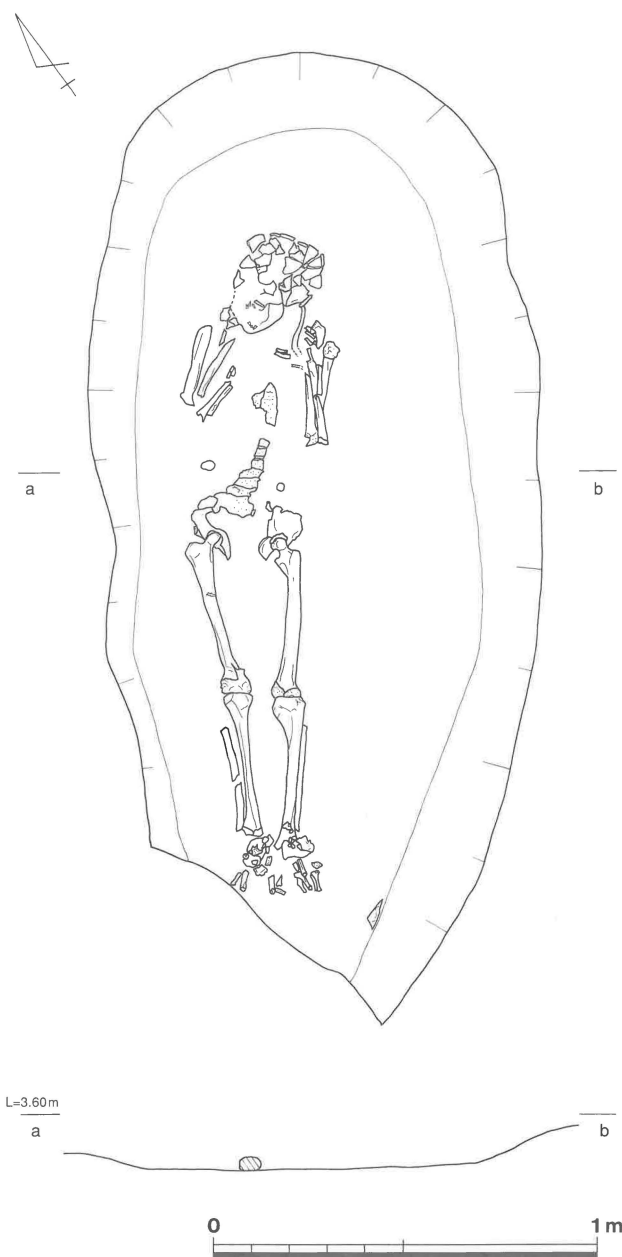
H-18地区で確認した不整形の貝層である。規模は長軸3 m、端軸2 m、厚さは最大で約0.3m程であり、1層の貝層により構成される。出土遺物は無い。

地点貝層B（第58・66図）

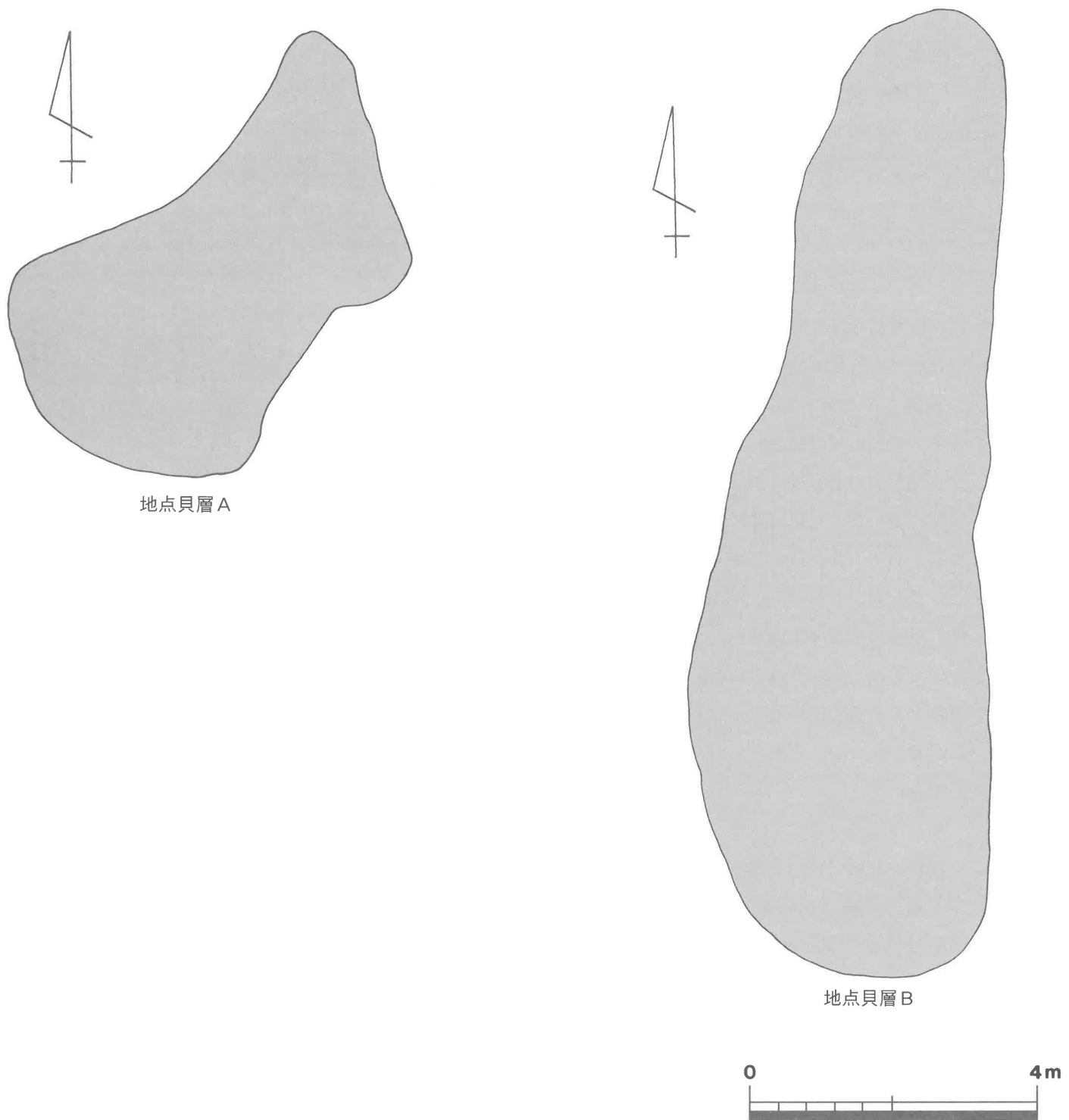
H-16地区で確認した不整形の貝層である。規模は長軸7 m、端軸2 m、厚さは最大で約0.3m程であり、1層の貝層により構成される。出土遺物は須恵器・甕が2点出土している。

地点貝層C（第58図、第115図110～113）

H16地区のS X-5に堆積した層の



第65図 S Z-1人骨出土状況図（1/20）

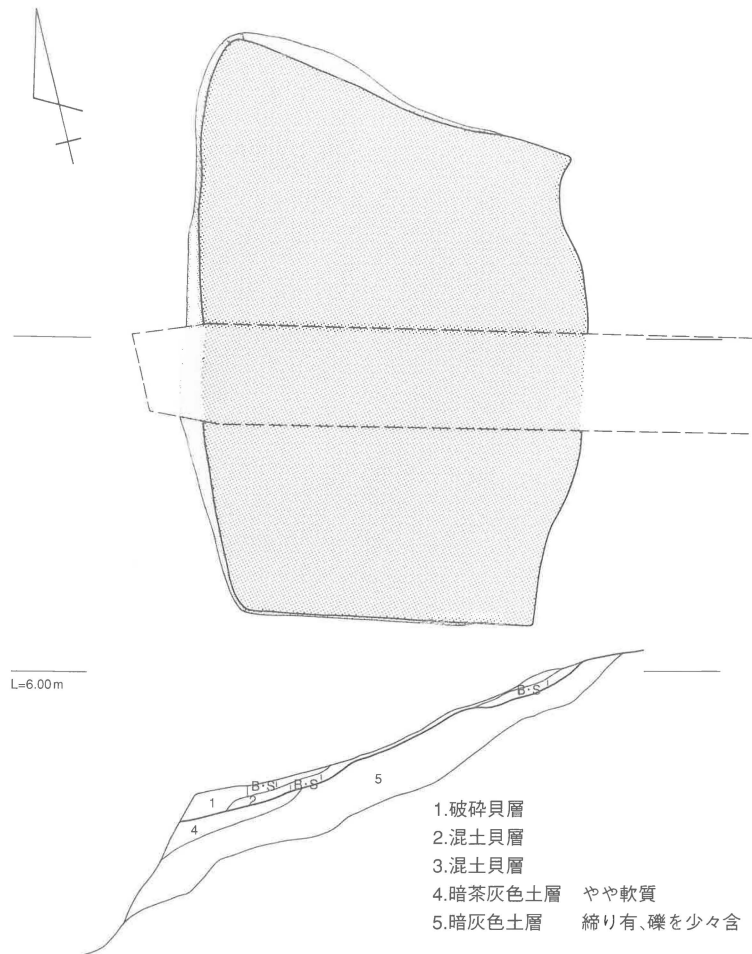


第66図 地点貝層A・B平面図（1/80）

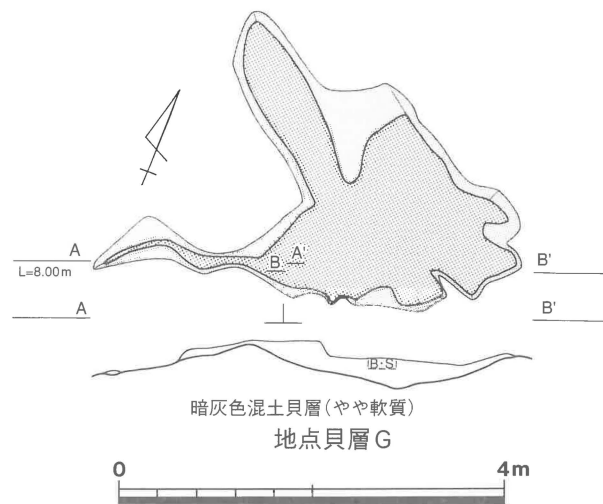
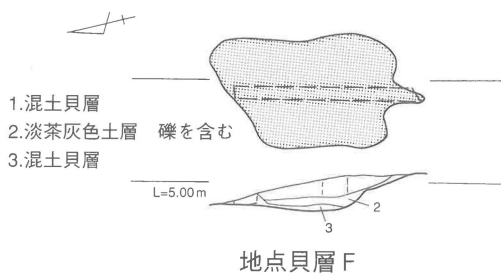
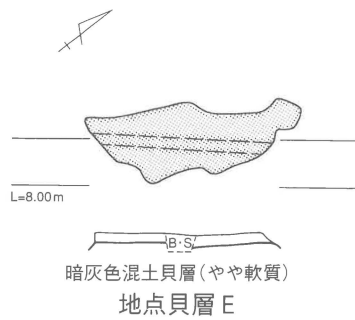
うちの貝層（2・4層）である。SX-5廃絶後に廃棄土壌として転用されたところに堆積したものと考えられる。規模は長軸7m、端軸4m、深さ0.5m程度で、11世紀代の灰釉陶器（110）、中世陶器の鉢（111）、土師器の鉢（112）、伊勢型鍋（113）が出土している。

地点貝層D（第58・67図、第116・117図140～151、写真24-2）

H15・16地区で確認した貝層である。規模は長軸5.4m、端軸4.0m、厚さ0.3mを有し、3層の貝層に

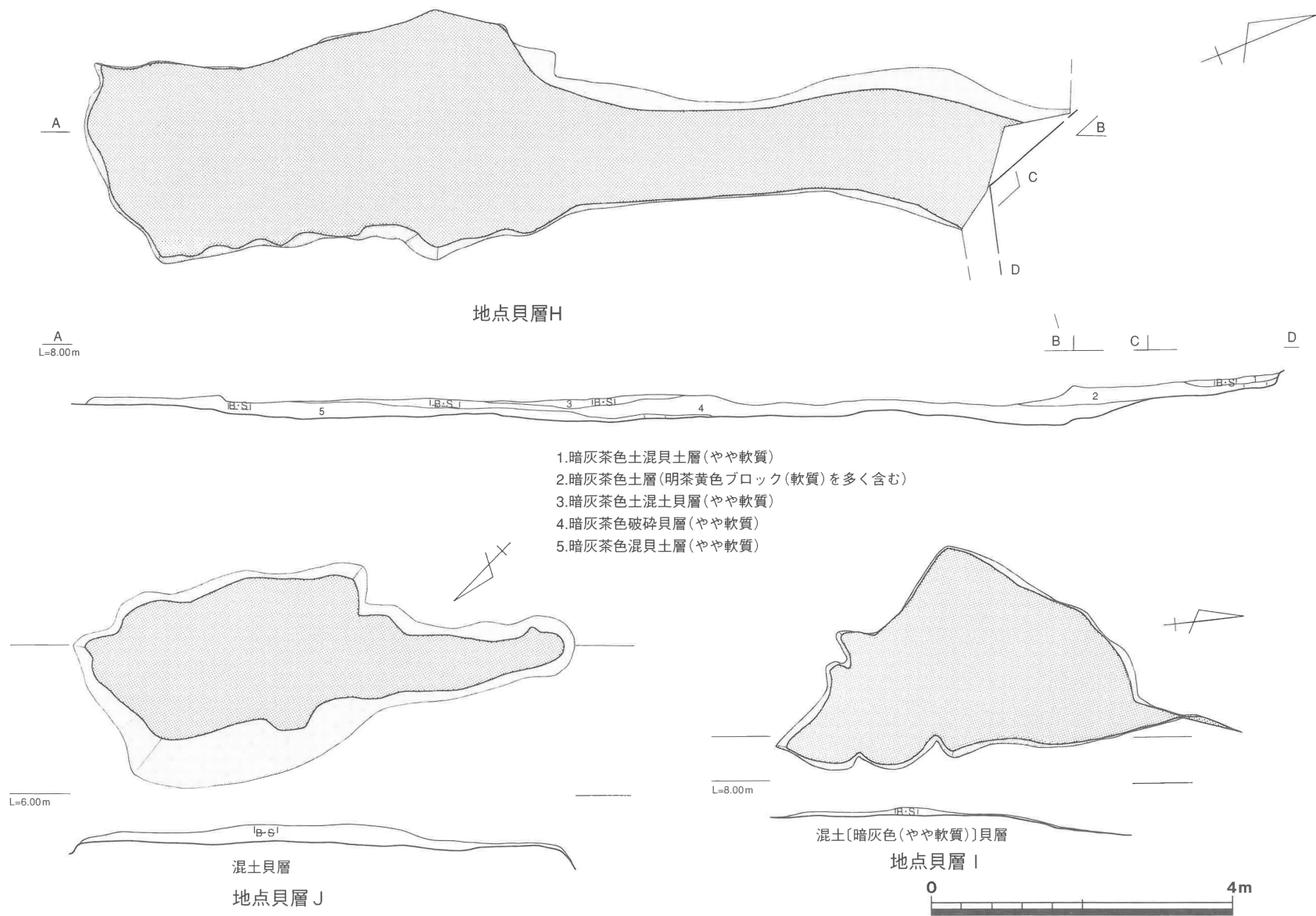


地点貝層D



第67図 地点貝層C～G平面・断面図(1/80)

第68図 地点貝層H～J平面・断面図 (1/80)



より構成される。出土遺物は図示したもの以外に戦国時代の土器が出土している。

地点貝層 E (67図、写真25-1)

I14・15地区で確認した貝層である。規模は長軸2.0m、端軸0.7m、厚さ0.1mを有し、混土貝層の単一層である。土師器の小片1点が出土しているが時期は不明である。

地点貝層 G (67図、写真26-1)

IJ14地区で確認した貝層である。規模は長軸4.1m、端軸3.4m、厚さ0.5mを有する混土貝層の単一層である。出土遺物は内耳鍋が出土しているところから、中世後期と考えられる。

地点貝層 H (68図、第117図154、写真26-2)

JK12・J13地区で確認した貝層である。規模は長軸12.0m、端軸3.1m、厚さ0.4mを有し、5層の貝層により構成される。出土遺物は、O-53段階の灰釉陶器碗(154)の底部が認められた。

地点貝層 I (68図、写真27-1)

J13・14地区で確認した貝層である。規模は長軸5.3m、端軸2.7m、厚さ0.1mを有する混土貝層の単一層である。出土遺物は須恵器、土師器、常滑産の摺鉢があり、中世以降のものと考えられる。

地点貝層 J (68図、写真27-2)

IJ13・14地区で確認した貝層である。規模は長軸6.5m、端軸2.0m、厚さ0.2mを有する混土貝層の単一層である。出土遺物は縄文土器が5点出土しているが、時期は不明である。

地点貝層は、いずれも古墳時代の貝塚の上から検出されており、これ以後のものである。

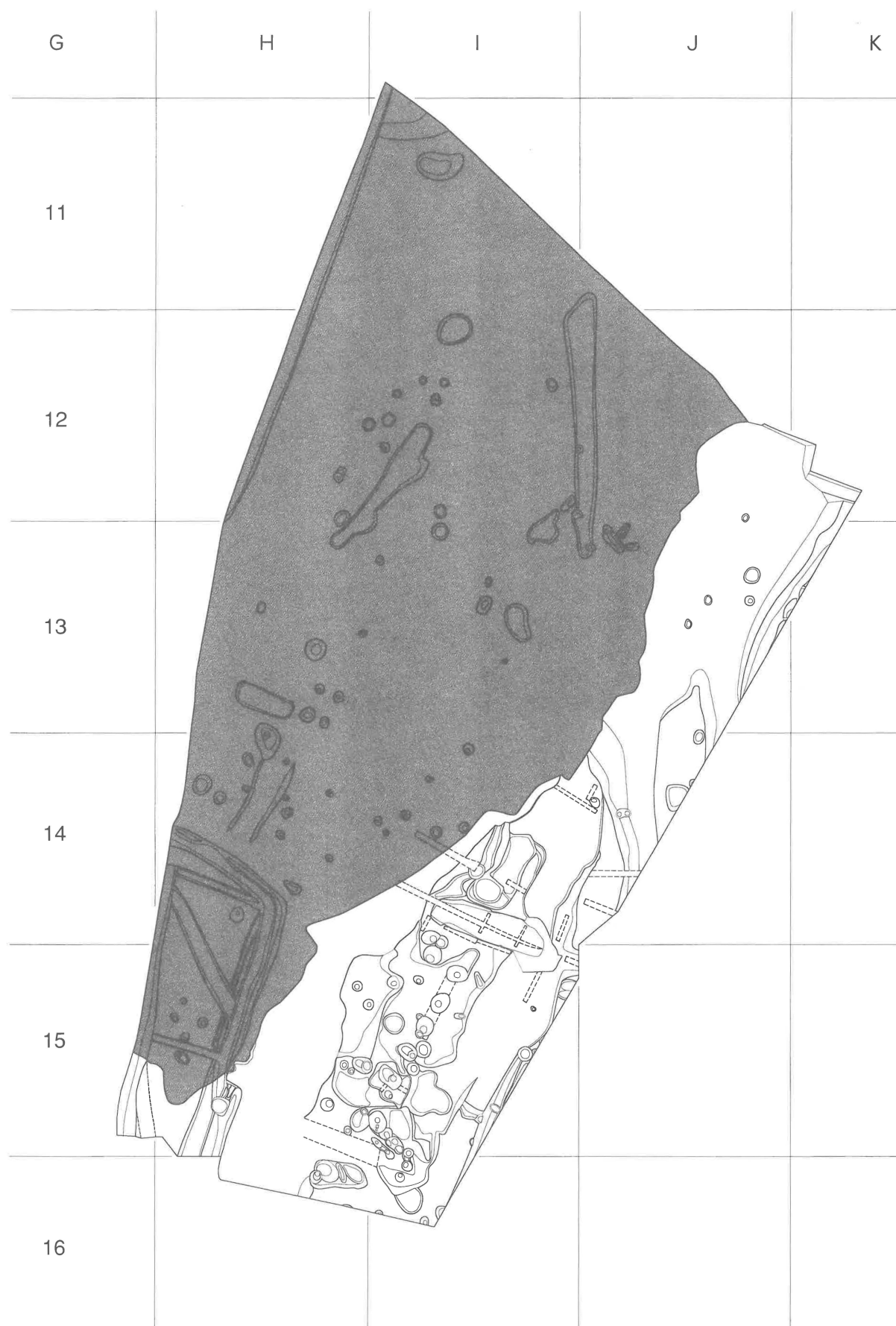
D. 近世の遺構

近世の遺構としては、貝塚48層(第69図)、地点貝層Fがある。

貝塚48層は、縄文・古墳時代の貝層を広く覆うように堆積した貝層である。貝塚の各層に関しては、第3章貝塚の構造2. 貝塚の層序及び様相に示してある。出土した遺物は近世初頭から近代までであり、台地斜面下部の貝塚上が近世以降の牟呂坂津地区の集落の継続的なゴミ捨て場として使用されてきたものと考えられる。

地点貝層 F (68図、第117図152・153、写真25-2)

HI15地区で確認した貝層である。規模は長軸2.0m、端軸1.1m、厚さ0.3mを有し、3層の貝層、及び堆積土により構成される。出土遺物は、7C中頃～後半に比定される須恵器の坏蓋(152)、近世の常滑窯産の火鉢の口縁部(153)がある。



第69図 近世貝層平面図 (1/300)